

平成27年度

日本財団助成

発達障害支援スーパーバイザー養成研修

# 事業実施報告書

平成28年3月

一般社団法人 日本自閉症協会  
全日本自閉症支援者協会

# 目 次

## 巻頭言

全日本自閉症支援者協会 副会長 五十嵐康郎 .....	1
-----------------------------	---

1. 研修スケジュール .....	4
-------------------	---

## 2. 研修内容（集合研修報告）

### 【前期集合研修】

#### 研修第1日目

研修①：「自閉症支援の基礎となるもの」 .....	6
---------------------------	---

全日本自閉症支援者協会 副会長 五十嵐康郎  
報告者 武山弥生（一般社団法人 シーズ発達研究所）

研修②：対談「特別支援教育の課題と展望」 .....	8
----------------------------	---

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 田中裕一  
日本自閉症スペクトラム学会 事務局長 寺山千代子  
報告者 柴田博史（大阪市立田川小学校）

#### 研修第2日目

研修③：「発達障害福祉行政の展望」 .....	10
-------------------------	----

厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰正文  
報告者 藤井美紀子（兵庫県社会福祉事業団 三木精愛園）

研修④：「発達障害の特性理解」 .....	12
-----------------------	----

日本発達障害ネットワーク 理事長 市川宏伸  
報告者 岩井雄希（社会福祉法人 美しの森 障害者支援施設 虹の里）

研修⑤：「親として専門家に期待すること」 .....	13
----------------------------	----

日本自閉症協会（保護者） 理事 今井忠  
弘済学園 看護師 黒澤晃子  
報告者 岩井雄希（社会福祉法人 美しの森 障害者支援施設 虹の里）

研修⑥：「TEACCH アプローチの統合的な考え方：構造化による支援のパラドックス」 .....	14
--	----

前フェイエットビル TEACCH センター長 スティーブ・クルーパ 訳者：田中恭子  
報告者 武山弥生（一般社団法人 シーズ発達研究所）

### 研修第3日目

- 研修⑦：「発達障害支援の現状と課題」 ..... 16  
発達障害者支援センター全国連絡協議会 副会長 和田康宏  
報告者 柴田博史（大阪市立田川小学校）
- 研修⑧：「自閉症の動作法」 ..... 17  
愛知教育大学 教授 森崎博志  
報告者 藤井美紀子（兵庫県社会福祉事業団 三木精愛園）

### 【後期集合研修】

#### 研修第1日目

- 研修①：「当事者からのメッセージ」 ..... 19  
発達障害当事者イイトコサガシ 代表 冠地情  
報告者 岩井雄希（社会福祉法人 美しの森 障害者支援施設 虹の里）
- 研修②：「発達障害の応用行動分析」 ..... 20  
鳥取大学大学院 教授 井上雅彦  
報告者 武山弥生（一般社団法人 シーズ発達研究所）

#### 研修第2日目

- 研修③：「発達障害を巡る諸問題」～DSM-5における神経発達障害群を中心に～ ..... 22  
一般社団法人 日本自閉症協会 会長 山崎晃資  
報告者 武山弥生（一般社団法人 シーズ発達研究所）
- 研修④：「発達障害の就労支援」 ..... 23  
早稲田大学 教授 梅永雄二  
報告者 柴田博史（大阪市立田川小学校）
- 研修⑤：「アセスメントの力を高めるためのスーパーバイザーの役割と事例検討の進め方」 ... 25  
大正大学人間学部臨床心理学科 教授 近藤直司  
報告者 柴田博史（大阪市立田川小学校）

## 研修第3日目

研修⑥：「軽度発達障害の方へのライフステージに応じた支援について」	27
こころとそだちのクリニック むすびめ 院長 田中康雄	
報告者 藤井美紀子（兵庫県社会福祉事業団 三木精愛園）	

### 3. 実務研修報告

□(社福) 侑愛会	星が丘寮	30
□(社福) はるにれの里	札幌市自閉症支援センター ゆい	32
□(社福) 梅の里	障害者支援施設 あいの家	34
□(社福) けやきの郷	初雁の家	36
□(社福) 菜の花会	しもふさ学園	37
□(社福) 嬉泉	嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦	39
□(社福) 正夢の会	昭島生活実習所	41
□(社福) 横浜やまびこの里	東やまたレジデンス	43
□(社福) 川崎市社会福祉事業団	障害福祉サービス事業 川崎市くさぶえの家	48
□(社福) めひの野園	うかさ寮	50
□(社福) 檜の里	自閉症総合援助センター あさけ学園	52
□(社福) つくしの会	はぎの郷	54
□(社福) 北摂杉の子会	萩の杜	56
□(社福) あかりの家	あかりの家	58
□(社福) 三気の会	三気の里	61
□(社福) 萌葱の郷	自閉症総合援助センター めぶき園	63

4. アンケート集計結果	65
--------------	----

5. 修了者名簿	103
----------	-----

# 巻 頭 言



全日本自閉症支援者協会

副会長 五十嵐 康 郎

一般社団法人日本自閉症協会、全日本自閉症支援者協会が主催し、一般社団法人日本発達障害ネットワーク、日本自閉症スペクトラム学会、発達障害者支援センター全国連絡協議会の後援・協力による平成27年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修（日本財団助成事業）を完了しましたので報告いたします。

## 1. 目的

日本では教育や福祉の現場でのスーパービジョンがなおざりにされ、理解不足や間違った支援の結果、二次障害や虐待が生じることが少なくありません。そのため、発達障害児・者への支援を行う関係諸機関の一定程度以上の実務経験者を対象に、第一人者による講義と全日本自閉症支援者協会加盟法人での実務研修、さらには当事者の方々への支援や事例研究を通して関係機関・団体及び地域の核となるスーパーバイザーを養成することを目的に平成26年度から発達障害支援スーパーバイザー養成研修（日本財団助成事業）を実施し、平成27年度に2回目を実施いたしました。

## 2. 事業実施に至る経緯

大分県では発達障がい者支援センター連絡協議会を実施主体に、平成18年度から発達障がい者支援専門員養成研修を実施しています。支援専門員養成研修の特色は座学としての講義にとどまらず、自閉症専門施設、早期療育機関、支援学校、医療機関等の視察、自閉症専門施設や早期療育機関での実務研修、保護者会への参加や当事者支援、事例検討等を初級、中級、上級と3年間かけて学びます。

毎年、30名の募集定員を大きく上回る150名前後の受講申し込みがあり、平成27年度末現在で189名の支援専門員が誕生しました。受講者は福祉、教育、保育、保健・医療、行政、労働と幅広く、高校や大学の教職員の受講もあります。

養成研修修了者で生涯研修を目的に支援専門員の会を結成し、研修会の企画や自閉症啓発デー等の諸行事の応援、スーパーバイザー派遣事業等に取り組み、NHKの取材を受けたり、厚生労働省が視察に来県するなど高い評価を得ています。

年々支援専門員が誕生し、関係諸機関に発達障害支援専門員が増え続けることで、発達障害理

解と支援の質と関係機関連携が飛躍的に向上することから、各都道府県の発達障害者支援センターの主たる業務として、実施することを提案し、国等の視察も行われ、高い評価を受け、実現一歩手前までいながら実現していないことから、その意義と効果を実証（エビデンス）することで、国の事業として取り組まれることを最終ゴールに日本財団の助成を受けてスーパーバイザー養成研修を実施する運びとなりました。

### 3. 事業の概要

前期・後期集合研修各3日間（合計6日間）の集合研修と全国自閉症者施設協議会加盟法人の中から27年度から1法人を追加し、16法人を指定し、2法人を選択して4～5日間（合計8～10日間）の実務研修を受け、当事者団体への支援を経験し、全ての研修報告を提出した者にスーパーバイザー養成研修修了証を交付します。

1年間で20日間程度の研修に参加し、20本以上の報告書の提出を義務付けていることから、かなりハードな研修になっています。平成26年度、平成27年度の2か年で86名が修了しました。

集合研修は当事者、親、行政マン、実践家、研究者、医師等幅広い立場の方からの様々な視点、理念、実践、方法論を前期・後期合わせて16コマの講義と演習を行いました。実務研修は各法人の特色を生かして、講義、視察、実務研修を行いました。

### 4. 事業の評価

全ての集合研修の講義と実務研修に対して、平成26年度、27年度の2か年を通じて受講者の高い評価を得ることができました。研修全体を通しての記述には「学びの量・質ともに多く、『頑張るぞ』と思える研修でした」「人脈をつくれたことが今後の宝になると感じています」「この研修で学んだことを少しずつでも実践していきたいと思います」「2法人を1週間ずつの現地研修がとても勉強になった」「この養成研修を無くさないで続けて下さい」「支援の再確認、目からウロコ、本当に実のある研修でした」等、様々な意見がありました。また実務研修受入法人からも「私たちにとっても励みになる研修でした」「受講者の皆様からも、情報交換を通じて学ばせていただきました」「今後も本研修がより有意義なものとなるように力を尽くしていきたい」「後日、受講者の事業所を訪問させていただいたりネットワークも構築された」「しんどい研修受入だったが、自分たちにも沢山の財産と課題を頂いた、有意義な時間だった」「受講者からの意見を基に職員の底上げ、スキルアップを図りたい」等の感想が寄せられました。本養成研修を多くの人が求めていること、発達障害理解、支援の質向上と関係機関連携の決定打となりうることを再確認しました。

### 5. 考察

現在発達障害に関する多くの研修が実施されていますが、その多くが座学で、その構成はプログラムティズムに偏っていると思われます。イタールやセガンの生理学的教育は無論のこと、モンテッソーリ教育は言うに及ばず、日本で開発された動作法や受容的交流療法、さらには感覚統合、応用行動分析、行動療法等を知らず、長年の経験者でも自法人や自機関が取り入れている理論や療法しか知らない支援者も多く、なかには経験のみに頼っている支援者もいる状況です。これではスーパーバイザーは無論のこと、実務の専門家としての支援者を養成することは困難です。

発達障害の治療教育150年の歴史や先人たちの知見や様々な理論や療育技法に言及されることは少なく、私自身が講義などの機会があるごとに糸賀一雄先生の「この子らを世の光に」の思想や日本の知的障害福祉施設の歴史的価値について受講者に問うようにしていますが、知っている者は僅かにすぎません。

海外から伝えられた療育実践を狭義に捉えて、「無表情にカードを示す」等と紹介するに至っては、対人支援の原則や基本すら理解していないと言わざるを得ませんし、おそらく創始者が知ったら悲しむのではないのでしょうか、私の恩師である石井哲夫先生は「治療教育150年の歴史の中で、共通してその根本に言われていることは、子どもがその気にならなければ変わらない。子ども自身の気持ちが変わらなければ発達はないのだということである」と著書の中に書いています。

18年間勤務した滝乃川学園の創設者であり、日本の知的障害福祉の祖である石井亮一先生は「どのように素晴らしい理論であっても愛がなければ価値がない」と看破されています。

東田直樹さんも著書に「大切なのは、一人でもいいのでどのくらい深く愛されたかだと思ふのです」そして「全ての対応がマニュアル化されたら僕は人生に失望するでしょう」とも書いています。

私は、信頼関係と共感に基づいた遊びや課題を通した人間的な交流を通して人は育つものであり、常に自らの支援を謙虚に振り返り、もっと良い手立てや方法はないかと実践の場で学び続ける支援者がスーパーバイザーになりうると考えています。そしてスーパービジョンがあってはじめて、二次障害や虐待が無くなり、発達障害のある人たちの豊かな育ちと人生を保障しうるでしょう、そのことを実現するための最も有益で効果的な研修を本研修から得られたエビデンスに基づいて提案しているのです。

前期・後期集合研修各3日間と全日本自閉症支援者協会加盟法人中の実務研修指定16法人から2法人を選択し、合計10日間にも及ぶ実務研修を修了し、さらには当事者支援を経験し、その全ての研修報告を提出した者にスーパーバイザー養成研修終了証を発行しています。日程的にも経済的にも、また報告書作成等かなりハードなものとなっているために、研修の一部を次年度に繰り越している受講者も少なくありませんが、受講者にとっても、実務研修受入法人にとっても大きな学びと支援の質の向上や機関連携につながっていることは間違いありません。

厚生労働省の発達障害者実地研修調査にスーパーバイザー養成研修が取り上げられるなど、実現に向けての機運は高まりつつありますが、今後の課題としては、受入法人による理念や事業内容等の違い等があることから、より研修の成果が得られるように、実務研修のプログラムや内容の質を充実するための検討を開始いたしました。

本研修を全日本自閉症支援者協会の主要な事業として継続することを通して、発達障害の方への支援のあり方を深め、発達障害の理解者とスーパーバイザーを養成し、全ての発達障害児・者が豊かな育ちと暮らしをおくることのできる共生社会の実現をめざします。

## 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修(前期集合研修)

【会場】 日本財団大会議室（東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル）

【日時】 平成27年7月24日（金） 12:30～受付 / 13:00～開始

研修会日	研修内容	講師
7月24日(金)	開講式 13:00～13:40	
	『自閉症支援の基礎となるもの』 13:50～15:20	全日本自閉症支援者協会 副会長 五十嵐 康郎 氏
	対談 『特別支援教育の課題と展望』 15:30～17:00	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 田中裕一 氏 日本自閉症スペクトラム学会 事務局長 寺山 千代子 氏
	交流会 17:30～19:30 (8F 食堂)	
7月25日(土)	『発達障害福祉行政の展望』 9:30～10:30	厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰 正文 氏
	『発達障害の特性理解』 10:40～12:10	日本発達障害ネットワーク 理事長 市川 宏伸 氏
	『親として専門家に期待すること』 13:10～14:40	日本自閉症協会（保護者）理事 今井 忠 氏 弘済学園 看護師 黒澤 晃子 氏
	『TEACCHアプローチの統合的な考え方： 構造化による支援のパラドックス』 14:50～17:20	前フェイエットビル TEACCH センター長 スティーブ・クルーパ 氏 訳者 田中 恭子 氏
7月26日(日)	『発達障害支援の現状と課題』 9:30～10:30	発達障害者支援センター全国連絡協議会 副会長 和田 康宏 氏
	『自閉症の動作法』 10:40～12:10	愛知教育大学 教授 森崎 博志 氏



## 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修(後期集合研修)

**【会場】** 日本財団大会議室（東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル）

**【日時】** 平成28年3月11日（金） 12:30～受付 / 13:00～開始

研修会日	研修内容	講師
3月11日(金)	開講式 13:00～13:40	
	『当事者からのメッセージ』 13:50～15:20	発達障害当事者会イトコサガシ 代表 冠地 情 氏
	『発達障害の応用行動分析』 15:30～17:00	鳥取大学大学院 教授 井上 雅彦 氏
	交流会 17:30～19:30	
3月12日(土)	『発達障害を巡る諸問題』 9:30～11:00	一般社団法人 日本自閉症協会 会長 山崎 晃資 氏
	『発達障害の就労支援』 11:10～12:40	早稲田大学 教授 梅永 雄二 氏
	『アセスメントの力を高めるためのスーパーバイザーの役割と事例検討の進め方』 13:40～17:30	大正大学人間学部臨床心理学科 教授 近藤 直司 氏
3月13日(日)	『軽度発達障害の方へのライフステージに応じた支援について』 9:30～11:00	こころとそだちのクリニック むすびめ 院長 田中 康雄 氏
	『研修報告』 11:10～12:20	主催者
	修了式（講評） 12:20～12:30	

# 集 合 研 修 報 告

※平成27年度の集合研修報告は、受講者の研修報告を通読させていただきました。受講された方の報告書はどれもレベルの高い素晴らしいご報告でしたが、ご報告者のご了解を得て、4名の方の研修報告を掲載させていただきました。これに起因する問題等については、偏に五十嵐の責に帰すものであることとお断り致します。

## テーマ「自閉症の基礎となるもの」

### ～自閉症療育のコペルニクスの転回～

講 師 全日本自閉症支援者協会 副会長 五十嵐 康郎

報告者 武山 弥生（一般社団法人 シーズ発達研究所）

一般的にノーマライゼーションの思想は、1960年代の北欧から始まったと考えられ、日本には欧米の福祉文化を通して輸入されたと考えられているが、1950年代に糸賀一雄先生らにより滋賀県に創設された近江学園にはノーマライゼーションの思想があった。糸賀先生は『この子らを世の光に』という思想を中心に据え、池田太郎先生、田村一二先生とともに、知的障害児・者の支援に尽力された。講師の五十嵐先生は、一麦寮で田村先生からご指導を受け「障害のある子のおかげで私たちの存在がある」と教えられ、滋賀県での実践こそ『日本のノーマライゼーション思想の夜明け』であると考えられた。私も糸賀先生のご著書は拝読していたが、その思想の流れを直々に汲まれている五十嵐先生のお話を拝聴できたことに感動した。

また当時、同じく滋賀県の上揚学園では、クリスチャンでもある福井達雨先生が、『支援者である自らが最大の差別者であり、差別者として謝り続ける』との思想から障害児らが義務教育を受ける権利の保障を求めてハンガーストライキを実行するなどして果敢に差別と闘い続けておられた。五十嵐先生は、ここから『何もしないことが差別＝合理的配慮』という障害福祉に関わる立ち位置を学ばれたそうである。私も日頃、私自身の中に存在する差別感情について、常に否定せず、しかしそれに屈することなく、敏感に感じながら戦わねばならないと考えている。そして、出来ることから草の根のように、障害福祉を実践することを目標にしてきた。五十嵐先生が、学生時代から大いに学び、実践されてきたということに驚きと尊敬を感じた。

大学を卒業された五十嵐先生は、田村先生からのご紹介で1971年に東京の滝乃川学園に就職された。滝乃川学園の創設者である石井亮一先生は「知的障害者教育・福祉の父」と世界的に有名である。五十嵐先生はこの石井先生の著書との出会いから『どのように素晴らしい理論であっても、愛がなければ価値がない』ということや、『私の理論を金科玉条のごとく守るのは最良の引き倒しである』等の言葉に感化を受けられ、セガンの「生理学的教育」、モンテッソリーの「オートエディケーション」に学ばれたそうである。私は幼児教育法においてモンテッソリーは知っていたが、セガンについては知らなかったので研究の後、セガンについて調べてみた。セガンはルソーの『エミール』などの影響を

受け、教育学に目覚めていったそうである。私は大学の時、ある授業でルソーの『エミール』を読んだ。教育とは、前人の学びから触発が連綿とつながり、豊穡されていくものであることに感慨無量である。

こうしたたゆまぬ自学自習を重ねながら五十嵐先生は、当時、行動障害のつぼであった滝乃川学園で過酷な労働条件の中、環境整備、重度棟解体、障害児の就学など、子どもたちに『当たり前』、今日でいうところのノーマライゼーションの普及に尽力された。まだ理論のなかった時代に自らの実践から理論をみいだしたといえる素晴らしい功績である。そして、石井哲夫先生との出会いにより、自閉症という概念と『受容的交流療法』を体得されたという。この出会いから『自閉症に合った専門的な施設』である「めぶき園」が誕生し、日本における自閉症の療育のさきがけになったのは言うまでもない。その後、五十嵐先生は「ミラーニューロン仮説」「行動療法」「動作法」などを、めぶき園に取り入れ実践なさってこられた。めぶき園では、『対人的な関わりを積極的に取り入れた構造化』を目指し、専門性のある第三者からみても『自主的で統制のとれた行動』の基盤である『統制と秩序』が培われているようだ。五十嵐先生からご紹介のあったオリバー・サックスの『親密で心のかよいあつた関係が重要』という言葉は、あらゆる事象に翻弄され、とにかく形式的なトレーニングをしていけばという安易な療育パターンに陥りがちな我々に、自閉症の人々も心のある人間であり、一個人であるという当然でもっとも大切なことを思い出させてくれた。

今回の五十嵐先生のご講演からはあらゆる学びを得られたが、研鑽をつんだ支援者である五十嵐先生が当事者からの学びを至上のものとし、近くは東田直樹さんからのメッセージを『親や支援者に対して貴重かつ最高のメッセージ』とされていること、そして自閉症療育は『人として愛と敬意をもって接すること』であると教えてくださったことを、日常のどんなにせっぱつまった場面においても忘れないよう自分の心の中心において、自閉症の人々に対していこうと決心した。

## テーマ 「対談 特別支援教育の課題と展望」

講師 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課  
特別支援教育調査官 田中 裕一

日本自閉症スペクトラム学会  
事務局長 寺山 千代子

報告者 柴田 博史（大阪市立田川小学校）

今後私たちが実際にスーパーバイザーとして学校の先生とやりとりをする際に知っておくべき重要なことについて、田中先生からお話があった。

まず、特別支援教育の現状と課題について説明があった。

現状については、①特別支援学校在籍者、特別支援学級在籍者、通級による指導を受けている児童生徒数は、それぞれ毎年増加している。②学校における支援体制の整備状況。③通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒について、その約4割は支援を受けていない。④大学においても障害のある学生の在籍者数は毎年増加している。等の説明があった。

次に課題は、障害者の権利に関する条約に掲げられたインクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、全ての学校において発達障害を含めた障害のある子ども達に対する特別支援教育を着実に進めていくためには、どのような見直しが必要か？である。

特に喫緊の課題として、「合理的配慮」の問題がある。

合理的配慮とは、①障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享受・行使することを確保するために、（支援の量を全員平等に与えるのではなく、支援の結果としての「教育を受ける権利」の状況が全員平等であること）②学校の設置者及び学校が、③必要かつ適当な変更・調整を行うこと。④個別に必要とされるもの。⑤（学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において）均衡を失した又は過度の負荷を課さない。

そのためには、本人と保護者に対して、学校が「この子はこういう状況だから、こういう支援が効果的だろう」という情報提供を行う。それを受けて、設置者、学校、本人と保護者による合意形成を行う。本人が十分な教育を受けられているのかという視点から、個々の合理的配慮について定期的な評価と柔軟な見直しを行う。

また、基本的環境整備（合理的配慮の基礎となる環境整備）を国、都道府県、市町村、学校等が行う。それを受けて、個々の児童生徒に対して、設置者、学

校が合理的配慮を行う。公立学校は、これを行うことは義務である。

合理的配慮を考えていく上では、インクルーシブ教育システム構築データベースが参考になる。

次に、SVとして学校としてやりとりをする際には、3つのことが大切である。

第1に、情報収集。2つのポイントがある。様々な他校（外国も含めて）と比べてみること。様々な最新情報を知っておくことだ。

第2に、学校の誰と話をするのかを意識してその人に合った話をする。

第3に、SVも学校も、お互いに半歩踏み出す勇気を持つこと。半歩がポイントだ。

次に、寺山先生からは、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒、また学習に遅れがある児童生徒への対策として、①指導員や支援員の増員。②学級の定員を減らす。③学年、学校全体でカバーする などが必要であるとの話があった。

最後にお二人の対談をお聞きし、がんばらなければという気持ちを改めて感じた。

## テーマ「発達障害福祉行政の展望」

講師 厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室  
発達障害対策専門官 日詰 正文

報告者 藤井 美紀子(兵庫県社会福祉事業団 三木精愛園)

講師は厚生労働省、社会・援護局の発達障害対策専門官の日詰正文氏である。日詰氏は長野県で言語聴覚士として障害者支援の現場で発達障害者に携わっておられた。今回の研修では障害者を支援する立場として知りたかった情報を伝えてくださった。

平成17年に発達障害者支援法が施行された。法律に書かれたことは非常に大きなことでそのことに対して我々は無視できなくなる。「発達障害」の定義が確立したことにより、障害者に関する各種法律制度に発達障害者の位置づけが定着した。

発達障害は、どこから発達障害か、どこから違うのか、線を引くことが難しい。連続性がある。自閉症スペクトラムの症状を示す層の有病率は、我が国の人口の1～2%が該当する。また、自閉症スペクトラムの症状が顕著ではないが、特性の一部、もしくは全般ではあるが目立たない形で示す層まで捉えると、人口の約10%以上が該当する。

発達障害者支援法に基づく支援等の全体を見てみると、母子保健と学校保健は一緒に考えるべきで、また、青少年対策については、引きこもり、ニートの問題に発達障害者や精神障害者の問題がからんでいる。そして、介護保険についても、障害者福祉と互いに理解し合い、65歳の介護保険優先についても整理、検討しているところであるとのこと。

発達障害者は健康管理がうまくいっていないことがわかってきている。人間ドックや健康診断を受けられていないことも多くあり、杉並区では障害者向けの人間ドックを行われている。高齢になり、誤嚥性肺炎を繰り返す人もいる。特に発達障害者は小さい頃からの食べ方に問題があり、若い頃は良くて高齢になって問題になることも多い。食べ方については言語聴覚士に相談すべきであるが、保健という視点から発達障害を組み合わせる必要がある。

発達障害は周りが理解してくれている中では問題にならないことも多い。環境により問題となったり、問題ではなくなったりと血圧みたいなものであるという。客観的なエビデンスを通して変えていくことができるし、発達障害者支援法に基づく支援等の全体像を把握し、支援のあり方を変えていく必要があるとのこと。

発達障害は診断名ではなく総称であるが、その定義は、広汎性発達障害（自

閉症、アスペルガー症候群等)、学習障害、注意欠陥・多動性障害等、通常低年齢で発現する脳機能の障害である。日本の分類は ICD-10 (今後改定される時には DSM-5 に近いものになる。すでに使っている医師は多い) に基づき診断される。

発達障害者の日常生活上の困難さの例として、精神保健福祉手帳診断書の日常生活能力の判定8項目で見てみる。①適切な食事摂取(偏食、食事量の問題など)②健康・栄養管理(片づけられない、行動の拒否など)③金銭管理と買い物(計算の間違い、使いすぎなど)④通院と服薬(採血の拒否、睡眠障害の影響など)⑤他人との意思伝達・対人関係(一方的な会話、距離感がつかめず相手を怒らせてしまうなど)⑥身の安全保持・危機対応(飛び出し、フリーズなど)⑦社会的手続きや公共施設の利用(窓口で順番を待てない、名前を書く欄を間違える、人混みに入れず公共機関を利用できないなど)⑧趣味・娯楽への関心、文化的社会活動への参加(興味関心が狭く友達がいない、引きこもりなど)これらの困難さがある。また、障害者総合支援法における障害者支援区分では、発達障害に伴い感覚過敏や感覚鈍磨があるかを確認する等発達障害に関する新項目を追加し、特性を反映できるように見直している。

様々な知識を学んだが、現場の職員であった日詰氏の話で印象に残った事は、制度を変えたいと思ったらどうするか。切り口が3つあると。1. 団体、協会に所属し、発言権を持つ。チャンスがあれば要望を出す。2. 良いモデル事業を自治体と一緒にする。自治体に提案して広げる。3. 研究者がいる研究により客観的なエビデンスを作る。これらを通して制度を変えていく事ができるという。実際に現場での問題を解消するべく、また、発達障害の状況が大きく変化してきている中で、現状を発信し、必要な制度に作り替えていこうとアクションを起こしている人がこの業界に多くいるのであろう。制度があるからそれに合わせて支援を行うのではなく、目の前にいる彼らに必要な制度に変えていこうとする人たちがいることがとても刺激になった。

現場実習でお世話になったあかりの家の実習中の朝会で、来週の予定を伝えられた際に、日詰専門官が来所されると聞いた。確かにあかりの家は制度ありきの支援ではなく、目の前の利用者にとって必要な支援を行っており、専門性を発揮し前に前に進んでおられた。真摯な支援が制度を変えていっているのだと思った。



## テーマ「発達障害の特性理解」

講師 日本発達障害ネットワーク 理事長 市川 宏伸

報告者 岩井 雄希 (社会福祉法人 美しの森 障害者支援施設 虹の里)

ASD とは、急性ストレス障害、心房中隔欠損、自閉症スペクトラム障害を指す。また、ADAD は、注意欠陥・多動性障害である。

ASD 等の方々への対応でうまくいかない例として①何とかこちらの論理に合わせようとする（注意する、叱る、説教する、反省させる）②こちらの論理を考えさせる（世の中の常識を教える、社会的ルールを押し付ける）③本人の論理を無視する（頭ごなしに否定する、プライドを傷つける）

また、対応としてうまくいく例としては①本人の論理を尊重する対応（理解し易い説明をする、一般論を言わない）②注意・叱責にならない対応（言い方を変えてみる、耳を傾けるような説明）③本人の立場を尊重した対応（本人を一人称にした説明）が大切であり、重要な視点として①人間は一人一人異なっていることに気づく（どちらが正しいのかの議論は無意味）② ASD は特性であって、否定されるべきものではない（特性は生かすべきである）③ ASD は異なるソフトを積んでおり、こちらのソフトで動かそうとするのは無意味（どれだけ互換性のあるソフトを作れるかが重要）

アスペルガー症候群とは、知的障害を伴わないものの、興味・コミュニケーションについて特異性が認められる自閉症スペクトラム (ASD) の一種である。アスペルガーとの付き合い方の気をつける点は①彼らなりの行動様式を持っている②驚くほど純粋であり、例外は許されない③考え方ははっきりしており、曖昧は許されない④彼らは相手の考えを理解できない⑤質問する際に、条件を限定して尋ねているか？⑥曖昧な表現を使っていないか？⑦起きる結果をはっきり伝えているか？⑧彼らは本音と建前を使い分けられない⑨彼らの論理にかなえば納得してくれることがある⑩納得してくれれば、徹底して信じてくれると抜粋して10項目の注意事項をあげる。

自閉症スペクトラム障害 (ASD) への対応で心がける点①自信がつくような対応を考える（・失敗、叱責の積み重ねから生じる自己評価の低さを軽減する・誉めることの工夫を忘れない・自棄的行動、反社会的行動に至らないよう注意する・無理に矯正するよりは、良い点を伸ばしていく）②対人関係で孤立しないように心がける③表現も理解も苦手なことを忘れない④状況に依存しやすいことを忘れない。

それぞれの障害について特徴や特異性を理解し、接し方のポイントを学ぶことが必要であり、それらを踏まえて、性格や個性にも対応する柔軟性が重要であると感じた。

## テーマ「親として専門家に期待すること」

講 師 日本自閉症協会（保護者）理事 今井 忠  
弘済学園 看護師 黒澤 晃子

報告者 岩井 雄希（社会福祉法人 美しの森 障害者支援施設 虹の里）

二日目三コマ目 今井氏の講義は24歳のダウン症の息子を中心として、その取り巻く環境や支援に関して展開された。冒頭で興味を持ったワードが、「本当に困った時に①女性は友人を求め②男性は情報を求める」であった。なるほどと妙に納得してしまった。

福祉の専門性について、「専門性と人間性」が重要としていた。専門性を高めたから良いとは一概には言えず、障害者本人よりも自らの技術面に興味を持つ傾向にある。専門性を生かした支援に失敗すると虐待の危険性にも繋がることのであった。専門性と人間性の両面を兼ね備えている支援員が理想的と言える。また、支援が障害を重くすることもある。自閉症に無理解な支援が二次障害を生む。精神科薬による睡眠障害や刺激過敏、フラッシュバックもそうである。

発達障害に対する誤解として①障害名で支援の方法が決まると誤解することがある（障害名はヒントでしかなく、本人の特性を見抜くこと）②障害そのものを治せるとおもってしまうこと③治らないと考えて、教育や発達援助を放棄してしまう④行動の原因を考えず、結果の行動だけを直そうとする⑤環境に原因があることが理解されない 以上の誤解が生じやすいことの注意が必要である。

入所施設運営の難しさとして①職員の効率優先（集団行動、向精神薬による抑制等）②支配性（施設内は職員の職場であり、利用者の空間という意識の欠如）③閉鎖性（地域コミュニティと隔離、行き過ぎた自己完結）④腐敗の進行（支配型、管理型職員が徐々にはびこり、障害者の側に立つ職員はやがて去る。トップも重宝がる。辞めた職員からの聞き取りこそ重要）自施設の状況を考え、以上の4項目に陥らないように意識し、利用者に寄り添う施設運営を行う様にならなければならない。

二日目三コマ目 黒沢氏の講義は、「発達障害児・者の命を守る視点～初期兆候を見逃すな」である。われわれが日々の業務の中で注意していかなければならない視点①本人の様子を理解する②本人に関わる人の感性を育てる③医療機関の理解と協力を得る。以上の3点が重要である。本人の様子とは、現病歴、既往歴、服薬中の薬等である。

関わる人の感性とは、本人が「いつもと違う」と察知して看護師や協力機関に繋げることである。

日ごろからの利用者の観察・関わりを密に取っておくことが重要といえる。

## テーマ「TEACCH アプローチの総合的な考え方： 構造化による支援のパラドックス」

講 師 前フェイエットビル TEACCH センター長  
スティーブ・クルーパ / 訳者 田中 恭子

報告者 武山 弥生 (一般社団法人 シーズ発達研究所)

TEACCH というと「スケジュール」と「絵カード」すなわち、「構造化」と「視覚化」が思い浮かぶ人は多い。私も同様である。しかし、これは過度に狭い解釈であるとスティーブ氏は言う。TEACCH アプローチでは、ASD の人々の支援には「芸術と科学」のコラボレーションが必要だと考えられている。大学の時にカウンセリングの講義で、カウンセリングはアートであると教えられたが、TEACCH アプローチでいう芸術とは、カウンセリングをアートとする考え方と同じものであるのだろう。講義の中で芸術とは、技・能力であり、その内容は、一つ目に利用者の特定の状況や個人に支援を適合、考慮すること。二つ目に支援者の資質（例、創造性、共感生、熱心さ）、三つ目にプログラムを評価する際には質的な、より主観的な測定結果（例、社会的妥当性）を含めること、の三つであるという。これら、芸術といわれるものと、科学（学問・知識）とされる、研究、治療フェディリティ、測定、評価が融合されてこそ本当の TEACCH アプローチといえる。

スティーブ氏は我々に TEACCH を理解させるために、講義の中で TEACCH アプローチには、コインの裏と表のようなパラドックスがいくつか存在すると述べられた。一つ目は「ASD に対する支援は技術ベースか、関係性ベースか」という問題。二つ目は「ASD の人は一人一人違うのに、支援の仕方が同じ」という問題。三つ目は「どうやって強みを用いて苦手を補うのか」という問題。四つ目は「多くの自閉症の人は一貫して首尾一貫しない」という問題。五つ目は「支援することは自立を促すのか」という問題である。これらは、TEACCH メソッドを「スケジュール」「つい立」「絵カード」などの使用といったような形式的な模倣のレベルではなく、「構造化の力」「個別性」「関係性の重視」などの本質的な TEACCH の基本理念を理解することで解決される問題である。そして、TEACCH を有効にしていくためには、理論よりも観察による子どもらの正確な認知の評価が必須であり、そこから子どもの弱点を補うように環境を整え、適応能力を向上させていく技術が必要である。そして何よりも重要なのは、子どもの意思を理解することと、TEACCH アプローチを使う目的である。子どもが嫌がることを周囲の都合のために TEACCH を用いてさせることを目的とするのではなく、子どもが落ち着いて自発的な活動ができるよう配慮し指導していくことが目的でなくてはならない。そして常に子どもの発達やその時の状態に即して

支援プログラムやアプローチをその子に合わせていくことが前提である。講義の中でも、まず「関係性を重視する」ことや「個別化したプログラム」と「個人の強みと興味を用いる」として、いくつかの事例の紹介があった。TEACCHアプローチに理論や技術は必須だが、そのベースにはかつて TEACCH 創設者のショプラー氏が述べたようにヒューマニズムという思想があるということだ。

TEACCH のオリジナルモデルは、臨床発達心理学から派生している。認知的・発達の視点から統計的理論を用いて人を中心にした療育を目指している。それに加え、近年には社会的学習のパラダイムや「自閉症の文化」の喩えのような人類学的な視点を加えるとともに、神経心理学的な知見と生物医学や「非特異的治療効果」というような生物心理学的な見方を統合し、常に進化しているようだ。開発当初、TEACCH は、「Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children」の略とされていたが、2013 年から最初の T が Treatment から Teaching に変わったそうである。この背景には、ASD の診断範囲が拡大し、支援対象も高機能や成人の方へと広がりをもつようになったことにあるようだ。こうした変化の中、私たちは TEACCH から学び、自閉症の人たちの文化を大切にしながら共に社会の中で一緒に生きていこうと思う。

## テーマ「発達障害支援の現状と課題」

講 師 発達障害者支援センター全国連絡協議会  
副会長 和田 康宏

報告者 柴田 博史（大阪市立田川小学校）

講師の和田先生は、発達障害者支援センター全国連絡協議会の副会長をしておられる。ご自身も、兵庫県のセンターで支援業務に携わっておられる。

その和田先生が、発達障害者支援センターが様々な生きづらさを抱えておられる方々の駆け込み寺になっていることを聞き驚いた。「発達障害」がこの社会でのキーワードとなり、様々な人たちが来られる。自閉症スペクトラムの診断を受けている人は、41%で、不明や未診断の方が48%。

年齢別では、16～18歳が10%。その中に一般の高校生や高校を中退した人達がいる。また、半数強を占める19歳以上。その中には、大学生、大学院生や卒業生、就職したが職場でうまくいかなかったり、転職を繰り返す人やひきこもる人たちも。

今回の養成研修に申し込み直後、私の次男がひきこもりであることが分かった。

調べてみると、今の社会では、誰がひきこもりになってもおかしくないと言う。それだけ多くの人たちが生きづらさを感じ、支援を求めているということだ。

発達障害児者の支援に携わっていると、いじめ、不登校、虐待、ひきこもりなどで困難を抱えている人たちに出会うことがある。少しでもエンパワーできるようにがんばりたい。そのための力量も高めたい。

先生のお話をお聞きして、もう1つ強く感じたことがある。

それは、アセスメントの大切さだ。アセスメントによって、その子の得意なこと、苦手なことを把握する。そして、得意なことを使って苦手な力を補う方策を考える。もちろんそれは、特別支援のどの教科書にも書いてあるほどの基本的なことである。

先生の講義の中で、クイズが大好きな男性の話があった。得意で興味があるクイズを使って、支援の場に来てもらうことができた。

また、それとは逆に療育の場が増えた結果、また1つの療育の場で子ども達が過ごす時間が短いという背景もあり、支援の質に疑問符がつくケースもあるという話があった。そのようなケースでは、十分なアセスメントができないことが多いのかもしれない。時間が少ない中でも支援の質を高めるために、アセスメントという観点から、スーパーバイザーとして協力できることはないのか？

実務研修やそれ以降での研修を行う中で、この問いに答えることができるよう、自分自身学びを深めるよう努力したい。

## テーマ「自閉症への動作法」

### ～自閉的な子供への身体を通じた発達支援～

講師 愛知教育大学 教授 森崎 博志

報告者 藤井 美紀子(兵庫県社会福祉事業団 三木精愛園)

乳児の発達において、親子の接触は心身の成長に大きく影響するように、人の発達と体の関係はとても密接で影響し合う。

精神科医のカナー（1943）は自閉症の事例とその特徴を明らかにし（心因性によるものとしたが）、ラター（1973）により、脳の機能障害が明らかになり発達障害として理解されるようになった。脳の機能障害であることで、発達しないのではないかと認識されてしまうことが多いがそうではない。目を合わせると脳の扁桃体に刺激を送り、回路ができてくる。自閉症障害の本態については、「前頭前野障害説」（行動の自己調整・場面に合わせて行動）と「扁桃体障害説」（対人認知）があるが、脳障害については発達して変わっていく可能性があるのである。発達支援のねらいは、身体的な相互交渉を介し、①行動の自己調整（落ち着き、相手に合わせる）、②対人認知（対物から対人世界へ）の2つを育むことである。

愛知教育大学 森崎先生は、実際に子どもと共に実践されており、スライドを通して実際の関わりを見ることができ、とても理解しやすかった。森崎先生が参加されている毎週行われている訓練会の内容は、まずは座って相手と手を合わす。合図に合わせて「せーの」「はい」で合わせた手を上げ、止める。視線を合わせ、表情をうかがう。援助する側がしっかりと「こっちを見るように」と意識しながら注視すると次第に注意が合ってくる。動きが整ってきて、スムーズになり、相手に合わせることができ、注意が向けられるようになってくるのである。人と関わる中で大事なところはどこか、そこがどう変わっていくかを意識しながら支援する。訓練会でできてきたことが、日常生活においても感じられ、訓練と日常との繋がりが見られる。行動調整だけでは「ロボット」的になってしまうため、視線を合わせることを意識し、扁桃体を活性化させていく。訓練に参加している保護者も「指示が通りやすくなった」等、子どもの変化を感じておられるとのことである。

「対面する」「目を合わせる」「模倣（動作）」「指差し（動作）」により、対人認知を育むアプローチを行う。これにより、言葉の使い方が変化（自分と他人に対し全て一人称だったのが変わる等）、人物画が変化（目を合わせることで人物画に目を画くようになった等）等を観察し、対人認知が育まれているかを確認していく。

援助者の関わりのあり方について、援助者の「心」の持ち方が大きく影響する。明るく、楽しく、ゆったり落ち着いた態度と雰囲気を感じさせる。援助者により子どもの様子が変わるのである。訓練で何をやるかということだけでなく、どう関わるか、上手くいかないときに次をどう試すか、惹きつける関わり方が重要である。また、すぐに効果が感じられなくとも、彼らにとっては苦手な部分の取り組みであるため、長い目で無理なく行っていくことが必要である。

私自身が勤務する施設では動作訓練の取り組みは行っていないが、今回の講義で動作法のねらいや効果がとても良くわかった。確かに普段の日常の中で、自閉症の利用者の方と挨拶をする際にも目を合わせ、手を合わせているが、それにより、身近に感じられる人との関係があると実感している。支援者は、脳障害は発達していくのだということを認識し、行う支援に効果を出すように工夫していく必要がある。このSV研修の12月に予定している臨床実習では体操活動がある。また、当事者支援等でも児童の活動に参加し、今回学んだ動作法について、実践の現場で取り組みを学びたいと思う。人の発達段階において、伸びる力をそのままにしない取り組みを意識し、活動において何を重視するのかをしっかりと意識して支援する必要がある。自分自身がそのスキルを習得できるよう今後の臨床実習において積極的に学んでいきたい。

## テーマ「当事者からのメッセージ」

講 師 発達障害当事者会イイコトサガシ  
代表 冠地 情

報告者 岩井 雄希  
(社会福祉法人 美しの森 障害者支援施設 虹の里)

発達障害支援スーパーバイザー養成研修後期集合研修 1日目一コマ目の講義は、発達障害当事者会イイコトサガシ 代表 冠地情氏による『当事者からのメッセージ』である。

「当事者ではない！冠地情だ」会場からの「障害者という言葉はどう感じるか？」という問いかけに「障害を生きづらさにしてしまっている社会構造、悪しき習慣が悪い」障害者、自閉症等の言葉、イメージが社会に与えている先入観がもたらす影響は本人たちを傷つけている場面も多いことだろう。

タブーを超えて質問をしよう！と冠地氏の声掛けに自分も含め積極的に手は上がらなかった。出た質問は「冠地氏から見た勘違いしている支援者とは？」回答は、「今の支援者はおっかなびっくり支援している。深く関わることを恐れている」こんなことも言われていた。「熱心な無理解者が一番怖い」熱心な無理解者とは、自己主張が強く価値観を共有することに欠けている。摩擦が生じて乗り越えようとはせず、本質の部分から関わっていない。

「みんなで一緒に成長しよう！」他者を変えることはできない。相手を変えようとする前にまずは自分が変わってほしいと冠地氏は訴えていた。冠地氏が支援者に感じていた印象は「結局、何を訴えても、何を話しても、私を変えたいんでしょう？」それが伝わってしまい、窮屈で、一緒に変わろうという気になれなかった。

子どもを変えようとする親と支援者が多い。子どもの生きづらさはどんどん深まるだけだし、大人に対する不信感がつるだけ→「家庭力セミナー」で「一緒に変わろう」という姿勢をベースに支援して欲しいとのこと。

支援される側と支援する側の壁が高ければ高いほど、溝は深まり、心を開くことは困難になるだろう。一度失った信頼感を再び回復することは非常に難しい。支援者の姿勢・センス・情熱、これらすべてが求められるし、本気で向き合う覚悟が無い支援者は、生半可な姿勢で支援を開始できない。

「この人の信条なら頼れると思えるからこそ信頼なのです」

そして、前言撤回できる支援者であること。

不器用でも、一緒に変わろうという姿勢を常に見せ続けること。それが信頼へと繋がるのです。



## テーマ「発達障害の応用行動分析」

講 師 鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座  
教授 井上 雅彦

報告者 武山 弥生（一般社団法人 シーズ発達研究所）

鳥取大学附属の臨床心理相談センターで1年に延べ800件の相談をされておられるという井上先生は、ABAプログラムやペアレント・トレーニングに関する研究と実践の草分けとしてご活躍されている。今回は、先生の講義を間近で拝聴でき、とても感激した。井上先生の講義の中から、私なりに考察を報告させていただきたい。

まず問題行動の分析は、どんな行動がターゲットになるのかの見極めから始まる。周囲にとり一見奇異な行動であっても、自傷他害にならなければ問題にならない。また同じ行動でも、場面によって問題になる場合とならない場合に分かれる。場面とは一つは場所（行動の場所が自分の部屋や家か公共の場か等）であり、もう一つは相手と状況。時と場合により同じ行動が問題になったり、ならなかったりするの当事者にとっても難しいが、支援をする側の私たちにとっても、その見分けは難しい。支援者には、行動を冷静に分析し、どんな場面で、誰にとって問題なのか、その問題は将来も断続して問題となりうるのか、問題のレベルはどのくらいかの判断が求められる。この判断において井上先生は一人だけでなく周囲の人たちの意見を参考に、個別的に判断していくことが大切だとおっしゃった。個別的というのは、これまでの成功事例にひっぱられることなく、個人のパーソナリティと特性、行動の要因と状況などを一から分析していく作業をすることを指すのだと思う。

つぎに大切なのは支援のゴールである。講義の中でゴールは「その行動をなくすだけではなく、その人の「生活の質」が向上することを目指すべき」で「生活環境の中でその人の行動の選択肢が増加し、自己決定の機会が与えられること」であると説明があった。私たち支援者は、とにかく行動そのものに注目し、行動にこだわり、とらわれ、一喜一憂しがちである。時にその感情がエスカレートすると虐待や過剰で抑制的な悪循環のコミュニケーションに陥る。こうした状況にならないためにスタッフトレーニングが有効であり、そのトレーニングの中心が行動を分析し、その行動がどんな機能を果たしているのかを考え、それにアプローチする方法である応用行動分析である。今回の講義では、ストラジーシートを使った実践方法を井上先生からご教授いただいた。シートは行動をA：事前、B：行動、C：事後に分けて具体的に記入し、そこから行動が起こらなくてすむための事前の工夫や、望ましい行動とは何か、その強化の手立て、

それでも行動が生じた場合の対応などを明確にするための可視化されたツールである。これを使えば支援者個人だけでなく、当事者にかかわるメンバー間で、困った行動が起きる理由や起きた時の対応が共有できる。分析により仮説を立て、前後の刺激を入れ替えながら、観察し、問題となる行動が起これないための努力をすることが重要だという。

これまで、支援方法は熟練した支援者の長年の経験や勘にたよる部分が多かったように思うが、こうしたツールを使うことで客観的な資料が増え、支援の評価につながると思う。私はよりよい支援のための情報共有の場として、関係者の支援会議の開催を広く呼びかけているが、そうした場でも、応用行動分析による資料は大変有効な資料となり、PDSA サイクルによる支援の実施に役立つと感じた。そのためには、まず自らの観察力や行動を具体的に記述する能力の向上、そして、何より日々記録することを継続する力を養っていきたいと思う。

## テーマ「発達障害を巡る諸問題」

### ～ DSM-5 における神経発達障害群を中心に～

講 師 医療法人弘徳会愛光病院顧問  
一般社団法人日本自閉症協会 会長 山崎 晃資

報告者 武山 弥生（一般社団法人 シーズ発達研究所）

アメリカ精神医学会の診断・統計のマニュアルである DSM が 4 から 5 に変わり、日本でも発達障害の診断基準や診断名に変化がみられている。DSM の変更以前から診断は増え続けてきたが、今後もさらに増加していくことは確かである。日々の支援活動におけるアセスメントの中で、学校の先生や保護者からの診断の見立てを求められることも増えてきた。私たちは医師ではないので、診断することは出来ないが、診断についての知識を十分に持つことが必須であると感じている。

今回の山崎先生の講義を受けて、DSM-5 への移行には多分にアメリカにおける医療保険制度やアメリカ精神医学会の経済的状況の影響が関与していること、DSM-5 が未だに診断分類システムとしては完成形とはいえないことを知った。また発達障害という概念自体が社会の在り方と連動しており、同じ人であっても住んでいる所や時代が変われば診断がついたり、つかなくなったりする。発達障害は相対的なものであり、私たちは、福祉制度や教育制度を整えていくことと共に、環境調整により発達障害だけでなく、すべての障害が障害でなくなる社会の構築を目指していかなければならないのだと感じた。こうした概念は ICF による国際生活機能分類により明確にされているが、日本においては、まだまだ浸透していないように常に思う。

また山崎先生が講義の中でたびたび強調されたように、診断はマニュアルにより機械的にできるものではない。正確な診断は大きな利益をもたらすが、不正確な診断は大きな不利益をもたらす。人の障害の部分にだけ注目するようなアセスメントでは不十分であり、有害といえる。特別支援教育では、子どもの能力の中で強いものを見つけ、それにアプローチする方法をとるが、もっと大事なことは人を部分で見るのではなく、全人的に理解することなのだと思う。私の場合は、その人から見える世界はどんな世界であるのかということを理解し、その世界を大切にしながら、不安や恐怖をその世界から減らしていくことが支援だと考えている。

専門家が安易にチェックリストやマニュアルにより診断をしたり、環境調整もせずに薬物における改善に傾倒したりすることを、支援者である私たちは危惧する意識を持つことが必要である。また、自分自身、発達障害や支援制度、そして障害という概念そのものの社会構造についての知識をしっかり身につけ、次々に発表されていくより新しい知見や正しい情報を学び続けることが欠かせないと思う。

## テーマ「発達障害者の就労支援」

講師 早稲田大学 教授 梅永 雄二

報告者 柴田 博史（大阪市立田川小学校）

この講義で一番のポイントは、先生自らおっしゃるようにハードスキルとソフトスキルである。

ハードスキルとは、仕事そのものの能力のことである。例えば、スーパーの場合、パッキング、値札付け、清掃、品出し、カートの片付け、レジ打ちなどがある。

次にソフトスキルとは、ミスジョブ・マッチングと人間関係に分かれる。

前者は、仕事がつまらなかった、自分に合わない仕事だった、などである。

後者は、人間関係で問題を抱えた、雇用主に自分の障害を理解してもらえなかった、普通に人の感覚を身につけさせようとされ精神的なダメージを受けた、「障害など関係ない、努力して直せ」と言われ重圧になった、などである。

梅永先生によると、離職理由の9割は、ソフトスキルによるものだそうだ。今まであまり重視されてこなかったソフトスキルというものが仕事を続ける上で非常に大切なものであることが分かる。

それでは、発達障害の方の就労支援を行う上で、どのような支援が必要なのか？ 先生は、発達障害の人へのSSTには疑問を呈されている。それは限界があるからだ。

それよりも、ライフスキルを身につくよう支援をしようとおっしゃる。

ライフスキルと言っても、難度の高い分野のライフスキルではなく、家を離れて一人暮らしをして就職して、仕事を続けるためのライフスキルである。

先生はそれを、頻度によって、毎日のライフスキル、1週間のライフスキル、1か月のライフスキル、一年のライフスキル、その他のライフスキルと分類される。

毎日のスキルは、朝定時に自分で起きられる、顔を洗うことができる、朝食をとることができる、…だ。1週間のスキルは、土日に適切な余暇を楽しむことができる、爪を切ることができる…だ。1か月のスキルは、散髪に行くことができる、部屋代、光熱費などを支払うことができる…だ。つまり、毎日行うこと、1週間に1～2回行うこと、1か月に1回行うこと、と頻度ごとに人が生活していく上でやらねばならないことがある。それが、なぜここで話題に上がっているかと言うと、そういうある意味簡単なライフスキルを身につけることこそが、離職せずに仕事を続けることに重要だからだ。

この研修で近くに座った方と偶々雑談をしていた。特別支援学校に行ってい

た子どもと、特別支援学級に行っていた子どもとを比べると、後者は、身辺自立に関わる生活習慣が身につけていない傾向があるとのことだった。それは、現場でも感じる。保護者の方の支援の意識は主に勉強面に向けられ、生活習慣は軽視される傾向がある。しかし、確かに仕事を続けるには、それらのスキルが必要だ。だと言って、大人になってから身につけることはできない。子どもの頃からの断続的な支援・指導が必要だ。保護者の方の理解も深めてもらいながら、これらのスキルへの支援も行っていきたいと思った。

## テーマ「アセスメントの力を高めるための スーパーバイザーの役割と事例検討の進め方」

講 師 大正大学人間学部臨床心理学科  
教授 近藤 直司

報告者 柴田 博史(大阪市立田川小学校)

時間だけかかるが、何も有益なことは決まらない。話題が堂々巡りだけして、気がついたら時間になっている。そのようなことから脱却するための方策としての事例検討を学んだ。

まず、私たちは、研修に先立って現在支援を行っている利用者さんについてのレポートを用意した。ここで、重要なことは、利用者の現状の姿ばかりを羅列するのではなく、生物ー心理ー社会 の3つの要因からアセスメントを行い、1つの仮説をまとめ上げることである。私自身も、レポートを作成する時、いろいろ仮説が考えられる中で、本当に1つの仮説に絞り込んでいいのかどうか悩んだ。しかし、1つの仮説に絞り込んで、レポート作成後約1か月支援を続けることで、その仮説が誤っていたことが分かった。もし、1つに絞り込んでいなかったら、今でも「～かもしれないし、～かもしれない」という状態が続いていた可能性が高い。

実際にグループワークを始めた。順番に自分の事例について、5分の持ち時間の中で事例を説明していった。

グループワークを行う中で、説明する際のポイントを学んだ。①アセスメントを参加者に説明する時に、「生物的なことは」のように、最初に枕詞を述べた上で自分の仮説を述べる。その際に、自分の仮説を裏付ける情報をエピソードの形で交えると分かりやすい。②アセスメントとして仮説→支援課題→プランニング という順で1つずつ横に述べていくと参加者に分かりやすい。

次に事例検討の司会者として大切なことは、①アセスメントのフォーマットのどの部分の話題かを意識し、不明確な場合は明確にする。②同時進行する論点を3つくらいまでに絞り、論点を拡散しない。③残り時間を意識しながら、論点の解決を心がける。④質問することで支援課題を明確にしたり、プランニングをよりよいものにしたりするなど、意図を明確にした質問を促す。

私は、最後の検討会でオブザーバーをした。全く発言のない立場だったので、客観的に検討の展開を見ることができて、問題点も見つけやすかった。私たちの班の事例検討では、支援課題について質問が出る中で、支援者の気づかない重要な背景が明るみに出てきた。それは、Aさん(利用者)が過去に虐待を行い、そのため息子さんが育児院で育てられていることだ。Aさんは、作業所と家庭での不安やストレスを抱えるために、作業所でこの頃暴言や暴行が出てきてい

る。その不安やストレスの大きな1つの要因が、息子と一緒に暮らしたいのだが、暮らせないことだ。彼女のストレスの中で、息子との別居は大きな位置を占めている。そのことが質問の中で明らかになったことはよかったが、その後の検討で、それへの対応が十分に深められることがなかったのは残念である。

今回は、オブザーバーであり、発言ができない立場であるがゆえに、そのことが明確に分かった。これからは、実際の検討会で、自らが発言をしながらも、論点の深め方が不足していることに気づけるようにがんばりたいと思った。

また、こういうアセスメントを日常的に行い、支援に生かしていけるようにもなりたい。

## テーマ「軽度発達障害の方への ライフステージに応じた支援について」

講 師 ころとそだちのクリニック むすびめ  
院長 田中 康雄

報告者 藤井 美紀子(兵庫県社会福祉事業団 三木精愛園)

講義の初めに、先生が「発達障害」という言葉には違和感があると話された。成長の発達には誰にでもある。しかし、成長の過程において、負の様相が消えることなく持続的に影響を及ぼしており、日々の生活に苦勞している人がいる。言い換えれば、発達の特性を持っているため、生活に障害があるのである。認知の障害は克服できないが、生活の障害は克服できる。生活のつまずきを小さくしていくのが私たち支援者の仕事である。

ライフステージに応じた支援とは。出産前後から母親の支援にも留意すべきことがある。妊娠中はアルコールやタバコは胎児に影響を及ぼすため、母子手帳を手渡す際にはしっかりとそのことを伝え、妊婦はアルコールやタバコは絶対に絶たなければならない。また、マタニティーブルーズや産後うつは誰でも起こりうることとして、母親の状態にどう対応すべきかを周りの人が理解しておくべきである。そして、子育てや夫婦の関係が将来的にも上手くいくようにしなければならない。

出産後の子どもについて、「何か違う」と母親は気づき始める。しかし、その後、周りからの対応に拒んでしまう母親の心理にサポートが必要になってくる。また、早期診断、早期療育が大切であると言われているが、実際は、健診時に指摘されても、その次の行き場所がない現状がある。診察の予約待ちで何か月も待たされる。早期療育ができる繋ぎ先を国家的問題として作っていかなければならない状況である。

診断時は、親への伝え方やタイミングを十分に考えなければならない。

また、子ども自身が変わっていくためには、親が変わる必要がある。しかし、そのまえに、親は心と体を休めることも大切である。疲れていては、子どもの良いところを探せない。支援者はお母さんのサポートや共感することを意識して支援を行わなければならない。お母さんの良い状態を作ることで、子どもを認め、褒めることができるのである。

親へ贈る言葉として「ご苦勞様です」「よい子育てをされています」「たくさんのお話を学ぶことができます」「休めるときはゆっくりと休んでください」そして、親が望む、必要とされているだろう情報をタイミングよく提供する。

教育期では三者関係が始まり、我慢をしなければならなくなる、低い評価にさらされやすくなり、自己価値観が落ちていく。この状況から逃れようと抑制



的、孤立的な生き方で消極的な防衛を図るか、積極的な振る舞いで適応を試みるが、浮いた結果を生んでしまうか。時には学習不振、やる気のなさ、学習場面からの撤退、妨害、回避、自己主張としての攻撃性が表面化する。

学校の先生は、問題の所在を「医療的」に求める傾向があるが、先生にとっては学級メンバーの中のひとりであることをしっかりと認識しておくことが大切である。（「診断がつけば対応ができます」という学校長の言葉。「僕のこころを病気と呼ばないで」という子ども）

文部科学省は、インクルーシブ教育システムにおいて、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要であると考えている。

思春期になり、再び壁に。発達障害は二次障害というものが生まれやすく、とても大変なことであるという風評がある。専門家が二次障害を「生じてはいけないもの」と規定してしまえば、親や教師に二次障害をいたずらに恐れさせたり、犯人探しに駆り立てたり、困った状況を作り出す可能性がある。「二次障害は発達障害のかなり一般的な側面の一つである」という二次障害はだれにでも生じるものだととらえることの意義は大きい。

二次障害の出現はお互いに育ちあうチャンスと捉える。

本人への説明、告知については、信頼関係がない時点の告知を相手に受け入れられるかどうかを考え、説明することを急がず、タイミングを見計らう。告知する者は、その人の人生がかかっていることをしっかりと認識しておくことが必要である。

診断名告知は、医学教育の一環である。大切なことは、具体的な困難に対応する技術を持つ、自分の特性には名前が付くことを知る、手に入れた知識を主体的に活用する、他の同じ障害がある子どもを知る、改めて自分自身を肯定的に捉え直す、ことである。課題としては、告知を阻む風土、社会の理解度、障害観、医療・療育・教育のサービスの貧困さ、家族内の意見の不一致、診断確定の困難さ、専門家同士の情報交換・共有の程度がある。

関係機関同士のよりよい連携を目指して、立場対等性の育成をしなければならない。お互いの専門性を尊重し、役割分担を明確にする。共通言語で話ができるよう対話に気を配る。互いに支え合い、当事者の支えに繋げていく。

私たちは「応援する」。応援とは「育ち」を見続けること。応援とは幻想を捨て希望を抱かせることである。

その人にとって途切れない支援が必要である。その人となりやアセスメントする。地域をアセスメントする。就労、会社をアセスメントする。コーディネートの力が重要である。親の不安は一生続く。一番初めに告知された言葉が耳を離れないという親がいる。田中先生は、「あの言葉があったから今がんばれていま

す」と言われたとおっしゃられた。クリニックの院長である田中先生は、発達障害の人のライフステージに応じた支援をしっかりと理解され、親の気持ちも含めて、発達障害がある方の環境がどうあるべきかを私たちに伝えてくださった。学校現場の講義、就労の講義、アセスメントの講義、診断の講義等、この研修で様々な分野の講義を受けてきたが、今回の田中先生の講義はこの研修の最後の講義に相応しく、それらを総合的に教えていただいた。その田中先生のようなお人柄が、人間味が一番支援に大切なものなのだと感じた講義だった。

# 実務研修報告

# 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修

社会福祉法人 侑愛会  
星が丘寮 中野 伊知郎

## 1、実務研修の概要

社会福祉法人 侑愛会（おしまコロニー）では、第1回目を平成27年9月28日から10月2日まで、第2回目を平成27年12月7日から12月11日までの、各5日間、2回にわたり実務研修を実施している。参加者の職種は多岐にわたっており、障害者支援施設の支援員やサービス管理責任者、発達障害者支援センターのコーディネーターなどであった。また、経験年数も幅広く5年から20年の職員である。

1回目の参加者は2名、2回目の参加者は5名の計7名が参加している。

## 2、実務研修検討会の開催

実務研修を引き受けるにあたり、研修日程の調整やプログラム内容の検討を行うために、主要な事業所が集まり検討会議を開催している。

検討会議で話し合われた内容をもとにして、研修内容の決定がされた。その内容は、おしまコロニーの特色を生かしたものにすることとし、発達障害の方々に対する、幼児期から青年期・成人期そして老年期までの支援体制を見ていただきながら、各ライフステージに応じた取り組みを通して、一貫した包括的な支援が継続的に行われていくことの重要性を伝えることと、その中で、TEACHプログラムの構造化のアイデアを応用した取り組みが、どのように実践の中で生かされているのか？ということを中心に構成した。

平成27年度 発達障害支援者スーパーバイザー養成研修 実務者研修

曜日	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
9月28日(月)					受付	あおいそら（発達障害者支援センター） 「オリエンテーション」 「自閉症の障害特性とアセスメント」 「発達障害者支援センターの役割」			ホテルへ送り	
9月29日(火)	概要説明 評価の説明 つくしほ学級	つくしほ学級での実習 実際に子供たちと関わってもらいながら評価を行う		休憩	グループワーク 「評価を基にしたGW」		講義「児童発達障害者支援センターの取り組み」		ホテルへ送り	
9月30日(水)	概要説明と施設の見学 WSほくと	WSほくと実習 評価方法の説明		休憩	WSほくと実習 VTRを基に実際の評価を行う		グループワーク 「評価を基にしたGW」 講義「成人就労支援」		ホテルへ送り	
10月1日(木)	概要説明と施設見学 星が丘寮 ねお・はろう	講義「強度行動障害者支援」 ケースを基にしたGW		休憩	講義「生活支援・日中活動支援」 施設見学を交え、意見交換		星が丘寮での実習 実際の生活場面を見てもらいながら、意見交換を実施		ホテルへ送り	実務研修の総括・意見交換会の実施
10月2日(金)	児童入所施設（おしま学園）・特別支援学校（分校）の見学を行います			休憩	函館駅まで送迎					

\*あおいそら：オリエンテーションの中で、法人概要を説明するとともに、自閉症の障害特性およびアセスメントの基本を習得してもらう

\*つくしほ学級：informalな評価を中心に、療育の中でアセスメントを行ってもらう

\*ワークセンターほくと：TTAPをもとにしたformalな評価を中心に、生活支援、日中活動支援のアセスメントを行ってもらう

\*おしま学園・分譲：児童入所施設と特別支援学校の実践を見学してもらう

### 3、研修プログラムについて

- 1日目：発達障害者支援センターにて、侑愛会の概要と北海道における発達障害者支援センターの役割について説明している。また、実務研修を進めていく時の基礎となる、自閉症を中核とする発達障害の特性について説明を行い、今回の研修の大きな目的である「アセスメント」の重要性とその考え方をについてレクチャーしている。
- 2日目：児童発達支援センターにて、自閉症児に対する療育を中心に実習を行っている。「つくしんぼ学級」の概要の中では、自閉症を中核とした発達障害児が多く利用していることを説明している。  
実践研修では、実際に子供たちと関わってもらいながら、「コミュニケーションサンプル」をとり、それぞれの評価を持ち寄って、分析・検証を行っている。それらの分析をもとに、今後、想定される目標設定について、職員と意見交換を行っている。
- 3日目：通所事業所にて、自閉症者の成人期における日中活動の様子を見てもらいながら、働くことに対する評価「TTAP」を用いて、アセスメントの方法について意見交換を行っている。実際に直接観察を行っている様子をビデオで見ながら評価をしてもらい、自閉症の特性について意見交換を行っている。
- 4日目：入所施設にて、「強度行動障害」に対するアプローチの考え方や、実際のケースをもとにした事例検討を行っている。その中で、それぞれ意見交換を行い、チームアプローチの重要性について説明している。また、構造化のアイデアをどのように生活や日中活動、社会活動に生かされているのかをビデオなどを見ながら、意見交換を行った。その後、実際の生活寮で利用者のアセスメントを行っている。
- 5日目：障害児入所施設と特別支援学校の見学を通して、学童期における自閉症教育・療育の実際を見てもらい、意見交換を行っている。

### 4、まとめ

平成27年度については、画一的な支援ではなく、個別支援に視点を当てたアプローチの必要性について伝えることに重点を置いて取り組んだ。そのため、実際の利用者に対してアセスメントを行ってもらい、そこから「根拠のある支援」を組み立てていくためのヒントを導き出すために事例検討を行っている。

昨年度に引き続き実務研修の受け入れを行ってきたが、参加者のニーズが様々であるため、今回の実務研修がそれぞれの現場において、どれだけ実践に役に立つのかを計り知ることができなかった。今後は研修に参加してもらった職員の方々が、その後、どのような実践を行っているのかをフォローアップする仕組みなども必要ではないかと感じた。

実務で得た経験をそれぞれが持ち帰り、実際に活用していく中で、自閉症支援を実感してもらい、そのことをきっかけとして、発達障害者に対する正しい理解のもと、療育・支援が行われることによって、関わる自閉症の方々の生活の質が向上することを期待している。

# 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修受け入れをして

社会福祉法人はるにれの里  
札幌市自閉症者自立支援センター ゆい  
中村 修一

平成26年度から始まった発達障害支援スーパーバイザー養成研修、昨年度に引き続き今年度も実務研修の受け入れをしました。

今年度は9月22日～25日、10月20日～23日の2回に分けて7名の方、地元北海道札幌、南は九州大分県と全国各地から参加していただきました。

## 1、はるにれの里の研修概要

発達障害支援スーパーバイザー養成という幅の広い領域での研修プログラムであるように行動障がいがある方の支援に偏ることなく、はるにれの里で行っている事業や支援仕組み・ベースとなる法人の考え方（理念）を情報提供させていただき、受け入れる私たちも参加された全国から様々な職種・立場の方々の意見を吸収できるようなプログラムとさせていただきます。

## 2、研修日程について

研修日程としては、1日目2日目は札幌市自閉症者自立支援センターゆい（以下ゆい）で研修を行い、『法人の沿革やはるにれの里の支援での考え方の説明』『個別ケース報告』『栄養士からの食事面での支援』『法人の地域移行やGHを支える仕組みと課題』などを報告させていただき、参加者の方とそれぞれの事業の取り組みなどディスカッションをさせていただきました。

3日目4日目のプログラムとしては、法人として人材育成の取り組みの一つとしてグループホーム職員等対象の法人研修への参加と法人内の各分野の事業所見学をしていただきました。

普段の法人内研修は、業務が終わった夜におこなわれるのですが、GHや居宅介護事業所などに勤務している職員だと、夜間業務があり参加が難しいため、GHや居宅介護事業所のための法人内研修を終日かけて行う研修を年4回行っています。その研修会に参加していただきました。GHの法人研修会では、手前味噌ではありますが、法人の事業の中心となるGHを支えている職員の熱い気持ちを感じ

1日目	
9:30	オリエンテーション
10:00 11:00	法人の理念と課題
11:00 12:00	ゆい・おがる説明
12:00 13:00	休憩（ゆい）
13:00 15:00	はるにれの里 自閉症支援の考え方について
15:00 16:00	施設内見学
	質疑応答及び意見交換 課題の整理
2日目	
9:30	オリエンテーション
9:45 12:00	生活介護 ブロック実習
12:00 13:00	休憩・昼食
13:00 14:00	ケース報告
14:00 15:00	健康栄養
15:00 16:00	グループホーム見学
16:00 17:00	地域で支える仕組み作りと課題
	質疑応答及び意見交換 課題の整理
3日目	
9:20	札幌駅出発
10:00	やすらぎ・彩見学
11:15	きのこ村見学
12:15	生活介護事業所 ほぬーる昼食・見学
13:45	就労移行事業所 札幌あるば見学
14:30	児童発達支援センター さんりんしゃ見学
16:00	札幌駅着
4日目	
9:30	オリエンテーション
9:45 10:15	個別支援計画と地域移行
10:20	移動
11:00 16:00	地域職員研修会
16:00	札幌駅着

ていただけたのではないかと考えています。

法人事業所見学では大小60近くの事業があり、出来るだけいろいろな機能の事業所を見ていただけるように見学コースを考えています。知的に重度から知的に障がない方、児童期・就労系・グループホームやグループホームを支える地域支援事業所等できるだけ多くの事業所を札幌市と石狩市を回って走行距離100キロぐらいを一日かけて見学しました。発達障害のスーパーバイズを考えると法人内の見学も外せないメニューだと思っています。

### 3、受け入れを通して

毎日朝から夕方までほとんど休憩のないメニューを組んでいます、皆さん真剣に聞いていただいているので、こちらもやりがいがありました。ディスカッションの中でも話が出たのですが、法人やゆいでの取り組みに関しては、施設での適応力を目指すことではなく、それぞれの個々にあったサービスがある程度出来ていることではないかと考えています。「利用者それぞれの能力や気持ちの容量を受け止め、持っている力に合わせて日課の組み立てを行っている」「本人に伝える物事・情報などがその方々にわかりやすい・伝わりやすい方法になっている」ことなどの感想をいただき、私たちにとっても励みになる研修でした。今後もこの研修がより良い形になるように努めていきたいと思っています。



食事・栄養に関して講義



ケース検討会



就労移行事業所への見学



児童発達支援センターへの見学

# 平成27年度 発達障害スーパーバイザー養成研修 報告

障害者支援施設 あいの家  
 管理者代理 春日 和之

## 1、実務期間、人数

- ①平成27年 8月 3日（月）～ 7日（金）2名
- ②平成27年 9月21日（月）～ 25日（金）3名
- ③平成27年10月12日（月）～ 16日（金）3名

## 2、実務研修プログラム

	9:00	12:00	13:15	13:30	14:00	15:00	16:30	17:00
月曜日				受付	開講式、オリエンテーション 講義、「社会福祉法人梅の里の歩み」			意見交換会 全体見学
火曜日	日中活動（作業支援） 通所：ロウソク		休憩	生活支援、日中活動 通所：ロウソク		生活支援 通所：短期入所		まとめ 意見交換
水曜日	講義「療育と余暇支援」 障害者支援施設あいの家		休憩	生活支援、日中活動 通所：手工芸		生活支援 通所：短期入所		まとめ 意見交換
木曜日	日中活動（作業支援） 入所：農耕		休憩	日中活動（作業支援） 入所：農耕				まとめ 意見交換
金曜日	講義「発達障害者支援センターの機能及び現状」 閉講式・まとめ 意見交換							

## 3、研修プログラムの軸

- ・難しい障害特性を有する自閉症の人達への支援には、全職員が共通した意識と目的が必要である事への理解。
- ・個々の利用者への理解と生活の豊かさに繋がる余暇支援活動の紹介。 ～事例紹介～
- ・障害特性を考慮した作業支援の紹介。
- ・強度行動障害の方の短期入所支援の取り組み。



## 4、臨床実習

- ・屋外作業の農耕班と室内作業のロウソク班、手工芸班に分かれて、実習をして頂きました。農耕班では、利用者の特性に合わせた設定内容を見て頂き、室内作業では、細かい作業工程を分かりやすく設定している状況を中心にみて頂きました。
- ・生活支援では、短期入所の利用者支援を見て頂き、日によって利用する人の変わる環境の中で、落ち着けて寛げる環境とプログラム等を見て頂きました。

## 5、研修を終えて ～参加者の声～

意見交換時のご意見内容から抜粋

- ・利用者の皆さんが、日中活動等を通して様々な環境設定の中で、持てる力を発揮されている様に感じられました。また、発揮される為には、個々のニーズを考えた支援が必要である事を理解出来ました。
- ・生活されている空間がとても、ゆっくりとした時間で流れており、その事が利用者さんの余裕に繋がっていると感じ取れました。
- ・利用者さんが、生活を送る上で行動に困ってしまう等の場面を常に想定しながら、利用者の立場で、ニーズに合った支援を作り上げていく事が大切だと感じました。
- ・パズルひとつでも、個々のニーズに合わせた設定となっており、取り組みを通じて利用者の見え方や捉え方、流儀などが次第に分かっていく事を理解出来ました。
- ・農耕班などの活動では、ちょっとした工夫と促し方で、利用者の取り組みが広がる事を理解しました。

## 6、まとめ

今回は8名の受講生が参加されました。SV研修に受講される方々は実務経験も長く、其々が課題や疑問に真剣に向き合っている、発達障害への理解に意欲的な皆さんですから、「あいの家」にとっても多くの「学び」「気付き」に出逢います。皆さんの姿勢と質問は、改めて自分たちの実践を見つめ直す機会であり、それらを今後の支援に具体的に活かしたいと考えます。

SV研修でも、実務研修での「やりとり」は施設間の垣根を越えますから、「学び合い」、「育ち合い」を実感するものです。そして、同じ課題や悩みを抱える者同士ですから、僅かな時間であっても、「仲間意識」が生まれます。その事も実務研修の大きな意義と思います。

これからも、それぞれの事業所でスーパーバイザーの皆さんが核となり、利用者さんの支援が更に充実される事を願っています。

# 平成27年度 発達障害者スーパーバイザー養成研修 報告書

社会福祉法人けやきの郷 水野 努

## 1. 研修概要

平成27年度のSV研修の実務研修として、「けやきの郷」では、3回の研修会を実施致しました（計13名の受入れ）。

○第1回目…平成27年 8月31日～ 9月4日 受け入れ人数5名

○第2回目…平成27年10月 5日～10月9日 受け入れ人数3名

○第3回目…平成27年11月 2日～10月6日 受け入れ人数5名

## 2. 実務研修プログラム

3回の研修プログラムの概要は、以下の通りとなります。プログラムは、「けやきの郷」内の各事業所に、臨床実習と講義とにセットにしなが、構成しております。

	9:00	10:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
月曜日					受付	開講式 講義「けやきの郷の理念」				意見交換会
火曜日	オリエン テーション	臨床実習 (初雁の家)	休憩	臨床実習(初雁の家) 演習「太田 Stage 評価」(初雁の家)					臨床実習 (初雁の家)	
水曜日	オリエン テーション	臨床実習 (やまびこ製作所)	休憩	臨床実習(やまびこ製作所) 講義「自閉症者の就労支援」(やまびこ製作所)					臨床実習 (潮寮)	
木曜日	オリエン テーション	臨床実習 (ワークセンター けやき)	休憩	臨床実習(ワークセンターけやき) 講義「発達障がい者への総合的支援」 (潮寮・まほろば)					意見交換会	
金曜日	臨床実習(まほろば・けやき) 相談業務		休憩	閉講式・まとめ 意見交換						

## 3. 「けやきの郷」における実習の軸として

5日間にわたる研修においては、各事業所の取り組み、利用者支援の在り方などについて、それぞれに学ぶ機会となりましたが、「けやきの郷」の共通の視点として、主に以下の2点について、重視しております。

### ①「けやきの郷の理念の実践」

「働くことを生活の中心に据えて、社会参加を目指す」「どんなに障がいが高くてもその人なりの自立をめざす」と、「けやきの郷」には、幾つかの理念があります。各事業所が共通の視点にたち、それぞれに応じた内容で実践を目指すことを心がけています。

### ②「太田Stage評価を基本においた支援の構築」

当法人の嘱託医である太田昌孝先生（心の発達研究所理事長）が開発をされた「太田Stage」は、自閉症の認知発達に視点をおいて、個々の発達段階を捉え、適切なアプローチを行うことを心がけているものです。「LDT（言語読解力テスト）」は、簡単な検査方法であり、客観性を伴うものでもあるので、支援に携わる支援者間でも、共通の基軸として活用することができます。成人期支援の場としては、生活、活動の場面の設定、あるいは、行動に対する背景を探る際の視点として、活用しています。

## 4. 最後に

SV研修に参加された皆様からも、情報交換を通じて、学ばせていただき、誠に有難うございました。この場をお借りいたしまして、お礼申し上げます。

# 平成27年度 発達障害スーパーバイザー養成研修 実務研修 受け入れ報告書

社会福祉法人 菜の花会 館山 聡

## 1 研修日程

日程については下記の通りに実施した。

当法人への研修参加者は全員で14名の受け入れとなった。第一期6名、第二期5名、第三期3名を受け入れた。

参加された方々は九州地方から北関東地方の方々と、広い地域からの受け入れとなった。

実務研修日程													
1回目		9月28日(月)～10月2日(金)											
2回目		10月27日(月)～31日(金)											
3回目		1月18日(月)～22日(金)											
		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	21:00
月	オリエンテーション	法人施設見学案内			昼食 ・休憩	法人の 理念(講話)	菜の花会の支援の基本方針と 実際(講義)				夕食	グループ ホーム見学	
火	地域生活支援の実際(講義)			昼食 ・休憩	施設実習 ・日中活動支援		施設実習 ・生活支援				夕食	施設実習 生活支援	
水	発達障害者支援センターの実際(講義) 行動障害のある方への支援(講義)			昼食 ・休憩	施設実習 ・日中活動支援		施設実習 ・生活支援				夕食		
木	施設実習 ・日中活動支援			昼食 ・休憩	施設実習 ・日中活動支援		施設実習 ・生活支援			夕食を兼ねた意見交換会			
金	まとめと 意見交換												

## 2 実施報告

初めに、この研修が全国規模で行われ、スーパーバイザーを養成するという目的を持っていることを踏まえ、当法人としてもその目的に微力ではあるがその目的に協力できるようにカリキュラムを組んだ。

また、このような研修は全国各地からの職員が参加される為、非常に良い機会であることから、他法人の考え方等を吸収し、これまでの支援の見直し等を図る目的で法人内の職員も参加させた。

以下、昨年課題となった部分も含めて振り返ってみる。

#### (1) 受講者のキャリア

昨年の研修参加者は、5年程度の経験の方から20年以上に亘る職員の方まで幅が広がったが、今回の受講者のキャリアは13名のうち10年以上を経験されている方が11名と、各事業所では重要な役割を担っている職員が多く参加された。そのため、研修の内容も焦点が絞りがやすく、お互い議論する内容についても相互に理解が通っていたと感じる。

今後もこの研修を継続させていくには、キャリアはある程度揃っていた方が、互いに効果的になると思える。

#### (2) 期間中の意見交換会

日中活動の中で疑問や質問等、当法人に対しての意見を伺い、また、各法人の支援の方針や理念を伺うことで、相互の支援に一層役立つよう、夕食を兼ねて情報交換会を実施した。やはり、研修へ参加される職員は一人ひとり仕事への情熱・意識が高く、活発な意見交換ができ、大変有意義な時間となった。

また、当法人に対し、「気になった点」「自分の施設だったらありえない点」など受講生よりマイナス評価をいただく時間を設け、自事業所の見えなかった部分を改められるよう、厳しい評価もいただいた。また、その評価は法人全体に伝わるようにして、自法人内でも質の向上に繋がるよう努めた。

#### (3) 施設に対しての質問等について

これは意見交換会を通し感じたことであるが、現場への研修の際には、受講者は該当する施設へ事前に幾つか質問事項を送付または電子メールで送信しておき、受け入れの施設は研修時までには回答を用意し、現場研修にてそれらを明確にしていくことも、より一層研修を充実させるための手段ではないかと感じた。これらは理念や支援の方針・指針等も含めて、他法人の取り組みを学べる絶好機であり、有効に活用できるのではと感じた。

#### (4) 困難事例検討会

これも昨年実施したことであるが、受講者のそれぞれの困難なケースを持ち合い、ケース検討を行う時間を設けた。

この意味として、スーパーバイザーという立場で業務を遂行するにあたり、ただの座学研修ではなく、他施設の困難ケースを検討し、共感できることや、他の手段等を考え模索し、様々な視点から考えていく時間も設けた。

まとめとして、研修を通して感じたことは、法人毎に理念や方針は異なるが、はっきりとしていることは一つであった。それは、「発達障害のある方々が安心して暮らせる環境を作る」ことである。この環境作りは今、国が主体的となって全国展開されてきており、「発達障害のある方々が安心して暮らせる社会作り」への発展を期待したい。その為に、このような全国展開する研修は非常に重要であり、継続して実施していくべきと強く感じる。

以 上

# 平成27年度 発達障害者S V養成研修 実務研修受入報告

嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦  
統括施設長 石井 啓

社会福祉法人嬉泉では、嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦（袖ヶ浦のびろ学園及び袖ヶ浦ひかりの学園の所在する袖ヶ浦地域における事業拠点の名称）にて、11月と1月に各5日間、計7名の受講生を受け入れた。



## 1、企画段階での受け入れに関する確認事項

- ①当法人の療育支援において根本的な考え方となる「受容的交流」の理念に基づいた講義や臨床実習のプログラムを企画・検討する。
- ②研修生と積極的に情報・意見交換をし、自らの支援を客観的に見直す機会とする。
- ③昨年度の反省から、実際の支援現場に入る事業拠点を限定し、より利用者に対する療育や理解を深められるようにする。（オリエンテーション時の事業説明や事業所見学は全事業所を網羅している。）
- ④講義だけでなく、可能な限り現場での臨床実習の時間を増やし、実際に行われている支援を体験してもらう。
- ⑤毎日必ず振り返りの時間を作り、その中で意見交換を行うと共にスーパービジョンを実施する。

## 2、企画段階での課題と対応

- ①昨年度は、全事業所の支援現場を経験してもらうため、満遍なくスケジュールに組み込んだのだが、その結果、「何日か同じ現場に入り関わりを深めたかった」、「表面的には体験できたが、支援の意図を理解するまでには至らなかった」といった感想が聞かれた。  
→今年度は実際の支援現場に入る事業拠点を、袖ヶ浦ひかりの学園（成人施設）、袖ヶ浦のびろ学園（児童施設）の2カ所に限定した。どちらに入るかは事前に受講生に選択してもらい、5日間を通して選択した事業所にて研修してもらった。
- ②宿泊場所の提供について  
→昨年度は戸建てタイプの宿舎（個室ではなく多床室で、受講生同士の交流を意図して）を提供したが、今年度は受講生の希望もありアパートタイプの宿舎（個室でプライバシーが確保される）を提供した。
- ③昨年度に引き続き、受講生と職員との親睦を深めるべく、交流会を実施した。  
→交流会という和やかな雰囲気の中で有意義な話が出来、参加者だけでなく受け入れ側の職員にとっても貴重な時間であった。

### 3、参加者の方のご意見、感想等

以下は事務局提出の実習報告の写しや、研修終了後に記入してもらったアンケートの中からの抜粋である。

(のびろ学園に入った受講生より)

- ・「受容的交流理論に基づいた支援が職員に浸透しており、こちらの質問に対する回答がその支援員からも揺るぎない思いを感じた。」
- ・「実際に利用者との関わりをここまで経験させていただく事は他の研修では出来ない事だと思うので、大変良い機会になった。」

(ひかりの学園に入った受講生より)

- ・「支援の方向性がぶれず、チーム支援にあたっていると感じた。また、利用者に対し、とても肯定的な声掛けをされていたこと、自主性を尊重しながらも職員との関わりを通して励みや強みを見つけて行こうとする支援に共感が持てた。」
- ・「同じ事業所で終始研修に取り組めることや、その日ごとに研修に入る時間をずらしたスケジュールは、利用者の方の細かな変化を見ることが出来、理解を深める事に繋がったので大変良かった。」
- ・「児童から成人までを展開している事業所はなかなかないと思うので、時間が許すのであれば児童施設の方も体験してみたかった。」

### 4、受け入れを通して

今年度は、昨年の受講生からのご意見を参考に、実際の支援現場に入る事業拠点を、袖ヶ浦ひかりの学園（成人施設）、袖ヶ浦のびろ学園（児童施設）の2カ所から選択してもらい、終始同事業所で研修を重ねる事でより支援に対する理解や利用者との関わりを深められるようにした。その結果として、上記感想欄にもあるように概ね好評であったが、一方では、時間が許せば他事業所も経験してみたかったというご意見も頂いた。この辺りのバランスの取り方が難しいところではあるが、昨年度に比べて“受容的交流を基にした支援を経験し、より理解が深まった”、“仲良くなった利用者の方とお別れするのが名残惜しい”といったご意見が多く聞かれたことは、大変大きな収穫であったと思う。今年度の反省を踏まえ、今後も本研修がより有意義なものとなるよう、法人として、施設として力を尽くしていきたい。

# 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 「社会福祉法人正夢の会」実務研修報告書

## 1. 実施期間、人数：

- ①平成27年10月9日（金）～16日（金） 2名
- ②平成27年11月9日（月）～13日（金） 1名
- ③平成27年12月14日（月）～19日（金） 2名

## 2. 実施場所：

- 初日：パサージュいなぎ（施設入所支援、生活介護）
- 2・3日目：昭島生活実習所（生活介護）
- 4・5日目：多摩市ひまわり教室（児童発達支援事業）

## 3. 実務研修プログラム

### (1) 日程表

曜日	9:30	10:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	17:00	17:45
月曜日			受付		開講式・オリエンテーション・見学 講義1 「正夢の会の取り組みと発達障害支援」：山本 事業統括、清水施設支援局長				意見交換	
火曜日	オリエンテーション	臨床実習 昭島生活実習所	休憩		臨床実習		講義2 「正夢の会の発達障害のある方への取り組み」：小島施設長		まとめ 意見交換	
水曜日		臨床実習 昭島生活実習所	休憩		臨床実習		講義3 「発達障害のある方の理解とアセスメント」：森心理士		まとめ 意見交換	
木曜日		臨床実習 多摩市ひまわり教室			休憩		振り 返り	講義4 「発達障害児の特性理解」：清水 施設長	まとめ 意見交換	
金曜日	講義5 発達障害児支援の実際」： 清水施設長	床実習 多摩市ひまわり教室				休憩		閉講式・全体のまとめ 意見交換		

### (2) 講義

①正夢の会の各ライフステージに応じたサービスの取り組み

②重度知的障害を伴う発達障害のある方の支援：

i 統一された支援への取り組み

昭島生活実習所ではどのスタッフが支援を行っても一定のサービスが提供できるよう、各種マニュアルとフォーメーション表と呼ばれるものを整備している。マニュアルは時間軸に沿って箇条書きにしており、利用者の状況に応じてすぐ書き換えられるようにしている。フォーメーション表は誰がどの時間にどの利用者にサービスを提供するか書かれた表であり、このフォーメーション表によりもれなく一定のサービスを提供できるようにしている。臨床実習では担当スタッフについて頂き、そのスタッフがどのようにサービスを提供しているか見て頂いた。

ii リスクマネジメント、ニヤリハットの取り組み

リスクマネジメントとしてインシデント・アクシデントレポートの取り組みを紹介した。年間1500件挙げられた年もあり、「ヒヤリハット」（職員がヒヤリとしたりハットした、インシデントに結びつく前に感じたこと）の段階でいかに対応策を講じていくか、ハインリッヒの法則と共に説明した。

「ニヤリハット」とは思わずスタッフがニヤッとしたりハットした、より良い支援への気づきであり、年間2000件挙げられた年もありスタッフ間で共有する仕組みを説明した。

③アセスメントの重要性

アセスメントについては独自の書式があり、13領域320項目についてアセスメントを行う。森心理士よりアセスメントについて講義を行った。

④幼児期に見られる発達特性と必要な支援

幼児期の支援は、成功体験の積み重ねによる自己肯定感の積み重ねであり、この時期の土台作りこそが、それ以降の意欲を支えることになる。また、不適切な行為はその背景が、定型的な発達による場合と発達のかたよりからくる場合があり、その見極めが必要である。叱責から学ぶことはなく、対処法を伝えることを方針としていることをお伝えした。

**(3) 臨床実習**

<昭島生活実習所>

①A5グループ

昭島生活実習所はA（自閉症の方）、B（身体障害のある方）、C（比較的コミュニケーションの取り易い方）の3つのグループに分かれており、その中でも特性に応じA1～A5、B1～2、C1～2の全部で9つのグループに分かれている。A5は比較的情緒が安定している方のグループでスケジュール支援や自立課題の取り組みについて説明した。

②A4グループ

情緒面で特別な配慮が必要な方のグループである。多飲症の方もおり、衝動を緩和する環境設定やPECSの取り組みについて説明した。

③C2グループ

静かな環境で落ち着いて活動することが望ましい方のグループである。癲癇発作がある方の支援、アンジェルマン症候群の方の支援について説明した。

<多摩市ひまわり教室>

①2～4歳児クラスと4～5歳児クラスの2クラスに入り、自由遊び・設定活動・昼食に参加する。こども達は、それぞれ場の共有、傍観遊び、並行遊び、連合遊び、協働遊びと発達の段階が違うが、各活動の中でそれぞれに応じたねらいや特性に応じた支援をする。重ねて即時アセスメント&支援も要求される場面が多く、幼児の育ちへの支援を体験した。

②心理小グループは3～5人構成で、挨拶・自立課題・1対1課題・自由遊び・ゲームの各エリアがあり、その中でねらいに応じた1時間の活動を実施している。室内で見学した。



# 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

社会福祉法人 横浜やまびこの里  
東やまたレジデンス 中村 公昭

## 横浜やまびこの里での実務研修について

横浜やまびこの里では、自閉症・発達障害の人たちへの専門支援機関として事業を展開している。支援に携わる職員が自閉症の障害を理解して、ひとりひとりにあわせた個別化された支援による自立支援や地域生活支援を目指している。当法人での実務研修では、施設サービス内での取り組みだけでなく、発達障害支援のスーパーバイズに必要なとされる障害の捉えかたや支援のプロセスからチームによる支援のしかたを含む支援のマネジメントなども研修カリキュラムに設定した。

### 1. 実施日程

第1回 平成27年10月26日（月）～10月30日（金）

第2回 平成27年12月14日（月）～12月18日（金）

### 2. 研修カリキュラム

	時間	内容	形式	場所	備考
月	13:30	研修オリエンテーション		会議室	
	14:00	法人の成り立ちと理念	講義	会議室	
	15:00	施設見学1（東やまたレジデンス）	見学	作業班	生活介護支援時間帯
	16:00	基本的な支援の考え方	講義	会議室	
	17:00	質疑応答－終了	意見交換		
火	10:00	観察と評価	講義	会議室	
	12:00	休憩			
	13:00	観察と評価演習	演習	会議室	
	16:00	施設見学2（東やまたレジデンス）	見学	作業班	生活介護支援時間外
	17:00	施設見学3（東やまたレジデンス）	見学	各ユニット	施設入所支援
水	10:00	施設実習1（東やまた工房）	現場実習	作業班	生活介護で観察記録
	12:00	休憩			
	13:00	施設実習2（レジデンス・工房）	現場実習	作業班	生活介護支援体験
	17:00	※オプション 作業エリア会議参加	聴講参加	会議室	※希望参加
木	10:00	施設見学3（ポルト能見台）	見学	作業班	生活介護
	12:00	休憩			
	13:00	事例検討1（通所者プログラム）	講義	会議室	企業内での作業
	14:20	事例検討2（入所者支援）	講義	会議室	行動障害者生活支援
	15:40	事例検討3（家庭・地域への支援応用）	講義	会議室	ガイドヘルパー利用
金	17:30	質疑応答－終了	意見交換	会議室	
	10:00	行動障害への支援	講義	会議室	
	11:30	質疑応答・意見交換	意見交換	会議室	
	12:00	終了式－解散			

### 3. 研修構成

#### ①講義・演習

対象となる受講者は年間の全体講義において自閉症の障害特性や支援技術の受講が終了しているため、最初に構造化された支援を提供する理由や意味を理解してもらう「基本的な支援の考え方」「観察・評価」を講義として設定した。ここでは方法論や技術論が支援の目的とならないように、ひとりひとりに応じた生活の向上や自立の目標設定とアセスメントの考えかた、そして客観的に見るべき観察のポイント、活動環境の工夫や支援のありかたを説明した。その後利用者の動画を見て観察と評価を演習形式で実施してもらった。

「行動障害への支援」の講義では、利用者が“行動障害を起こす人”でなく、環境との相互関係の中で生じている行動の仮説を障害特性と関連付けて説明した。そして“わかりやすく環境を変える”ことで行動が改善できる可能性を説明した。受講者が今まで学んだ講義を振り返り、利用者が示す行動を客観的に観察して、得られた情報と自閉症の障害特性を関連付けてチームで対応策をイメージできるようにした。

講義と事例検討や現場実習では一貫して、単独職員による支援でなく「利用者をチームで支えていく仕組みやポイント」の重要性を説明した。理由としては本研修を受講者する多くが、管理監督職クラスであり、障害理解や評価だけでなく、支援スキルや経験を問わず様々な職員構成のチームで支えていく仕組み作りに苦慮しているという声に応えるためである。

#### ②現場見学実習

作業エリアでの個別化された支援の工夫や、チームが同じ考えや関わりによる支援を実施する仕組みを現場見学や支援補助として参加してもらい学んでもらった。また利用者ひとりひとりに設定している活動の工夫や構造化された支援が、評価に基づいて設定している理由を、ワークシートを使用して観察や聞き取りで整理してもらった。オプション（任意参加）として作業班のエリア会議に聴講参加してもらい、平常どのように職員間で利用者情報を共有して検討しているかを体験してもらった。また今年度は、法人が横浜市の南部方面で運営をしている「ポルト能見台（生活介護事業）」の見学も加え、事業所が別の場所にあっても一貫した考え方で支援が進められていることを理解してもらった。

#### ③事例検討

最初に強度行動障害の人たちが施設での暮らしの中で適切な習慣を獲得するために、評価－計画－実施のサイクルを繰り返して支援調整をおこなったケースを紹介した。

残りの2事例は自閉症者への支援技術が特殊な施設環境で終結するのではなく、地域社会においても活用していくという、地域の中で生活を支えていくイメージをもってもらうため「施設から地域にでていき、作業活動を実施する」「余暇活動のためのガイドヘルパー利用において、ヘルパーに自閉症者への関わり方をサポートする」取り組みを紹介した。

在宅者、施設入所者、グループホーム入居者を問わず、共通する自閉症の障害特性をあらためて理解してもらい、問題となる行動の減少や消失が最終目標でなく、本人の暮らしを充実させるための支援というスタンスを再確認してもらった。

## 法人から実務研修実施の感想として

研修全体を通しておおむね高い評価を得られていた。観察評価の演習内容は現場でもフィードバックできるという意見もいただいた。横浜やまびこの里を実務研修場所として希望した多くの理由が、「TEACCH や構造化された支援の実際を学びたい」ということであったが、前述通りに方法論や技能の習得より、ひとりひとりの自閉症の人たちを理解するポイントと、チームによる支援のすすめかたに研修の力点をかけた。実地研修の講義を実施した管理職、現場案内を担当した監督職、支援会議に参加する現場職員、事例報告を担当した中堅職員が同じ考え方と言葉を使用して支援をおこなっていく状況を見てもらった。

受講者からは特定の不適応行動が見られる行動障害者への支援にも関心が高かった。事例検討や支援場所の見学実習では、座学で学んだ障害特性と「わかりやすく情報を伝える工夫が構造化」という考えかたを結びつけることができたという意見があった。

なお当法人での研修課題としては、受講者の経験年数の違いや、所属する職場の業務内容の違い、自閉症・発達障害支援に関するスローガンの違いなどから、研修に対する感じ方には温度差もあるため、積極的なディスカッションになりにくいグループもあった。そのため、ディスカッション時では、グループ構成員のバランスに配慮した柔軟な話題提供や修正も必要だろう。

全国の様々な機関から参加されている貴重な本研修であり、実地研修では各自の学びの他に受講者間の交流やネットワーク作りが期待されるだろう。しかし単発研修のためその場限りのつながりで終わってしまうため、フォローアップ研修などの仕組みが期待される。

### 【添付資料】

平成 27 年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修実務研修評価シート集計表

平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修実務研修評価シート集計表 社会福祉法人横浜やまびこの里 (全2回 / 13名)

評価ポイント：「参考にならない⇒1」「少し参考になった⇒2」「可もなく不可もなく⇒3」「参考になった⇒4」「とても参考になった⇒5」

1. 講義・演習について

テーマ / 評価点	1	2	3	4	5	平均	このテーマに対するご意見・提案 (抜粋)
①法人の成り立ちと理念 (講義)			1名	9名	3名	4.15	運営母体の親の会と運営側の分担、法人の成り立ちと理念が良くわかった。
②基本的な支援の考え方 (講義)				4名	9名	4.69	自閉症の理解を中心として「構造化」をひとつの手段としている意味を理解した。
③観察と評価 (講義)				4名	9名	4.69	日常的な観察の大切さを知った。評価のポイントや科学的な情報収集の理解を深めた。
④観察と評価 (演習)				2名	11名	4.84	集団で評価の取り組みの有効性を感じ、本演習を自施設においても実施してみたい。
⑤行動障害への支援 (講義)				1名	12名	4.92	問題行動のみの着目でなく、多様な原因や環境側の問題も整理する大切さを理解した。
①～⑤講義・演習 全平均						4.65	

2. 施設見学・実習について

テーマ / 評価点	1	2	3	4	5	平均	このテーマに対するご意見・提案 (抜粋)
①施設見学1 (東やまたレジデンス / 生活介護事業 支援時間内)			2名	7名	4名	4.15	ひとりひとりに合わせた環境設定や構造化のアイデアを良くイメージできた。
②施設見学2 (東やまたレジデンス / 生活介護事業 支援時間外)			1名	8名	4名	4.23	全体の空間設定なども深く理解できた。利用者がいない場面のため質問もしやすい。
③施設見学3 (東やまたレジデンス / 施設入所支援)				9名	4名	4.3	ユニットの特色が様々であり、機能性を感じた。生活場面での構造化の使用を観察できた。
④施設実習1 (東やまた工房 / 生活介護事業 演習利用者観察)				4名	9名	4.69	個別の設定により自立して作業をおこなう様子の流れに沿って見る事ができた。
⑤施設実習2 (東やまたレジデンス・工房 / 生活介護事業参加)				4名	9名	4.69	作業に集中できている人たちが多く驚いた。刺激への配慮なども理解できた。
⑥施設見学4 (ポルト能見台 / 生活介護事業)				7名	6名	4.46	プログラムが充実されていると感じた。もっと利用者や職員とのやりとりの場面を見たかった。
①～⑥施設見学・実習 全平均						4.42	

### 3. 事例検討について

テーマ／評価点	1	2	3	4	5	平均	このテーマに対する意見・提案（抜粋）
①事例Ⅰ（企業内での作業活動）				9名	4名	4.3	地域社会とのつながりを大切にすることを学んだ。
②事例Ⅱ（強行利用者の居室支援）				8名	5名	4.38	入所施設での試行錯誤の支援状況やスタッフワークの工夫を理解した。
③事例Ⅲ（ガイドヘルパーとの連携）				6名	7名	4.53	グループホーム職員が、ガイドヘルパーに障害理解を橋渡ししている状況が新鮮だった。
①～③事例検討 全平均						4.4	

### 4. その他研修内容への意見（抜粋）

#### ①横浜やまびこの里での実務研修を希望した理由やテーマについて

- ・構造化された支援の実際を学びたいため希望した。
- ・自閉症の支援を中心にしている法人運営の母体が「親の会」であることから、同じ親の会が運営する法人として参加を希望した。
- ・本養成研修の講義に「TEACCH」の講義があり国内での取り組みを参考にしたいかった。
- ・職員が構造化された支援に対してどのような見方やかわり方をしているのかを理解したかった。
- ・自身の元施設長が「横浜やまびこの里」に所属していたことを知っていたため希望した。
- ・自閉症の人たちが地域でどのように生活しているのかを理解したいため。

#### ②実務研修を経験し、特に参考になったことや改善したいことなど

- ・地域性を有効に利用した自閉症支援を進めていることが参考になった。
- ・職員全体が同じ方向性や自閉症の見方にそって支援している様子が参考になった。
- ・法人職員の多くに「障害者観や理念」が浸透していると感じた。
- ・演習での「評価観察」がとても参考になった。現場でのフィードバックしたいと思う。
- ・本人のアセスメントをもとに個々の構造化工夫を具体的にアドバイスできることが相談員として必要だと感じた。

#### ③その他感想や意見など

- ・アセスメント関連の使用しているフォームが欲しいと意見が多数。
- ・グループホームにも見学に行きたかった。
- ・利用者が静かに日中活動をしている様子に驚いた。
- ・一緒に参加した受講生との意見交換ができてよかった。

# 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修の受け入れから

障害福祉サービス事業 川崎市くさぶえの家  
園長 永井 岳治  
担当 近藤 順也

くさぶえの家では、9月2名、10月2名、12月2名、各5日間、計6名の研修生を受け入れました。  
当施設の取り組みを報告致します。

## 1. 実務研修受け入れに際しての確認

- ①法人の基本理念・施設の基本方針に沿った対応をする。
- ②全職員に実施の意義を説明し、研修成功への協力を依頼する。
- ③職員のスケジュール。
- ④当施設の歴史を含むあらまし。
- ⑤チューター役の職員にとっての研修であることの自覚。

## 2. 実習に向けての計画

- ①期間中のプログラムの策定。
- ②当施設囑託のスーパーバイザーによるケアカンファランスの実施。
- ③利用者への説明。
- ④職員のスケジュール。
- ⑤スライドを用いて、施設概要の説明上映会。

## 3. 実務研修プログラム

	8:30	9:00	10:00	12:00	13:00	15:30	16:00	17:00
火	出勤 オリエンテーション		現場実習 (体操・作業)	昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降園	休憩 反省会	退社
水	出勤	現場実習 (体操・作業)		昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降園	休憩 反省会	退社
木	出勤	講義 「自閉症者への地域支援」		昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降園	休憩 反省会	退社
金	出勤	現場実習 (体操・作業)		昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降園	休憩 ケースカンファ ランス	

## 4. 活動内容

### <体 操>

1日2回実施。朝は身体を起動すること、午後はクールダウンを目的に『常道行動・多動』に配慮した種目を、機会音響を使用せずマンパワーで行っている。また、カウントを行うことで始めと終わりを明確にしている。身体の使い方にぎこちなさのある自閉症者への体操提供は頭足腕などの部位の理解と、歩行などの身体の使い方などの向上に繋がる。また、健康の把握にも役立てている。リーダーは全体把握、利用者の反応、声掛けのタイミングに留意しながら進行する。

### <作 業>

『作業解体・部品組み立て』など障害特性に配慮し、「始めと終わりがわかりやすい」作業種を企業開拓し提供している。授産に力点を置くのではなく、『集中力・持続力・達成感・コミュニケーション能力』の獲得を目的としている。企業に赴いての園外作業の取り組みなどやりがいを感じられるプログラムも提供している。支援者は担当する利用者の課題を理解し、集中を促す声掛けと課題提供のタイミングに留意する。また、出来高などがやりがいや達成感、それに至るまでのプロセスをコミュニケーションの源にする。

### <給 食>

「食」が生きるための重要課題であること意識し、意義・マナー・楽しみを伝えている。各種行事での特別メニュー、リクエストメニュー等も提供している。摂取の様子から健康状況を確認する。

## 5. 講義内容 テーマ：『自閉症の方々の地域支援について』

講 師：くさぶえ地域相談支援センター相談支援員

- くさぶえ地域相談支援センターの役割
- 活動内容
- 「行動障害のメカニズム」
- 支援方法について
- 実践報告
- 質疑応答

## 6. 参加者の感想

### <日課について>

- ・体操が取り入れられて、利用者の方々が自分で自分をコントロール出来るようなプログラムで素晴らしいと感じました。
- ・体操があり、園外作業があったりと最初は驚いたが、時間が守られていることが利用者の為と感じました。

### <支援について>

- ・利用者に対する配慮を感じました。前向きな言葉への置き換えが良かったです。
- ・職員の統一した関わりと連携を強く感じました。
- ・利用者と職員の関係が強く、メリハリのある対応だった。一人ひとりに適した対応を取っていた。

## 7. 受け入れを終えて

実習生一人ひとりのモチベーションが高く、実習に対する姿勢が前向きであったと感じました。疑問点があった場合は、その場で質問してくることや、一日の振返りの時間でお互いの施設での支援方法について情報共有や討論をするなど良い学びの場になりました。

今回の実習を通して、参加された方々がリーダーシップをとってそれぞれの施設に還元して頂けたら幸いです。

# 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修の受け入れ報告

社会福祉法人 めひの野園  
障害者支援施設 うさか寮  
施設長 東 真盛

めひの野園では、9月に3名、10月に2名、11月に5名、12月に1名の方を各5日間受け入れた。

## 1 めひの野園が、この研修で目指したもの

めひの野園では、自閉症の人たちへの関わりのあり方と、関わりを通じた理解のあり方について、彼らと共に学びながら、生活支援の場、就労支援の場、相談支援の場及び地域支援の場を整備し提供してきた。多岐にわたるこれまでの取り組みをどこまでお伝えできるか疑問ではあったが、すべてをオープンにし、私たちのささやかな取り組みが、参加された方たちの明日への力添えになればと法人全体で企画・運営をした。

## 2 企画段階での課題と対応

長期間に渡る研修の受け入れが、変化への対応が困難な利用者にとどのような影響が出てくるかが課題だった。他機関からの実習依頼を調整したり、事業所ごとの受け入れを2名以下にするなど利用者の特性に配慮し、時には研修プログラムを変更しながら実施した。

また、前回の参加者から、いろいろな体験をしてみたいとの要望があったので、主に実習をメインとした。さらに、その日のテーマに添ったまとめの時間をつくって補足するとともに、参加者同士で互いに理解を深め合ったり、今後のネットワーク作りの一助になればと昼食、休憩、講義等でコミュニケーションが十分に図れるよう配慮した。

## 3 研修プログラムの軸

### (1) 環境設定

自閉症の人たちが安心して心穏やかに過ごすためには、環境がとても大きく影響する。そこで、入所における個々の特性に合わせた配慮、働く場におけるわかりやすく見通しのつきやすい配慮等を考察する。

### (2) 働くこと（日中活動）

当園では、出来ること・得意なことを活かし、「働きがいのある、人間らしい仕事」を提供することを目標としており、20種目を越える作業が用意されている。実際の作業体験を通じて、働くことの大切さと一人ひとりの可能性を高める支援について考察する。

### (3) 委員会活動

当園では、法人内の横断的な連携の取り組みとして11の委員会活動がある。その中から、支援が難しいとされる自閉症児（者）にとって特に重要であろうと思われる「個別支援委員会」、「人権擁護委員会」の活動を紹介する。

### (4) 地域生活支援

地域の中で自閉症の方たちが多くの人たちの助けを借りながらも、自立した生活ができるよう援助している。また、地域社会そのものに働きかけて、より多くの人たちが自閉症について理解を深め、



支援の輪に参加できるよう取り組んでいる。支援センターやグループホームの紹介、販売活動等への参加を通じて地域生活を支える支援について考察する。

#### 4 実務研修プログラム

曜日	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
月曜					受付	開講式 オリエンテーション		講義 めひのの自閉症支援		意見交換
火曜	オリエンテーション	生活介護実習 (生産活動)	休憩			創作活動実習 絵画・書道教室	講義 (環境設定)	講義 (人権擁護)	まとめ (生活支援)	
水曜		就労支援実習 (生産活動)	休憩			就労支援実習 (移行支援含む)	講義 (個別支援)	講義(支援 センターの活動)	まとめ (就労支援)	
木曜		就労支援実習 (販売・地域交流)	休憩			就労支援実習 (移行支援含む)	講義 (地域生活)	余暇活動 和太鼓	まとめ (地域支援)	
金曜		実習(選択) (生活支援・生産活動)	休憩			閉校式・まとめ 意見交換				

#### 5 研修を終えて

この実務研修も2年目ということもあり、多少ゆとりを持って対応することができた。今年は、一方的な情報提供ではなく、受講者に満足してもらえるよう、一人ひとりの研修ニーズに応えることを心がけた。

受講者の満足度は不明だが、「特性に合わせた環境、作業が提供されていた」、「利用者の背中が仕事をしている背中だった」、「ダイナミックな行動力に感心した」などの声も聞かれた。思いを少しは伝えることが出来たのではないかと感じている。中でも「法人の理念が浸透し、職員が同じ方向を見ていた」、「職員の責任感と熱意を感じた」という言葉がうれしかった。人材不足が懸念される中、現場の夢を育み、活機力を高めるのがスーパーバイザーの役割でもあるのではないだろうか。

法人内においても、大きな変化がみられた。担当以外の職員が、事前に参加者の施設を調べ、積極的にコミュニケーションを図り、能動的に受け入れを行っていた。また、後日訪問させていただいたりネットワークも構築された。さらに、参加者からの指摘に姿勢を正すこともあったと聞いている。単に研修の受け入れだけでなく、日々の活動の振り返りや受講者との意見交換を通じて、互いに研鑽を積む機会となっており得たものも大きい。

全自者協ならではこの研修が、ますます充実したものに発展していくよう願っている。

# 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

自閉症総合援助センターあさけ学園  
施設長 近藤 裕彦

## 1. 研修者の受け入れ状況

平成27年度は、①平成27年8月31日～9月4日、②11月24日～28日、③12月7日～11日の3回に分けて合計6名、また、非公式に岐阜県の発達障害者支援センターから4名の実務研修を受け入れた。前者6名の所属する事業所の種別は入所施設3名、通所施設2名、グループホーム1名で、そのうち全国自閉症者施設協議会の加盟施設の職員は4名含まれている。

## 2. 各研修機関の事業の概要

自閉症総合援助センターあさけ学園では、以下の(1)～(6)の支援機能を一体的に運用し、自閉症のある人たちへの総合的なアプローチを進めている。今年度の研修プログラムは、特に(1)～(3)の現場での臨床実習を中心に取り組まれた。

- (1) あさけ学園（入所）…施設入所支援・生活介護40名。ユニット化した小集団の居住環境を活用し、24時間を通じた生活支援プログラムを提供する。
- (2) ワークセンターひのき（通所）…就労継続支援B型・生活介護40名。利用者は自宅やあさけホームから通勤し、労働・作業を中心とした日中活動へ参加している。
- (3) あさけホーム（グループホーム）…21名（4棟で構成）。日中活動の場（ワークセンターひのき）と協力して地域生活支援プログラムを展開する。
- (4) 短期入所…4名（あさけ学園に併設）
- (5) 三重県自閉症・発達障害支援センターあさけ…専門的な相談機関として、地域の発達障害のある人たち、家族、関係諸機関への相談・発達・就労支援を行なう。
- (6) あさけ診療所（児童精神科、心療内科）…自閉症や発達障害をはじめとした児童精神科外来診療、施設利用者他の医療的ケアを担当している。

## 3. 実務研修プログラム

	8:30	9:30	12:00	13:00	14:00	16:00	16:30	17:00
第1日目			集合	オリエンテーション 見学・質疑応答	あさけ学園（受注→居住棟） 現場実習			意見交換 まとめ
第2日目	引継	カンファレンス 支援の具体的方法等	休憩	あさけ学園（受注作業→居住棟） 現場実習				意見交換 まとめ
第3日目	引継	あさけ学園(オリジナル) 現場実習	休憩	あさけ学園（オリジナル作業→居住棟） 現場実習				意見交換 まとめ
第4日目	引継	ワークセンターひのき 現場実習	休憩	ワークセンターひのき 現場実習		休憩	グループホーム 現場実習	
最終日	引継	意見交換 最終まとめ	終了					

#### ○オリジナル作業

- ・木工、農園芸… 焼き杉、農作物や果樹の栽培
- ・食品加工 … 梅干し、ジャム、味噌の製造
- ・パン工房 … パンの製造、販売

#### ○受注作業

住宅部品の組み立て、自動車部品の組み立て、箱折り、他

### 4. 研修を終えた参加者の感想

昨年度の事業実施報告書においては、全国自閉症者施設協議会の加盟施設に長年勤務し、この実務研修の受け入れも担当するベテラン職員からの感想を載せた。今回の報告はやや対照的に、一般の知的障害者施設で勤務していた職員からの研修初日の感想を取り上げてみる（原文そのまま）。今後、研修を訪れる方たちの参考になればと思う。

あさけ学園の歴史と共に事業内容をお聞きした。

日本初の自閉症者の専門施設として親さん中心に設立されたが、その時の苦労はとても大変だったと思った。資金の問題が一番大きいと話されていたが、行政や周辺住民の理解や協力を得ることも大変だったのではないかと推察する。

自閉症者への専門的支援を取り入れながら様々な作業をされているが、「大人として当たり前の生活」を目指した取り組みがなされていた。私たちが知る施設では“作業”の意味合いが軽んじられている事が多い。現実社会の中に自分の労働がどう生かされているかという所まで至っていない。そのため利用者さんの自尊感情や労働意欲を高めることができず、“作業”自体が成り立たなくなってきた。それを“高齢化”の問題にすり替えて片付けられてしまっている様な気がしてならない。明日から実習に入れて頂いて一緒に作業させてもらうが、ある程度年齢のいった利用者さんがどのように意欲を持って仕事をしているか見せて頂きたい。

今日の施設見学で一番驚いたのは（いろんな施設と明らかに違ったのは）、施設特有の臭いがない事、確かに新しい建物もあったが、築20年以上経った所でも非常に清潔であった。また、利用者さん一人ひとりが分かりやすい部屋の配置や持ち物に工夫がなされていた。明日からの実習を通して職員の支援内容や対応方法も学んでいきたい。

# 平成27年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修実務研修報告

社会福祉法人つくしの会

実施機関名	つくしの会	担当者職氏名	はぎの郷施設長 袖野 完							
連絡先住所	〒929-0443 石川県河北郡津幡町字別所へ1番地									
電 話	076-288-0339	F A X	076-288-0340							
E-mail	mail@hagino-sato.com									
特 色	<p>はぎの郷入郷者の生活支援、療育支援、強度行動障害療育、ノーム通所者の就労支援、療育支援、生活相談、GHの在宅支援を行っています。又、県自閉症協会の年少児の在宅支援・相談支援にも関わっています。</p> <p>発達障害者支援センターでは、幼児年少期から青年成人期まで幅広く、相談支援、発達支援、就労支援等を行っています。</p> <p>自閉症の総合機関として、発達障害児者支援・療育の啓発を図ると共に、人材・機関を育成し、発達障害を持つ人々が安心して暮らせる社会環境の構築に取り組んでいます。</p>									
事業の概要	<p><b>障害者支援（自閉症者療育）施設 はぎの郷</b> 生活介護40名、施設入所支援40名</p> <p><b>就労支援施設 ジョブスタジオノーム</b> 就労継続支援B型20名</p> <p><b>グループホーム すぎな</b> 介護サービス包括型共同生活援助事業7名</p> <p><b>石川県発達障害者支援センター パース</b> 相談支援、発達支援、就労支援、普及啓発、支援者養成他</p>									
<b>実 務 研 修 日 程</b>										
*2回目		平成27年11月16日（月曜日）～平成27年11月20日（金曜日）								
曜 日	8:45	9:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	17:10	17:30
月曜日				受 付	自己紹介 近況報告 施設見学等	総論： 「つくしの会」の思想			まとめ 意見交換	
火曜日	講義・演習【パース】 「発達障害支援ネットワーク」		昼食 はぎ 休憩	臨床実習【はぎの郷】 食後・歯磨き等 活動：軽作業・織物			意見交換 15:30～17:10 「個別対応と共有理解」			
水曜日	オリエン テーション	臨床実習【はぎの郷】 朝の会、掃除、活動	昼食 はぎ 休憩	臨床実習【はぎの郷・ノーム】 午後の活動：PCカフェ			入浴 喫茶 余暇	意見交換 16:00～17:10 「一日の生活」		
木曜日	オリエン テーション	事例検討【はぎの郷】 9:30～12:00 「困難事例検討」	昼食 ノーム 休憩	臨床実習【ノーム】 活動：製菓、外部受託等 終りの会			討議【ノーム】 16:00～17:10 「就労・在宅・相談支援」		懇親会	
金曜日	オリエン テーション	討論会 9:30～12:00 「自閉症支援とは？」	昼食 はぎ 休憩	閉講式・まとめ 意見交換						

※講義及び最終日のまとめ・意見交換は各施設長・センター長が対応します。

## 1. 実務研修を受け入れるにあたって

当法人が「SV 実務研修」を受け入れるにあたって、以下の点を研修の目的とした。

法人設立時からの施設である「はぎの郷」は、他の自閉症児者施設同様、長い親の会活動のもとで出来上がった施設であり、30年近い歴史を持つが、ちょうど施設としても親の会としても、世代交代の時期に来ており、今一度現時点で、設立時の想いや意思、目指すところを、整理し再確認したい。その為にも外部の同じ専門施設の職員に入って見てもらうのはとても良い機会ではないか？という思いから始まった。

もちろん、私たちも専門施設としての支援力等を高めてきてはいるが、さりとて実務研修を通して勉強してもらおうとか、何かを持ち帰ってもらおうとかという気負いは捨て、まず私達が真摯に学ぶ姿勢で他施設の職員の方々に見て頂き、その方たちの厳しい意見にも耳を傾け、意見を戦わせる中でお互いの研鑽の場にしたい。

当法人での実務研修の意図は、「スーパーバイザーになって帰ってもらおう」こととした。「スーパーバイザーになるのだから、現実の問題に即答できるくらいの力を付けて帰ってもらいたい」という私達の勝手な願いである。

その意味で、私達が現場で苦しんでいることや、悩んでいる、迷っていることを、研修に来た方々に生の声でぶつけて即答してもらおう。両方が辛い思いをしながらも、力をつけていこうという試みの為に、研修内容は「事例検討」を中心に行った。

結果、実は研修する人にとってはとてもハードな内容になったのではないかと考えている。我々にとっても大変いい勉強になった。

## 2. 実施期間、人数：

①平成 27 年 10 月 19 日（月） ～ 23 日（金） 1 名

②平成 27 年 11 月 16 日（月） ～ 20 日（金） 4 名

## 3. 研修を終えて

まず自分たちのことからいえば、他施設から自閉症のベテラン職員が来るということで、職員が緊張感を持って受け止め、仕事に入れたということが一番の成果であった。自分たちが自閉症の専門施設で働いているということに改めて気が付いた職員も多かったことだろう。

逆に、参加頂いた皆さんには、その日その日で即興的に問題を投げかけ、宿題を提示し、発表してもらった。その都度違う角度からのアプローチを即座に考え、論理的に実践的に話をしてもらったことを繰り返したので、終わる度に「疲れたわ～」という感想が聴けたことは実に嬉しいことであった。

内容はどうあれ「実践力を磨く」という当初の期待通りの仕上がりになったという実感が持てた。

さらに研修中、研修者同士で活発な意見交換・交流がなされ、終了時には皆さん和気あいあいと談笑されている姿を見て、「あ～、研修を受けて良かったなあ…」と別の意味での満足感もあった。

実務研修を受ける目的として、研修者のスキルアップは当然のこととして、研修者が全国に散った後も、私達を含め、また同じ仲間として交流を続けていくことは、とても意義のあることである。

短時間集中で、本当にしんどい研修受入であったが、自分たちにとっても沢山の財産と課題を頂いた、有意義な時間であった。

# 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー実務研修受け入れ

社会福祉法人 北摂杉の子会 総務部 河辺 太一

北摂杉の子会では9月と11月に各4日間、11人の方を受け入れた。

受け入れに際して、以下の事を念頭に置いた。

## 1 企画の段階での北摂杉の子会での確認事項

- ① 2回目の受け入れであるので、スムーズな運営ができるように、十分に事前準備を行うようにする。
- ② 情報共有をしっかりと行い、ミスのないようにする。
- ③ 事前に様々な事項の確認を行い、参加者が研修に集中できるようにする。
- ④ ありのままの施設運営を見てもらうように、オープンな環境作りに努める。
- ⑤ 参加者からいただいた意見を真摯に受け止め、自分たちの支援を客観的にみる機会とし、支援の質をさらに向上させたい。

## 2 実務研修プログラム

	9:30-10:00	10:00-12:00	12:00-13:00	13:30-14:00	14:00-15:00	15:00-16:00	16:00-18:00
初日				受付	14:00-17:00 開講式・オリエンテーション 法人本部 講義 北摂杉の子会の概要と支援のあり方		17:00-18:00 意見交換会
2日目	オリエンテーション	10:00-12:00 臨床実習 グループホーム / レジデンスなさはら	休憩	オリエンテーション	13:30-16:00 臨床実習 萩の杜		16:00-18:00 講義「行動障害の支援」 萩の杜
3日目	オリエンテーション	10:00-12:00 臨床実習 JJ おおさか	休憩	オリエンテーション	13:30-16:00 臨床実習 ジョブサイトよど		16:00-18:00 講義 「自閉症者の就労支援」 JJ おおさか / JS よど
4日目	オリエンテーション	10:00-12:00 臨床実習 自閉症療育センター will	休憩	13:30-15:00 閉講式・まとめ 意見交換			

### 3 実施してみて分かった課題と今後の対応

①大阪市内や高槻市内での宿泊先の確保が難しい。

※参加者に対して、事前に宿泊先を施設があるエリア以外にしても、移動にさほど不便さが無いことを伝え、安心感を与えるようにする。

②施設への移動の問題

i 公共交通機関では不便な施設への移動

※施設担当者が車で送迎を行う。

ii 最寄り駅からの案内

※ご利用者の視覚支援の1つとしているホームページにある写真案内を利用する。

③意見交換の方法について

i 懇親会を企画した。参加者間の意見交換や交流にも役立つと好評を得る。

ii 閉講式に研修を行った各施設から職員を招き、もう一度質疑応答の機会を持った。



### 4 研修を終えて

2回目ということで運営に関するトラブルはかなり軽減された。関西への外国人観光客増加の影響で、ホテルの確保が難しい状況にあったが、高槻市や大阪市内以外でも、両地域への交通アクセスのよい京都府や滋賀県でも、移動にそれほど時間がかからないことを事前にお伝えできなかったのが反省点である。

今回の研修で見つけた支援方法を、自分の事業所に持ち帰って、実践していきたいという感想を頂戴できた。懇親会では、様々な事業所での課題点に関して意見交換ができたようで、好評であった。このような取り組みによって、支援の質が向上し、全国の自閉症・発達障がい・知的障がいのある方々が過ごしやすい環境作りに役立てればと思う。

# 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修受け入れ

障害者支援施設 あかりの家  
支援部 部長 亀山 隆幸

## 1. 受け入れ期間及び人数

	期間		日数	人数
①	9月	7日(月)～11日(金)	5	6
②	10月	26日(月)～30日(金)	5	5
③	12月	7日(月)～11日(金)	5	4
計			15日	15人(※)

(※) 15人の内訳として、県内3人、県外12人であった。



## 2. 受け入れに際しての法人内の確認

- (1) (自閉症総合援助センター(構想)を掲げる法人として)法人全体で取り組む。
- (2) (この受け入れを機会に)より客観的で体系的な、施設と支援の説明言語を作り上げる。
- (3) (この受け入れを機会に)地域等での支援者養成に乗り出す第一歩とする。
- (4) (支援のプロたちに見られることによって)自分(達)の支援を客観的に見る機会とする。  
閉じたり飾ったりする説明は避け、オープンで率直な説明に努める。

## 3. 受け入れ体制

- (1) 初日のオリエンテーションを始め、日々の反省会など、施設長以下、主任等で対応する。
- (2) 駅から徒歩30分を要する移動手段 → 最寄駅とあかりの家との送迎を毎日行う。
- (3) 5日間の宿泊場所 → 宿泊可能人数は少ないが、地域交流ホームを提供する。
- (4) 研修プログラムづくり → 下記の通り
- (5) 和やかで率直な意見交換ができる雰囲気作り → 初日夜に懇親会を設定。お互いが言いにくいことの中に“支援の大事な要素”があるとの考えで、夕方の反省会を共に有意義な場とする。

## 4. 実務研修プログラム(第3回目受け入れより)

	9:00	12:00	13:00	13:30	14:30	15:30	17:00	17:30
12/7 (月)			受 付	開講式・オリエンテーション(施設見学含む) 講義1「あかりの家の自閉症支援」			意 見 交 換 会	18:30～ 懇 親 会
12/8 (火)	臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→①プラグ 班、②軽作業班)		休 憩	事 例 検 討 ー リ ハ ビ リ 的 シ ョ ー ト ス テ ー	講義2「行動障害のある人たち への支援ー自閉症療育の キーワード集を通してー」		ま と め 意 見 交 換	
12/9 (水)	①臨床実習 ワークホーム高砂 ②臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→プラグ班、 軽作業班、さわり班)		休 憩	臨 床 実 習 あ か り の 家 (体 操 活 動)	講義3「自閉症の人 たちの地域生活支援」 地域支援センター あいあむ		ま と め 意 見 交 換	
12/10 (木)	臨床実習 あかりの家(引継ぎ) 臨床実習 児童デイサービス あかりの家		休 憩	臨 床 実 習 あ か り の 家 (ト モ ニ 活 動)	講義4「発達障害者支 援センターの取り組み」 発達障害者支援 センタークローバー		受 講 者 間 の フ リ ー ト ーク	
12/11 (金)	①臨床実習 ワークホーム高砂 ②臨床実習 あかりの家(プラグ班、 軽作業班、割箸班)		休 憩	閉 講 式 ・ ま と め 意 見 交 換				



## 5. 研修プログラムの軸

### (1) 強度行動障害のある方たちへの支援

#### (1) 行動障害のある自閉症の方たちを支援するチームづくり

強度行動障害の見られる方への支援の一つの鍵はチーム力。4月1日の全体会で、20年確認し続けている「あかりの家共通確認」（“土俵の外からの批判は迷惑”、“前向きなNoを大切にする”、“派閥は許さない”等）や「チームは支援力を高める過程で作っていく」研修体制などを紹介。

#### (2) 「あかりの家自閉症療育のキーワード集」を通じた支援の実際

10数年前より、「実践の中から得たエッセンスを言葉にし、つなぎ育てていく」ことを目的に、支援員は毎年原稿を提出し、編集者の施設長とやりとりを重ねミニ実践事例＝キーワードを完成させている。この自前の＜実践言語＞＜説明言語＞を介して、行動障害のある方たちの支援のキーワードを紹介。

#### (3) 「リハビリ的ショートステイとその取り組み（事例検討）」

「水中毒状態にあったAさんの家庭復帰に向けたショートステイの取り組み」を取り上げる。あかりの家で“水に向かわなくて済む”“ゆったりとした状態”をつくることを目標に、①日常の行動のスピードを緩める、②力抜き、③指示に応じれる関係を作っていた事例を紹介。

### (2) 臨床実習

#### (1) プラグ作業班

電子部品の組み立て作業。毎日、業者が集荷に来られるノルマや、精度の高い検品が求められる緊張感の中、10名の重度の自閉症の利用者が懸命に集中して取り組んでいる。そこから、自閉症の方たちの可能性を感じ取っていただく。

#### (2) トモニ活動

愛媛県のとモニ療育センターのSVを受けて、①課題学習（数字や時計やお金）と②料理づくり、を行なっている。「分かる」「できた！」という課題習得に加え、そのやりとりの中で利用者の見方が変わっていったり、支援観の幅を広げていく事を目的に実施。そのエッセンスを感じ取っていただく。

#### (3) 体操活動（ダイナミックリズム。膝立ち・寝かせ等の静止運動、前の利用者についで模倣運動他）

集団の力動的な面を活用して、“自分の身体が、自分でうまく動かしている”という実感を持ってもらう。そこで多動性の軽減を図ったり、支援者とうまくかみ合えた経験を積み重ねていく場面を見学。

## 6. 研修を終えて -参加者の声-

以下、閉講式の意見交換の場等であがった参加者の感想・意見をあげてみたい。

### ○トップ（施設長）の思想の支援現場への浸透

- ・「トップの思想や、それに向かう必要な支援を全職員が理解し、浸透していた。どの職員に質問しても、同じような回答があったのは凄い。」
- ・「三原施設長の『チームの支援力が無いと実現できない』という言葉。『あかりの家自閉症療育のキーワード集』では、10年以上のその積み上げがあり、それを実感した。」
- ・「技術面先行の支援現場を多く見てきた。『それが時代なのかな？、自分たちが古いのかな？』と思うことがあったが、実習を通し、自分たちの進む方向の正しさ・必要性を再確認させてもらった。」
- ・「軸職員の重要性（職員の頭数だけを揃えても駄目）。そこからの展開や広がり。特に印象に残った。」



### ○支援現場から感じたこと

- ・「支援現場の雰囲気は、利用者に対して、目の前だけでなく、これまでの経過を含めて、“表情、身体のかみ、動き”など、細かな視点を持ち、敏感な感度を働かせながら、利用者と関わっていた。」
- ・「“あかりブランド”に対して、各支援員が誇りをもっているという印象。施設長の思い・発信が浸透している。」
- ・「行動障害への支援だけでなく、“生け花”があるなど、生活感の豊かさがある事に感心した。その中で、そこを更に利用者との関係を深める材料にして、『きれいな花が咲いているね。Aさんは、どんな花が好き？育ててみようか？』等、会話を広げるという想像性のある支援に展開してみたいと考えたりもした。」

昨年度同様、今年度も15名の方々を受け入れた。

私たちにとっても、改めて自分たちの実践を客観的に捉えなおす機会となった。いくつか指摘もいただきました。

あかりの家においては、そういった課題も、三原施設長の“閉じない”という方針の中、出来るだけオープンにし、受講者の方々と率直に意見交換していくことを大切にしています。

実際の支援現場や、対応困難な利用者の方を前に「自分ならどう対応する？」ということを前提に議論する。それが、この実務研修の醍醐味であり、そこに“活きた研修要素”があると思います。

また、受講者の方と得られた“問題意識の高まり”にはエネルギーを実感しています。それを軸にネットワークを作り、更なる展開ができないか？。そんな事を、三原施設長から問題提起を受けています。

よい機会を与えて頂いてありがとうございました。

# 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告書

社会福祉法人 三気の会  
障がい者支援施設 三気の里

## 1. 実績

1回目	平成27年 9月 7日（月）～ 平成27年 9月11日（金）	5名
2回目	平成27年10月19日（月）～ 平成27年10月23日（金）	3名
3回目	平成27年11月23日（月）～ 平成27年11月27日（金）	3名
4回目	平成27年12月14日（月）～ 平成27年12月18日（金）	5名

## 2. 目的

発達障害支援スーパーバイザー養成研修を通し、県内外の障がい児者支援に携わる関係者を受け入れることで、三気の会の啓発と透明化を図り、自身の学びの場として位置づけ、法人、チーム、個人の力量を上げるものとする。また、三気の会がどのような位置にあるのか知る機会とし、その中で、三気の会としての特色を見出していく。

## 3. 意義

- ・ 自閉症に関わる施設として、協議会および社会に貢献する。
- ・ 施設の透明化を図る。
- ・ 支援を見直す。
- ・ 情報を整理し、説明する術を学び、説明責任を果たす。
- ・ 三気の会の立ち位置を知る。
- ・ 受講者から学ぶ、一緒に学ぶ。
- ・ 三気の会の誰もが対応することができるようになる。

## 4. 内容

- ・ 各事業所の業務説明
- ・ 各事業所の見学および臨床実習
- ・ 動作法の実技講習
- ・ 強度行動障がいへの取り組み
- ・ 事例検討会
- ・ 受講者との情報交換

## 5. プログラム

	9:30	12:00	13:00	17:30
月				14:30～開講式、オリエンテーション 講義「施設紹介」「三気の里の療育」 意見交換会
火	臨床実習 「障がい者支援施設 三気の里」	休憩	実技講習「動作法」 講義「強度行動障がいの療育」 事例検討会	GH 見学
水	臨床実習 「児童発達支援センター三気の家」	休憩	臨床実習 「児童発達支援センター 三気の家」	
木	臨床実習 「地域活動支援センターアンプ」	休憩	臨床実習 「熊本県北部発達障害者支援センターわっふる」	18:30～ 懇親会
金	臨床実習 「相談支援事業所 たんぼぼ」	休憩	閉講式 まとめ	

## 6. 受け入れを終えて

昨年度からSV研修の受け入れをする中で、説明のツールの不十分さが反省と課題であった。現段階でも十分とは言えないかもしれないが、昨年度の反省を活かしバージョンアップを図ることができた。また、説明経験の少ない方で対応させてもらうことがあり、ご迷惑をおかけしたかもしれないが、若い職員が外部の方に対して説明できる場、術を学ぶ機会になっている。

実務研修であるが、受講者から学ぶことが往々にしてあり、受け入れる最大のメリットとなっている。それぞれの事業所の支援に対する考え方、運営の方法など参考させられることが多い。それにより、三気の会の立ち位置を知ること、支援を見直す機会にもなり、有意義な研修となった。

受講者から支援の在り方、研修プログラムに対しての意見を頂いているため、それらの意見を基に職員の底上げ、スキルアップ等を考えて行きたい。

# 平成27年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 「社会福祉法人 萌葱の郷」実務研修報告書

社会福祉法人 萌葱の郷

## 1. 実務研修の概要

当法人は『自閉症総合援助センター』として、生活支援・療育支援・早期療育・就労支援・余暇支援・相談支援・普及啓発・専門家養成等の機能をライフステージを通して総合的に提供し、自閉症を中心とする発達障がいのある人たちの豊かな育ちと暮らしを実現することを基本理念としている。そして、ただ単に適応や行動が改善されればよしとするのではなく、発達障がいに対する理解と学習を深め、肯定的な態度と考えで接することで、安心感に基づく信頼関係を築き、支援者の姿勢や態度の振り返りや援助技術の不断の研鑽を重ねて支援することを法人職員全体で共通認識して日々の支援に携わっている。

<各事業所>

- ☆ 障害者支援施設 めぶき園（生活介護 40名 施設入所支援 30名）
- ☆ 障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい  
（生活介護 10名 就労継続支援A型 10名 就労継続支援B型 10名）
- ☆ 共同生活援助事業所 ケアホームかわしま（共同生活援助事業 10名）
- ☆ こども発達支援センター なごみ園（児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問）
- ☆ 大分県発達障がい者支援センター ECOAL  
（相談支援 就労支援 発達支援 普及啓発 支援者養成）
- ☆ ホームヘルプサービスセンター らすかる（居宅介護 行動援護 移動支援）
- ☆ こども発達支援センター 大分なごみ園（児童発達支援 放課後等デイサービス）
- ☆ 相談支援事業所 プラス（地域移行支援 地域定着支援 特定相談支援 障害児相談支援）
- ☆ いぬかいこども園（通常保育 乳児保育 障害児保育 延長保育 一時保育）
- ☆ こども発達・子育て支援センター なかよしひろば  
（児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問）

## 2. 研修生の受け入れ状況

今年度は、下記の日程で計22名の研修生を受け入れた。研修生の所属事業所種別は、入所施設（成人・児童）・児童発達支援センター・発達障がい者支援センター・障害福祉サービス事業所、医療関係等であり、管理者やサービス管理責任者等経験年数も豊富な方が多かった。

- ①平成27年 9月14日（月）～ 9月18日（金） 6名
- ②平成27年10月12日（月）～10月16日（金） 6名
- ③平成27年11月16日（月）～11月20日（金） 4名
- ④平成27年12月14日（月）～12月18日（金） 6名

合計 22名

### 3. 実習研修プログラム

曜日	9:30	10:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	17:00	17:30	
月曜						受付	開講式・オリエンテーション 講義「萌葱の郷の自閉症療育」			意見交換会	
火曜	オリエンテーション	臨床実習 自閉症者施設 めぶき園		休憩		臨床実習 自閉症者施設 めぶき園			講義「強度行動障害の療育」 自閉症者施設 めぶき園		
水曜	オリエンテーション	臨床実習 自閉症者施設 めぶき園		休憩		臨床実習 どんこの里いぬかい			臨床実習 かわしま	まとめ 意見交換	
木曜	オリエンテーション	臨床実習 なかよしひろば		休憩		講義「発達障害児の早期療育」 なごみ園			臨床実習 なごみ園	まとめ 意見交換	
金曜	講義「発達障害支援ネットワーク」 大分県発達障がい者支援センターイコール			休憩		閉講式・まとめ 意見交換					

### 4. 研修受け入れを終えて

昨年度実施した際にいただいたご意見を参考に、全体的な流れは変更せず、現場に入って一緒に活動に参加する時間を多く設け、萌葱の郷の療育を体験していただいた。研修者の方の多くは経験豊かであり、現場の職員も様々な意見交換ができたこと、具体的な支援方法のアドバイスをいただけたことは大変貴重であった。日々支援に携わっていると、(言い訳ではあるが)業務の多忙さから目的を見失いがちになったり、提供している支援の内容を振り返ることがおろそかになってしまうことがあるが、このような研修を受け入れることで、自分たちの支援の見直しや評価、再構築等を行う良い機会が与えられていると感じる。厳しいご意見もいただいたが、多くは「職員の経験年数に関わらず、法人の理念や支援方針が全体に浸透している」といった評価であったことも今後の励みとなった。それぞれの施設での考え方や支援方法があると思うが、目指すところは「発達障がいを持つ方が安心して過ごせるように」という点であり、この研修を通して、同じ目的をもって支援に携わっているスペシャリストの方と知り合えることは本当にありがたいことだと感じる。5日間という限られた時間の中で、個々人によって感じたこと等は異なるであろうが、当法人の実務研修が今後の支援にお役に立てることがあれば幸いであると同時に、私たちもより一層充実した支援を提供できるよう精進していきたく思う。



# アンケート集計結果

# 発達障害支援スーパーバイザー養成研修アンケート集計結果(前期)

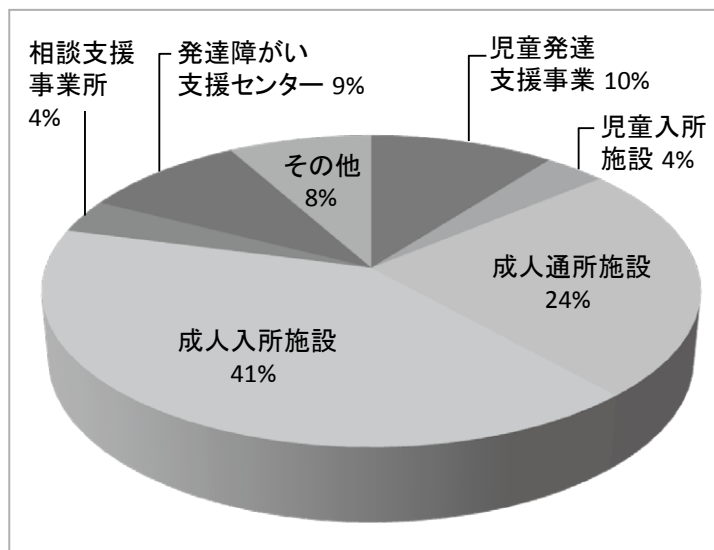
## 【ご参加された方の情報について】

### I. 所属

1	児童発達支援事業	9
2	児童入所施設	3
3	成人通所施設	21
4	成人入所施設	35
5	相談支援事業所	3
6	発達障がい支援センター	8
7	その他	7
	合計	86

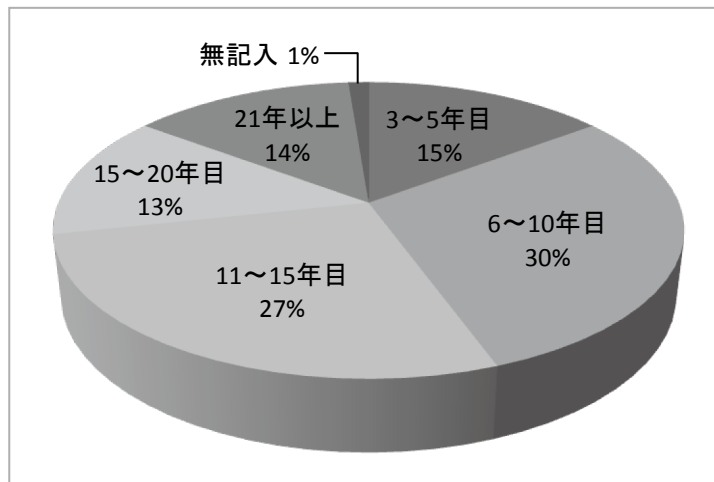
(所属が2ヶ所以上が5件あり)

その他所属	
公務員(教員)	1
小学校	1
グループホーム	1
放課後等デイサービス	1
病院	1
教育委員会	1
無記述	1



### II. 経験年数

1	3～5年目	12
2	6～10年目	24
3	11～15年目	22
4	15～20年目	11
5	21年以上	11
	無記入	1
	合計	81

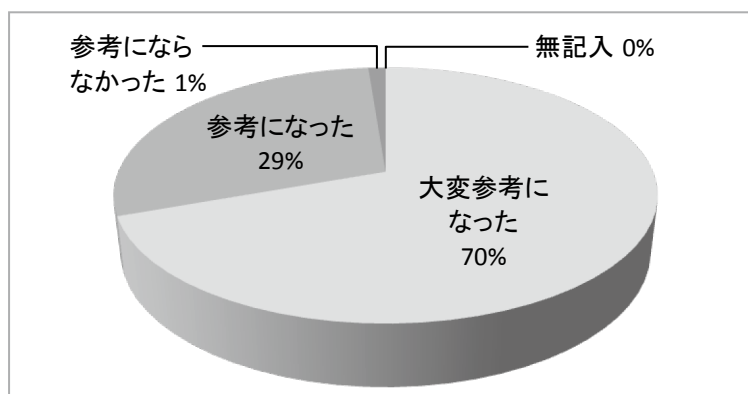




## 【講義のテーマ・内容について】

### 1. 自閉症支援の基礎となるもの（五十嵐康郎 氏）

1	大変参考になった	57
2	参考になった	24
3	参考にならなかった	1
	無記入	0
	合計	82



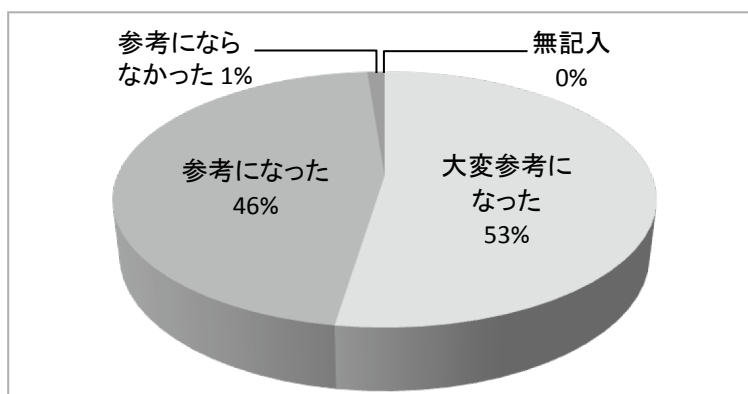
#### 「大變参考になった・参考になった」の理由

- 1つの支援法にこだわるのではなく、各々にとって「良いものは良い」という柔軟な視点・発想を持つことが大事だと思いました。
- 五十嵐さんの経験談や事例をお聞きすることができ、自らの支援を振り返りながら興味深く思いました。
- 五十嵐さんの実践の取り組み、「あたりまえの生活」を保障するためのエネルギーに感銘しました。現在でもあたりまえのことがあたりまえでない現状が多くあります。(制度面を含めて)ひとりひとりが人生の主人公としていきいきと生きていける社会、環境、暮らし、労働を目指してこれからも取り組んでいきます。
- 五十嵐さんのすばらしいこれまでのご経験と想いがよく伝わってきました。
- 五十嵐先生のスーパーバイザー養成研修事業に対する信念、熱意が伝わりました。
- いろいろな基礎の部分を知ることができた。
- 近江学園の話からスタートし、事を為すことの基本を学びました。そして、「安心感と信頼関係が自閉症療育の基礎」自分の考えを明確にできなんだかすっきり感がありました。寄り添っていきたいと思います。
- 経験の中でいろいろと気づきながら実践されていたこと。
- 経験の豊かさ。
- 研修の最初の導入にもなり、次の講師にも入りやすいでした。
- 現状がよく分かった。
- 行動障害は本人だけでなく、関係者の問題という話に“はっ!!”とさせられました。
- 支援者としてどうあるべきか考えさせられた。
- 支援者として人としての基本的なあり方を再認識し、他スタッフにも伝えていきたいと思った。
- 支援者の立ち位置や関係によって、利用者のその後を変えることもあるという言葉聞き、実際にこれまで行ってきたこと、現在行っている支援で危機感も感じ、早急に改善したい点がすぐに思い浮かびました。
- 支援に対しての考え方を、改めて、参考になり今後の支援に活かしたいと思いました。
- 時代背景を感じながら、支援員として地道に支援を積み重ねていく実体験からの学びがとてもわかりやすかった。

※他に38件の記述がありました。

## 2. 特別支援教育の課題と展望（田中裕一氏・寺山千代子氏）

1	大変参考になった	43
2	参考になった	38
3	参考にならなかった	1
	無記入	0
	合計	82



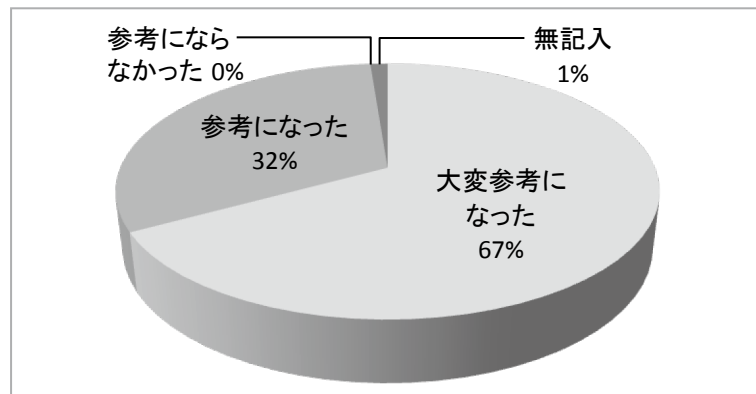
### 「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・SVとして理解しておくべき、文科省からの情報の今現在での全体像が分かったから。
- ・お2人ともユーモアのあるお話で理解しやすかったです。行政と施設・学校の関係性を再度調べたいと感じました。
- ・課題と展望をわかりやすくかつポイントを絞った講義は大變勉強になり、今後役に立ってほしいです。
- ・学校教育の現場と、施設現場との連携、社会とのつながりを合理的配慮の意味を確認しながら、学習できた。わかりやすく、とても参考になった。
- ・学校教育の分野は、あまり関わりがなく知らない事が多かったが、生涯必要な支援をつなげていくために全体像を知る事、特に小中学校での教育について、知ることは大切だと感じました。
- ・学校現場の状況を知る機会が少なかったのも、とても新鮮でした。
- ・学校現場も、受け入れ方・取り組み方の変化を求められていることが分かりました。福祉の方も学校とどのような連携ができていくのか、考えていきたい。
- ・学校とのやり取りの参考になりました。
- ・学校との連携、今後の大きな核となる関係作りに取り組む勇気を頂きました。
- ・学校の実態が少しわかった。(田中氏)
- ・学校へ行くことがなかったので、実状が分かりよかった。
- ・教育での課題を学び、繋がり大切さを知ることができました。
- ・行政職の方の話し方ではなく、とても聞きやすかった。
- ・国の施策と実際の現場をつなげてお話をしてくださり参考になりました。
- ・合理的配慮と連携の大切さ、連携の難しさを理解できた。
- ・合理的配慮について学ぶことができた。
- ・言葉だけは聞いたことがあった、「合理的配慮」の話を聞いて内容が理解できました。
- ・参加者の7割が知っていた「合理的配慮」を知ることができました。また現在学校で6.5%もの子どもが、なんらかの発達に関する疑いがある事を知りました。

※他に53件の記述がありました。

### 3. 発達障害福祉行政の展望（日詰正文 氏）

1	大変参考になった	55
2	参考になった	26
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	82



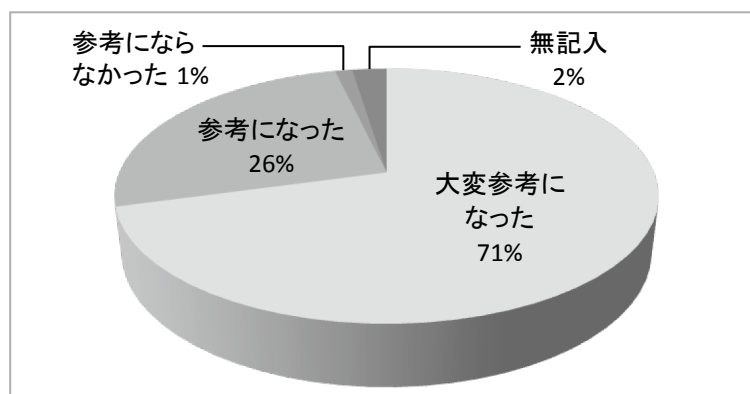
#### 「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・「発達障害者支援法に基づく支援等の全体像のイメージ」のところで今後の動きについての説明があり、領域によって分けて支援されていたものを総合的に支援できるように変化している点が興味深かった。
- ・SVとして理解しておくべき、厚労省からの情報の今現在での全体像が分かったから。
- ・行政からの法について知ることができました。
- ・行政職の方の話し方ではなく、とても聞きやすかった。
- ・行政の現状がよく分かった。
- ・行政の施策の理解ができた。
- ・国が発達障害に対してどう捉え、どのような対策を考え、施行していこうとしているのかを知ることができた。現場を知っている方が上に立って考えてくださっているのだから、こんなにも世の中の理解が広まってきたのだと思えた。
- ・国の動向がよく分かりました。
- ・現在の施策と、今後のあり方を考える機会となった。
- ・現状がよく分かった。
- ・現場の立場からのお話も聞いて良かったと思いました。（重要なポイントも）
- ・現場の立場に立って説明して下さり、大變参考になりました。
- ・講師の方がSTということもあり、医療、リハビリの視点を持つことも大切だと学びました。食べることは生きること、食事のトラブルは生命の危険にも繋がり、生きているからこそ人生の支援ができると思いました。もう少し聞きたかったです。途中で時間を意識され内容が別になってしまい残念だと思いました。
- ・厚生労働省というところではなく、以前現場で働いていた時にしておけば良かったことが聞けたことはとてもためになりました。
- ・厚労省の取り組み、今後の課題などを聞くことができ参考になった。
- ・これから知識を身につけ、しっかり理解したいと思える分かりやすい内容でした。
- ・これからの行政が求めていることが分かった。

※他に31件の記述がありました。

#### 4. 発達障害の特性理解（市川宏伸 氏）

1	大変参考になった	58
2	参考になった	21
3	参考にならなかった	1
	無記入	2
	合計	82



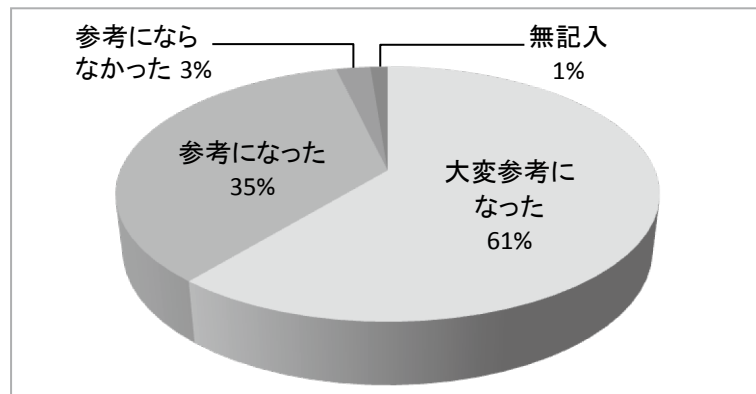
#### 「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・ ASDの対応を勉強できました。事例を通して、信頼関係の大切さを改めて再認識しました。我がセンターの職員にも伝えていきたいと思います。
- ・ Dr.としての立場から、事例を通してのお話になづくものが多々ありました。互換性ソフトがあれば本当にいいなって思いますが、それも「あり」ですね。
- ・ Dr.の講義であったが、現場の支援者にとっても興味深い話であった。
- ・ 相手を知る、そのことから始め、知ろうとする姿勢、向き合う姿勢が大切だと学びました。
- ・ いくつかの事例が、とても興味深かった。「俺はバカにされているが、いいところもある」。この自己肯定感から来る彼の言葉が印象に残った。
- ・ 医者をされていた時の事例での説明があり、とてもわかりやすくおもしろかったです。
- ・ 市川先生のお話は、いつも臨床に基づき、また、愛情深く、感動します。
- ・ 医療の視点で診ることもスーパーバイズには必要かと思いました。医療・福祉・教育・就労と広義に幅広く知識を持たねばと気付かされました。
- ・ 医療面からの事例を中心とした講義内容であり、事例内容の中には驚くこともあった。
- ・ 多くの実際のケースを通じて、発達障害の特性を深く知ることができた。
- ・ 多くの実際の症例を提示していただき、大変参考になりました。
- ・ 多くの事例を通して自分自身特性理解をしているつもりになっていて、なかなかできていなかったことに気付かされた。うまく行く対応についてもその人その人に対する個別の支援が必要であるか、基本となる点は押さえていきたい。
- ・ 同じく自閉症スペクトラム学会でも講義を受けました。ケースの紹介、毎回先生の対応に学ばされます。医療、特に看護師としてのバイザーの役割をよく考えたいと思います。
- ・ 現場で関わっている患者様と照らし合わせながら今までなかった視点を学ぶことができました。
- ・ 今後の大きな課題の一つに医療との連携があると思いますが、その方向性を確認させていただけた気がします。本当の意味での「専門医」と、医療機関が増えるといいと思います。

※他に38件の記述がありました。

## 5. 親として専門家に期待すること（今井忠氏・黒澤晃子氏）

1	大変参考になった	50
2	参考になった	29
3	参考にならなかった	2
	無記入	1
	合計	82



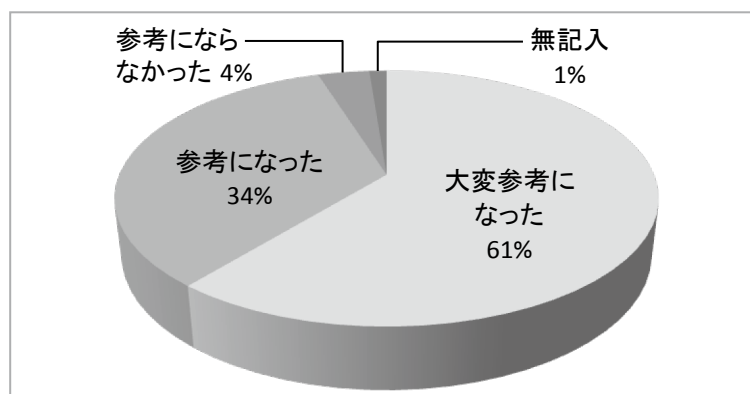
### 「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・今、まさに悩んでいたこと、本人のしたい事を社会に合わせることに、考える機会となった。
- ・今井さんも黒澤さんも立場上、真にせまったことまでは、つつこめないところもあるのですが、施設によっても対応は様々であり、その子にあった関わり方を、もっと真剣に考えてほしいと思った。この研修に参加している方々の施設では、期待できる支援が望めるのではないのでしょうか。
- ・今井先生のお話にあったように二次障害が起きないようにしていきたいとは思っているが、現場の職員は福祉について専門的に学んできたものばかりではないため、スーパーバイズやOJTがとても重要だと常々感じている。また、障害のある方にとって初期の対応は誤学習をしないためにも重要であるが、自分自身を含め利用者一人ひとりに応じた支援への学びが不足している。黒澤先生のお話のように「気づき」、「いつもと違う」は常日頃意識している。健康診断で悪い結果が出た場合、なかなかご家庭から受診が難しい部分もあり、ジレンマを感じている。
- ・今井先生の経験を詳しく聴け、興味深かった。黒澤先生にももう少し親の立場の話を聴きたかった。
- ・医療者の視点と親の視点のギャップを学びました。今まで色々な家族会を視察した内容とほぼ同じで、親の気持ちは共通しているのだと再確認しました。
- ・医療面の話がとても参考になりました。看護職との連携の重要性を改めて感じました。
- ・親からの目線として、今井氏と黒澤氏の視点は今後これから保護者と関わる上で、もっと本人(発達障がい者(児))と合わせてニーズとアセスメント(特性)の強化が必要と改めて考えさせられました。
- ・親御さんの思いが、よく分かり、病気の対応、熱い思いが伝わりました。
- ・親御さんの側から、決めつけてほしくないという声を聞き、改めて、視野が狭くなっていることに気付きました。
- ・親としての思い、とても強く感じました。また、黒澤様のような看護師さん、ぜひ増えてほしいです。
- ・親の気持ちを聞くよい体験ができました。
- ・親の立場がよく分かった。黒澤さんはその立場で看護師の姿勢を示された。
- ・親の立場から、現場に対しての気持ちを考える機会になりました。

※他に36件の記述がありました。

## 6. TEACCHアプローチの統合的な考え方：構造化による支援のパラドックス (スティーブ・クルーパ氏 訳者：田中恭子氏)

1	大変参考になった	50
2	参考になった	28
3	参考にならなかった	3
	無記入	1
	合計	82



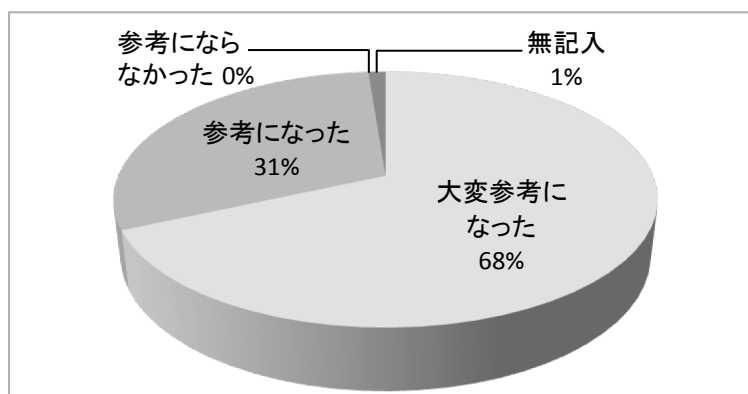
### 「大変参考になった・参考になった」の理由

- TEACCH＝構造化と考えてしまいがちでしたが、その根底には、当事者であり、共感・思いやりがあることを再認識しました。
- TEACCHアプローチの系統的な考え方がよくわかりました。
- TEACCHアプローチは形のあるものだと思っていましたが、個別性という点で実際に取り組みやすくなりました。支援者の資質にもしっかり着目してチームアプローチを図っていきたいです。
- TEACCHアプローチは技術ベース(視覚的に落ち着けるエリア等の構造化)と思っていましたが、関係性ベースも同じく両面で見えていくことも必要と話を聞いて勉強になりました。
- TEACCHに対して、これまで浅い知識しかなく、深いものだと感じた。
- TEACCHに対する、「難しそう」と思っていたイメージが、やわらぎました。考え方や向き合い方など、根本の部分は、今学んでいることと変わらないんだと認識できました。
- TEACCHについて、もっと固く感じていました。できることから始めたらいいいというお話で、安心しました。
- TEACCHの考え方について改めて整理することができた。関係性を重視しているという説明が印象的だった。
- TEACCHの考えを復習させてもらった。関係性を重視することを再認識できた。
- TEACCHの基本的な考え方が参考になった。
- TEACCHの背景面を丁寧に説明いただけよかった。
- TEACCHの本当の考え方を知ることができ、今まで私自身が感じていた違和感イメージを変えることができ、なんだか安心いたしました。(今までは、日本の指導者からばかり聞いていました。)
- TEACCHプログラムは単なる構造化の技術的??でなく、様々な側面か多面的な基盤を用いていると知った。またいかなる手法も支援の質・支援者の質が高くなければ効果的にはならないと感じた。
- TEACCHをくわしく知ることができたため。
- 英語と両方を聴くことで、訳だけよりよく分かった。
- 概念が聞けて良かったです。

※他に37件の記述がありました。

## 7. 発達障害支援の現状と課題（和田康宏 氏）

1	大変参考になった	56
2	参考になった	25
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	82



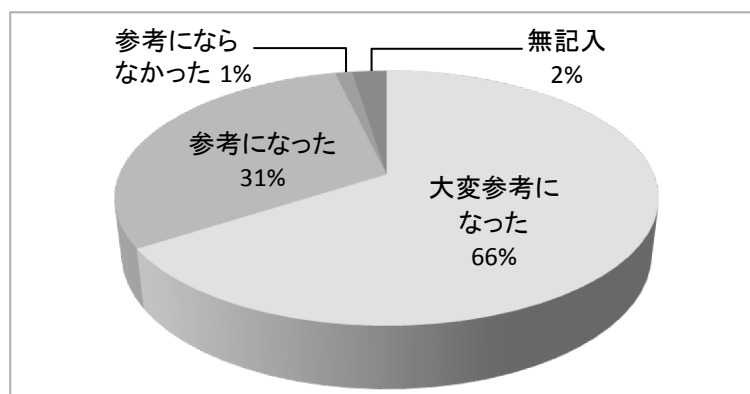
### 「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・今の日本社会の「生きづらさ」という側面を学ぶことで今後自分の中でそのことを深めていきたい。
- ・同じ障害者支援センターとして、うなづくことも多く、自分自身の頭の中の整理にもなりました。ただ一つ、ペアレントトレーニングについて、実施はしているのですが、なかなかスムーズに取り組むことのできなさを感じています。相談できたらうれしく思います。
- ・共感できることがたくさんあり、勉強になった。
- ・現在の相談に来る方の傾向に驚きました。
- ・現状がよく分かり、就労系の事業に関わっているので、難しさを感じた。
- ・現状理解が進んだ。やや短かったと思う。
- ・現状をライフステージごとに、とても分かりやすく説明していただいたので、とてもよかったです。
- ・支援センターに来られる方への難しさがよくわかり、勉強になりました。
- ・支援センターの役割や相談状況など、現場の様子を知ることができました。
- ・支援の連携、相談内容の多様性が学べた。
- ・所属機関では言葉のない方も多いため、発達障害者支援センターの現状と課題について知る機会となった。
- ・資料が分かりやすく、内容が身近なものが多かった。最初の窓口のあり方、設定の仕方が、よくわかった。もっとお伺いしたかった。
- ・事例があり理解できた。
- ・事例をふまえて、わかりやすかった。
- ・成人期での相談が増えているという現状がよく分かった。支援センターの仕事はかなりの広い分野に渡っていると感じた。
- ・センターの役割について不明だったところがよく分かりました。同じ兵庫県ということもあり、相談をさせてもらったことがあります。今後も利用者の方により支援ができるよう、相談等できたらと思います。
- ・早期発見、早期療育の大切さ、それを通して社会の中で発達障害に対しての理解が進めばいいなと感じました。私たちも、そう努力すべきだとも…。

※他に29件の記述がありました。

## 8. 自閉症の動作法（森崎博志氏）

1	大変参考になった	54
2	参考になった	25
3	参考にならなかった	1
	無記入	2
	合計	82



### 「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・10年ほど前、動作法をよく取り入れていたが、近年やっておらず、再度そのプログラムの有用性を理解することができた。Auの方の視線の合いづらさ、合わせづらさに対して、動きのコントロールから多動性をコントロールし、目の多動性のコントロールを促すなど、またその行為が脳にも良い刺激として働くことなど勉強になった。
- ・明日から使えそう。
- ・一番現場で参考にしようと思った。
- ・映像を通して動作法を学ぶことができましたが、障害者も健常者も関係なく「心」のつながりを強く感じました。
- ・関わり方、特徴理解など、基本を教えてもらったと思います。色々な手法を取り入れ、その子どもが成長できることが大切だと思いました。
- ・現場で実施してみたいと思いました。分かりやすい内容で具体的に、「この人に合うんじゃないかな」と思うことができました。
- ・子どもとの関わり方、実践方法が学べたから。
- ・子どもの支援にリラックスを支援することをしているが、ただ単にリラックスを支援するというよりは、動きの中でそして対人関係を通してというところがすばらしい。
- ・子どもの状況に合わせ、余裕を持って接する大切さを学びました。
- ・根拠のある、論理的な内容で、面白かった。
- ・支援者と障害者が一緒に身体を動かす（ふれあい・関わり方）ことによって注意を引き付けることができ、そこから支援の入口が広がったり、障害者自身が色々な事を覚える、発達していくことをすることができた。
- ・肢体不自由児への動作訓練をかなり以前にした事があるのですが、発達障害児へも有効と聞き、関心があります。

※他に45件の記述がありました。



## 【研修全体を通して】

- ・「発達障害」というのが、自明のものとして、話が進んでいる印象を受けた。改めて発達について丁寧に追っていくものが講義の中に入っているのではないかと思われた。
- ・この研修等の内容をどううまく自分の事業所へ還元していくかなど、他の職員への還元の仕方などについて・職員資質の向上について 上記の内容をしていただければ、ありがたいです。ありがとうございました。
- ・3日間とても貴重な時間でした。ありがとうございました。
- ・PP+資料だけでなく、関連資料や、参考文献の紹介などあるともっとよい。
- ・ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。お疲れ様でした。
- ・ありがとうございました。充実した3日間でした。
- ・いくつかのカテゴリーの講義にはなっていたと思いますが、講義内容の中身で同じ内容、説明になる事があったかと思えます。発達障害を理解していく上での課題現状から、やはりそこが難しく、ポイントとなる事から仕方がないのかと思えますが、できれば、それぞれ違った内容の講義に特化してもらえれば更によかったかと思えます。講義+グループワークなどの形式がとれれば、他研修者との交流も深めやすいかとも思いました。(グループ分け、準備、課題等、難しいとは思いますが…)いろいろ意見を書きましたが、他にない素晴らしい研修だと思い、充実した3日間になりました。準備、調整等、いろいろと大変な中、ありがとうございました。後期の中央研修も楽しみにしています。
- ・一日目、懇親会もあり、ネットワーク作りにも配慮いただきありがとうございます。一年間の学び、収穫を楽しみにしています。前期研修ありがとうございました。1年間よろしくお願い致します。
- ・いろいろとお世話になり、ありがとうございました。来年は8月にめぶき園さんで実務研修を組んでいただければ、(勝手なお願いだと思いますが)是非大阪から大分に勉強に行かせて下さい。もし日程が決まれば、少し早い目にご連絡いただければ大変有り難いです勝手なお願いばかり書いてすみませんでした。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・いろいろな角度から発達障害支援についての学びができ、更に学びを深め実践につなげていきたいと思えました。3日間ありがとうございました。
- ・多くの情報を得ることができたが、自分自身に落とし込めるのだろうかと不安な面もある。実務研修までに振り返りを行い、有意義な研修をしたいと思う。
- ・休憩時間はきちんと取ってほしいです。(長丁場なので少し遅くなってもよい)
- ・強度行動障害について具体的な指導法などを研修で取り入れてほしいと思う。
- ・研修内容は大変満足のいくものでした。土日開催は、職場の日程調整上難しいものがありますので、ご配慮いただけると嬉しいです。
- ・交流会で様々な方と知り合えたのは良かったです。実務研修ごとに顔合わせができればいいなと思いました。
- ・様々な角度から学べたことがよかった。レポート提出や当事者活動の参加など、事前に知らされていない事が多かったのは気になりました。どの講義も最終的には「バランス」が大事というところに持っていく意図は共感が持てました。
- ・様々な立場からの現状と今後の課題等聞かせていただきました。3日間内容も濃く参加できよかったと思います。レポート等の連絡、受講証の事前の確認等で、連絡がもう少し早ければ尚良かったかと思いました。3日間ありがとうございました。スタッフの皆様、お疲れ様です。
- ・参加の決定の連絡は、もう少し早めに知らせてほしいです。この時期、ホテルが取りづらいです。
- ・司会の方の位置は、左側がよかったように思う。(役割分担→講師のアテンド、マイク(質疑)、タイムキーパー等。会場レイアウトについても検討した方がいいと思います。) この研修名の看板等があったほうがわ

かりやすい。タイムキーパーがあった方がいいと思います。(最後の講義では、時間を気にされている様子がなかった)ので 司会、事務局の方の言葉遣いが気になりました。

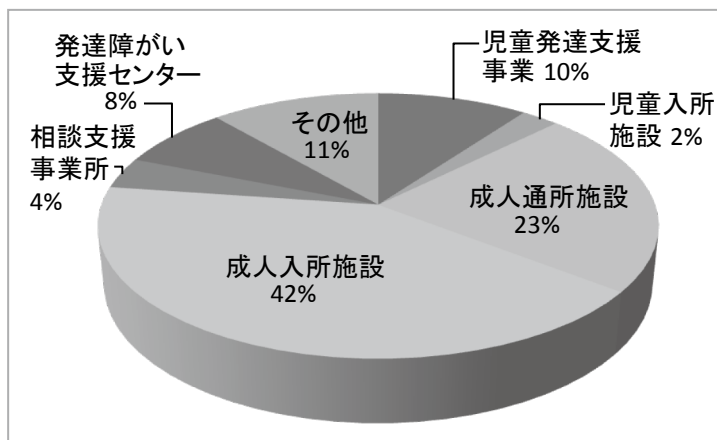
- ・時間・内容について、時間的なものについては、とても良かったと思います。内容については、自分自身の振り返り、そうかあー、そうだな、等など勉強になりました。しかし、それに伴う資料につきまして、田中先生や日誌調査官についてはすべてと言ってよいほど読み取れず、(HPにあるとしても)残念でした。今後は大きくお願いします。懇談会について、よかったのですが、やはり自己紹介(短く)があれば、もう少しお互い同士が、深まったような気がします。大変お世話になりました。いよいよスタートしたっていう感じです。今後ともよろしくお願い致します。お疲れ様でした。
- ・実務研修の日程が、とても厳しいです。勤めているので、1週間まるまるお休みを頂くのは、難しいです。5日間どうしても研修を受けなければならないのであれば、夏休み期間にさせていただくとか、土日や3回やるとか、金土日とか、休みを取りやすい日程を考えて頂きたいです。また、別のやり方としては、2回の実務研修を1回にして、あともう1回を実践レポートにするとか、自閉の子or発達障害の子にどんな支援をして、どんな取り組みをしていったかを、チームを組んで実践したりとかしたのなど、、、いかがでしょうか。検討してみてください。他には、指定された機関の施設を1つ選んで研修を受けることは、必須とし、もう1つは自分で探した施設で研修を受けるとか。教育実習のような感じで…。これも検討してみてください。更に、1機関で、2回受けるのは…。これは、きっとダメでしょうけど…。どうかよろしくお願い致します。研修期間(日時)と、施設を指定されてしまうと、なかなか難しいです。わがままいって申し訳ありませんが、考えてみてください。お願い致します。
- ・受講決定がもう少し早めに分かると、ホテルやJRがとりやすい。
- ・大変勉強になりました。これまでいろいろ研修に行きましたが、一番有意義な時間でした。
- ・短期集中の3日間でしたが、とても良かったと思います。今後も全国の会や、活動に期待しています。今後ともよろしくお願い致します。ありがとうございました。
- ・テーブルがあれば、もっとメモし易かった。
- ・とても素晴らしい研修だと思います。実践につなげやすい、また、考えさせられる研修でした。ただ受講するだけでなく、レポート作成することは、ある意味、振り返りにもなり、とても良いと思います。職場の仕事も大変ですが、未来の子どもたちやその保護者にとって心のよりどころとなれるよう、笑顔で過ごせるよう頑張ります。ありがとうございました。
- ・内容が濃い研修ができ、大変よかった。
- ・広い領域を学ばせて頂きありがとうございました。もう少し医療系講義があればよかったです。
- ・普段自分が働いている施設での業務とはまた違った話を聞くことができたり、様々な観点からの話を聞かせていただく中でも、共通しているところや、同じような課題を持っているのだと改めて感じる事ができました。長時間の講義ではありましたが、有意義な時間であったと思います。また他の講義もお聞きしたいです。
- ・プレゼン資料の文字が小さくて読み取れません。枚数が多くなってしましますが、できれば大きくして頂けるとありがたいです。後半では、アセスメントの実際など、知的な遅れのない発達障害の方の対応に生かせる研修を企画していただくとありがたいです。(日誌先生の資料にあったM-CHAT, PAR-S, Vineland等)
- ・本の紹介をしていましたが、本の販売があってもいいかとも思いました。書店でなかなか見かけないので。全体的に資料の文字が小さい(HP上にある資料)また資料と講義時間のバランスが悪いように思った。どの講義もはしよるので。
- ・学びの多い研修でしたが、障害特性の整理なども学ぶ機会があるとさらに深まると感じた。アセスメントなどから引き出される特性理解がまず必要。すでにこのSVでは分かっていること前提だったのでしょうかね。ありがとうございました。
- ・文科省、厚労省からの資料が文字が小さくて困った。

# 発達障害支援スーパーバイザー養成研修アンケート集計結果（後期）

## 【ご参加された方の情報について】

### I. 所属

1	児童発達支援事業	8
2	児童入所施設	2
3	成人通所施設	18
4	成人入所施設	33
5	相談支援事業所	3
6	発達障がい支援センター	6
7	その他	9
合計		79

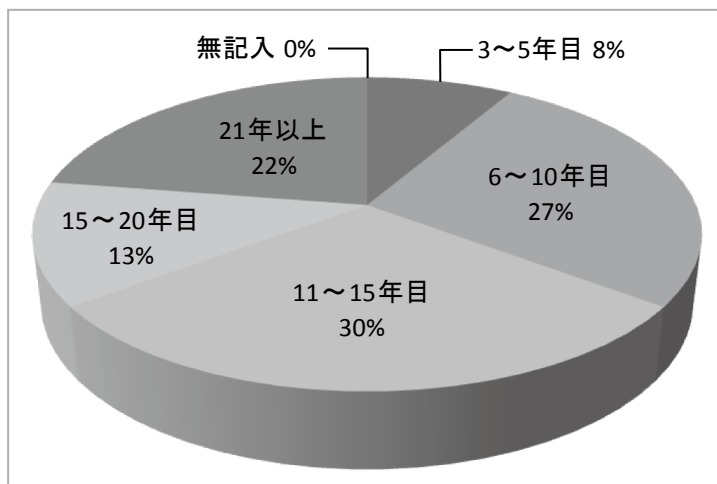


（所属が2ヶ所以上が8件あり）

その他所属	
就労サービス事業所	1
教員	1
グループホーム	1
放課後等デイサービス	2
病院	1
大阪市立小学校	1
公立学校	1
無記述	0

### II. 経験年数

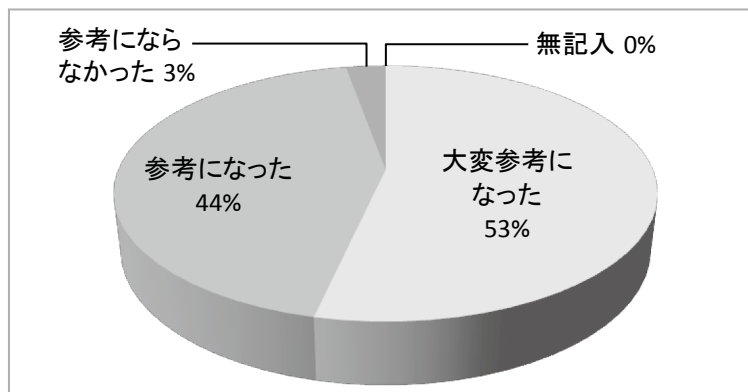
1	3～5年目	6
2	6～10年目	19
3	11～15年目	21
4	15～20年目	9
5	21年以上	16
無記入		0
合計		71



## 【講義のテーマ・内容について】

### 1. 当事者からのメッセージ（冠地情氏）

1	大変参考になった	38
2	参考になった	31
3	参考にならなかった	2
	無記入	0
	合計	71



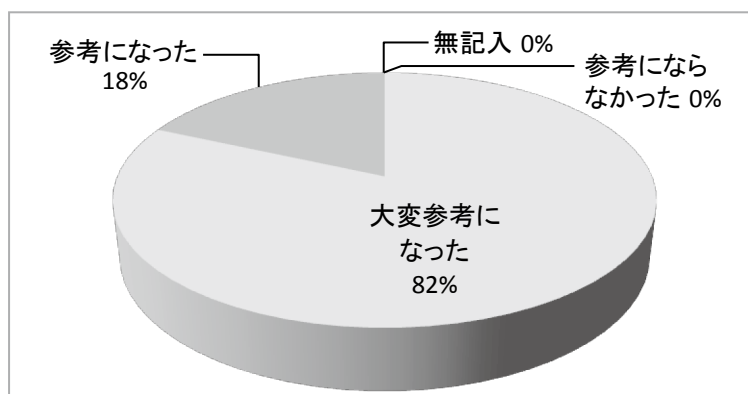
#### 「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・「生きづらさ」の説得力があり、それは理想だよと思う部分もありながら、おおいに納得できる内容でした。
- ・「立場を超えて」質疑応答に対し、「越えられない」と感じた。反対に、相談者に自分がこういう印象を与えている時、相談がうまくいかないんだろうと感じた。立場を超えて相談してもらえる信頼感の育成が今後の自分の課題だと思った。
- ・「当事者」ではなく、「冠地」だという点。
- ・熱い中にも楽しくメッセージを送っていただきました。
- ・今の現状でよいと思ってしまうと、何も変わらないということがよくわかりました。
- ・お話の中で共感できる部分が多かったです。
- ・冠地さんが、一生懸命に動いて頑張っている事に感動でした。
- ・冠地さんが伝えたいところはよくわかった。
- ・冠地さんの思いが伝わり、今後、人の思い、気持ちを更に深く読み取る必要があると感じることができました。
- ・冠地さんの率直な意見が我々のこれまで行ってきた支援を振り返るいい機会になった。
- ・冠地さんのパフォーマンスに感激した。生の声であり、「タブー」を超えてというスタンスは、初めてだった。
- ・気になっているところ、生きづらさだろうなと思われる原因のところは少しでも良い方向に“変わって”くれればという思いは、親・支援者に当然のようにあるが、変えられようとしている自分に対して、ご本人たちは辛い思いがあるのだということを改めて考えさせてもらった。
- ・ケースと重なる部分があり、とても参考になった。
- ・こういった意見、考えもある。それでいい。それが当然。だから自分たちがいる。
- ・講師の方自身の話し方、テンションなどを見て、こういう感じなんだろうなあと客観的に見ることができました。
- ・行動する大切さがとても心に伝わりました。

※他に36件の記述がありました。

## 2. 行動問題についての応用行動分析（井上雅彦氏）

1	大変参考になった	58
2	参考になった	13
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	71



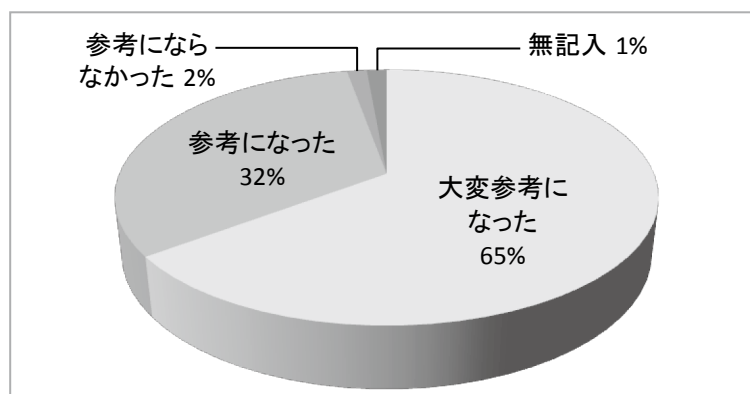
### 「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・ “やっているとき”と “やっていないとき”の比較、もう一度見つめなおすきっかけになりました。
- ・ ABC(ストラテジシート)を利用しながらのお話は、とても参考になりました。ペアレントトレーニングのお話も聞きたいです。
- ・ ABC行動分析は、研修で受けていますが、今まで受けた研修の中で一番わかりやすく、勉強になりました。また、使える資料をいただき、ありがたく思いました。支援に生かしたいと本当に思いました。
- ・ ABC分析を易しく考えることができた。
- ・ 応用行動分析の確認ができた。
- ・ 応用行動分析の基本を平易に教えてくださった。
- ・ 応用行動分析を事業所で実行しているので、とても勉強になりました。
- ・ お名前は聞いていたが、直接は初めてで、わかりやすかった。
- ・ 記録(事実)からその人が何に困っているのか、どうしてほしいのか、行動には一つ一つ意味がある事が理解できました。記録の重要性を改めて学びました。
- ・ 具体的な事例を用いて説明があり(シートの使い方)理解しやすかった。
- ・ 現在、行っていることの復習の機会となりました。
- ・ 現在の支援で迷っている部分、間違っている部分を改めて感じるとともに見るポイントをもう少し明確にして、見通しが立つ支援(本人も支援者も)を実践したい。
- ・ 行動の前後を考え、原因を探る方法をシートを使い、わかり易く明確と感じました。
- ・ 行動一つ一つが、本当に問題とされる行動なのかを改めて考えさせられた内容でした。
- ・ 行動問題について「なぜ?」など一つ一つを考える力を身につけていきたいと思った。
- ・ 困った行動についての、まとめ方、考え方を応用行動分析できるようにしていきたいと思った。
- ・ これまで応用行動分析の講義をいくつか受講したが、一番、井上先生の講義が自分の中ですとんと落ちた印象を受けた。理解しやすかったです。
- ・ 早速現場で取り入れたいと思いました。

※他に32件の記述がありました。

### 3. 発達障害を巡る諸問題（山崎晃資氏）

1	大変参考になった	46
2	参考になった	23
3	参考にならなかった	1
	無記入	1
	合計	71



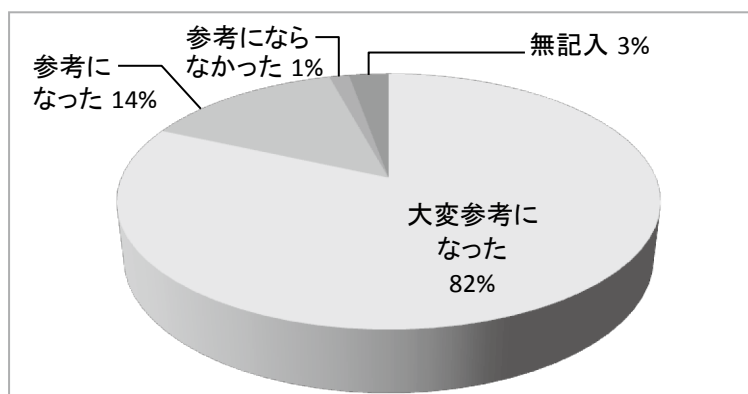
#### 「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・我が子が障害を持っている事が分かりづらいがゆえに親は子育てに悩み苦しむと思います。診断を告げる時に慎重にすることはとても大切な事だと思います。療育センターでは初診で心理にオーダを入れ、再診(2回目)で診断を告げることが当たり前のようになっていきます。診断と次の対応として親ができることを伝えることも必要だと思いました。
- ・歴史を学ぶためにも、Amazonで探してみます。
- ・歴史的な背景まで解説していただけた点。
- ・臨床の話、今の流れにきちんと意見を述べるあたり、説得力があるし良かったと思う。、歴史を知ることにもなり、大変勉強になった。
- ・臨床心理士の見方が変わりました。ゆっくりと大事に伝える前に気を付けている配慮がなさっていると感じております。
- ・難しかったですが、診断をするにあたり、関わりが特に重要であると思いました。
- ・難しい内容を、非常に分かり易く、講義していただき、時間ももっと欲しかった。
- ・昔を知ることが大切という山崎先生の言葉より、「自分は今しか見ていなかった」ということを気づかされました。カナーの本…2万円でした。購入は悩み中です。
- ・人を観ること、診断フォーミュレーションを学びました。
- ・発達障がい診断をめぐる諸々のお話、普段の支援では聞けない話でしたので、とても貴重な話を聞けて良かったです。
- ・発達障害についての分類というところで、自分たちとしても便利だったというところで、安易に当てはめていたように感じました。その本質というところでも考えていかなければと思いました。
- ・長年臨床に携わってこられた先生の姿勢に感銘を受けた。
- ・独得の考え方の基本がよく分かった。
- ・違った見方や、その人の長所を見つけ、そこにアプローチをすることなど。
- ・専門的な分野で、とても勉強になった。この話は大切。

※他に30件の記述がありました。

#### 4. 発達障害者の就労支援（梅永雄二氏）

1	大変参考になった	58
2	参考になった	10
3	参考にならなかった	1
	無記入	2
	合計	71



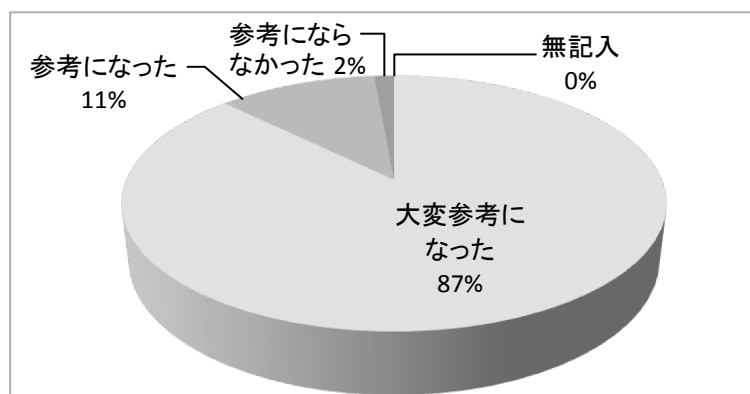
#### 「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・「ハードスキル」と「ソフトスキル」の考えが、参考になりました。
- ・あんなに障害者に理解がある企業が存在することを初めて知ることができました。
- ・以前からお話を直接お聞きしたいと思っていた先生です。わかりやすいお話でもう少しお聞きしたいと思っています。
- ・今、悩んでいる内容に直結していた内容だったので、有意義でした。
- ・今抱えている方の相談に使えるヒントをたくさん頂けた。
- ・映像を取り入れていただけただ点。
- ・海外での学問としての内容や、実際の現場と現状、ジョブコーチだけでは対応できない事がよく分かりました。
- ・現在、支援をさせていただいている方のこれからの方向性を(ライフスキルの事例を通して)再度考える・確認するきっかけとなった。(もう少し細分化して考えていく必要があることが理解できる。)
- ・実際のアスペルガーの人たちの事例も交えた話が分かりやすかった。
- ・自分の息子も含め、就労の年になり、法人も今年度から就労を始めたので、ものすごく参考になった。
- ・就労する際本当に必要とされる要素が何であるか、よく分かりました。
- ・就労による障害の重度の違い、その人に合った就労の勧めなど。
- ・就労の現状がよくわかりました。
- ・ジョブコーチ→ジョブコーディネーターとしての役割が必要になってきているということ。発達障害の方の悩み、働きづらさ、実体験を基にした説明、整理されていてとてもわかりやすかった。
- ・事例がわかりやすく、参考になりました。
- ・事例を交え、実際の就労の場と就労支援者の力を感じました。
- ・先生の多くの経験の話が良かったです。
- ・ソフトスキルの重要性が分かった。

※他に25件の記述がありました。

## 5. アセスメントの力を高めるためのスーパーバイザーの役割と事例検討の進め方 (近藤直司氏)

1	大変参考になった	62
2	参考になった	8
3	参考にならなかった	1
	無記入	0
	合計	71



### 「大變参考になった・参考になった」の理由

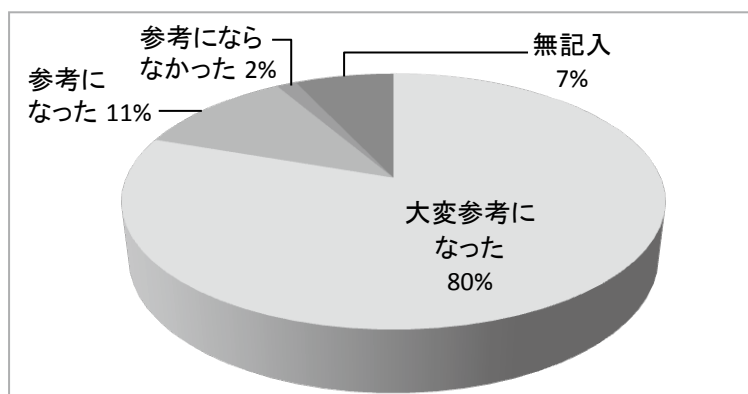
- ・“グダグダ”の会議は確かにあるし、往々にして自分が進行する立場のときも多いので、質問のさせ方、進め具合、また自分が意見をまとめる際にもおおいに役立つと思った。
- ・CCを通して広めたい。
- ・アセスメントの重要性、伝える力・スキル等を再確認することができました。
- ・アセスメントの重要性を学べた。ダラダラ会議を現場で無くしたいと思いました。
- ・アセスメントの大切さがわかった。
- ・アセスメントの取り方、準備の仕方、会議の進み方が違うのだなーと実感できました。自分の職場でも落とし込めるようにしていきたいと思います。
- ・アセスメント表など、今後の業務に取り入れていきたいと思います。
- ・アセスメント力がついた(ように思いました)勉強になりました。
- ・アセスメント力を高める知識を学び、また、伝え方、捉え方、進め方など、学ぶことができました。
- ・アセスメントをしっかり行い、ケースレポートをすることで、ケース会議がスムーズに進行できることが理解できた。
- ・アセスメントを取る上での大切な部分、再確認させていただきました。
- ・今まで勘違いをしたまま、アセスメントを行っていた。正しい事を学べて良かった。
- ・演習したことでレポートの仕方、会議の進め方がとても理解でき、具体的にどうすればよいかを実感して学ぶことができた。現場でも是非いかしたい。
- ・興味があり、既に学んでいた内容であったため、今後の学習に活かせると思った。ソフトスキルの話は掘り下げて学んでみたいと思った。また、プレゼンスキルも参考になった。
- ・具体的に効率よく進められるためのツールとしてフォーマットを活用するのは有効な事だと思い、早速取り入れてみたい。いつも研修でやったことを現場に活かしてきれていないと思う。
- ・グループワークなので、掘り下げて演習でき、体得できた。
- ・グループワークをして考えて伝えることの大切さをより一層感じる事ができました。

※他に33件の記述がありました。



## 6. 軽度発達障害の方へのライフステージに応じた支援について（田中康雄 氏）

1	大変参考になった	57
2	参考になった	8
3	参考にならなかった	1
	無記入	5
	合計	71



### 「大變参考になった・参考になった」の理由

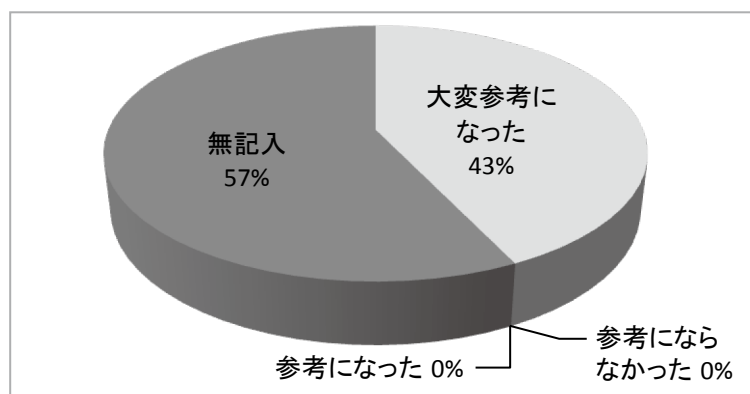
- ・ ASD学会の北海道大会でも「そうだ!そう思う、うん間違っていない」と思いましたが、今回も同様でした。“あきらめない、続ける支援”きれいごとでないリアルに関わり続けるための自身のメンタルヘルスになった講義でした。
- ・ Dr. からの視点だけではなく、トータル的にお話いただき、大變参考になりました。
- ・ 医学的な観点でなく、人を支える話が支援の原点だと感じた。
- ・ 親の思いからの視点が響いた。
- ・ 親の心理的なことから働きかけや今までのことを通じて笑いある話であり、すんなりと聞くことができた。短時間であったような感じでした。
- ・ 患者の方々の顔が浮かぶような、語りでした。一人ひとりの利用者の顔を浮かべながら、科学的な支援をできるように、伝えられるようになりたい、と思いました。
- ・ 具体的な事例も含め、とても勉強になる内容であった点。
- ・ 継続し、途切れないサポートの必要性を感じました。
- ・ ご本人、保護者の気持ちを中心にライフステージに応じた支援ということで診断から一生その方がその方らしく生きられるような、支援者のあり方を教えていただきました。先生の技術に内容は盛りだくさんでしたが、あっという間に講義が終わってしまった気がします。
- ・ 最後の講義として、各ライフステージ毎の必要な支援、考え方を学びました。ひとりの人の障害を考えること、そういった仕組みの必要性。
- ・ 札幌市にいて研修に部下を優先に出していて、自分自身本を読んでいるだけでした。生の先生の講義が聞けて面白く学びました。
- ・ 支援者として、何が大切か、わかりやすく学びました。
- ・ 支援者に求められるものを明確に(最後に)提示していただき、お話も聞きやすく、楽しかった。まだ出産も子育ても経験していない女性である私には、大變興味深い内容である。
- ・ 出産前後からの話があり、とても参考になった。途切れない支援。

※他に34件の記述がありました。

# 発達障害支援スーパーバイザー養成研修アンケート集計結果(実務研修)

## 1. 侑愛会

1	大変参考になった	3
2	参考になった	0
3	参考にならなかった	0
	無記入	4
	合計	7



### 「大変参考になった」の理由

- ・カリキュラムが充実しておりました。
- ・法人全体の取り組みを見せていただき、参考になりました。
- ・理論と実践が丁寧に積み上げられており、大きな法人であるにもかかわらず、利用者の「個」が見える仕組みを学びました。

### 「参考になった」の理由

(なし)

### 「あまり参考にならなかった」の理由

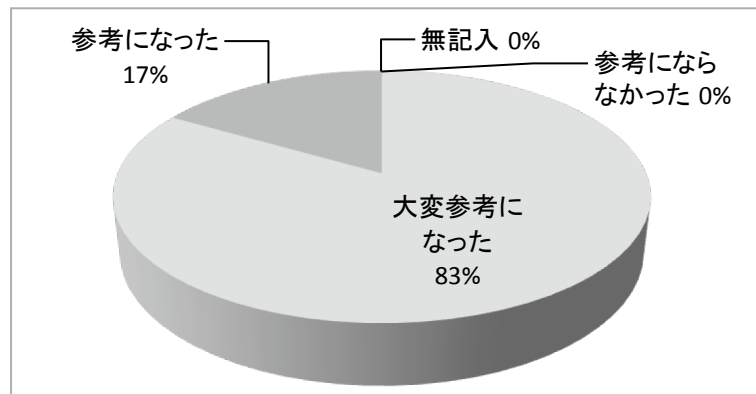
(なし)

### 「無記入」の理由

- ・あまりにも多方面の専門家がたくさんいらして、その中で一つ一つの役割、機能について、現場に入る機会も含め作っていただけたこと、貴重な経験でした。ただまとめの中で事業所さまにも伝えたのですが、発達障害(知的障害のない)の方への支援の仕方がもう少し含まれていると、よかったかなと思いました。最終日に函館名物ハンバーガーをおごっていただけ、有り難かったです。
- ・とても構造化されていることに対して、良い意味で刺激を受けたことが多かったです。
- ・先輩からの勧め。構造化の実際を学ぶため。

## 2. はるにれの里

1	大変参考になった	5
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	6



### 「大変参考になった」の理由

- ・カリキュラムが充実しておりました。
- ・TEACCHや構造化だけでなく、アセスメントの取り方(本人の気持ちとして書く)や職員研修(事例検討)に参加することができ、実践に取り入れられると感じた。
- ・成人の方の知識が薄かったので、トータルコーディネーターが少しでもできるようになるため、必死に学びました。職員さんの立ち振る舞いもとても素敵でした。地方(遠方)には、その土地土地での支援特徴等あることが分かりました。
- ・特に自閉症のグループホームについて知りたかったため選択した。実際に理念に基づいた実践を経験させてもらい、とても参考になった。
- ・広い地域と年代を支援しており、多くの施設を見せていただきました。現場だけでなく、職員研修も参加させていただき、育成まで広く研修させていただきました。

### 「参考になった」の理由

- ・ティーチを本格的にしている施設ということもあり、そういった施設をこれまで見たことがなかったの  
で、いろんな意味で刺激を受けました。

### 「あまり参考にならなかった」の理由

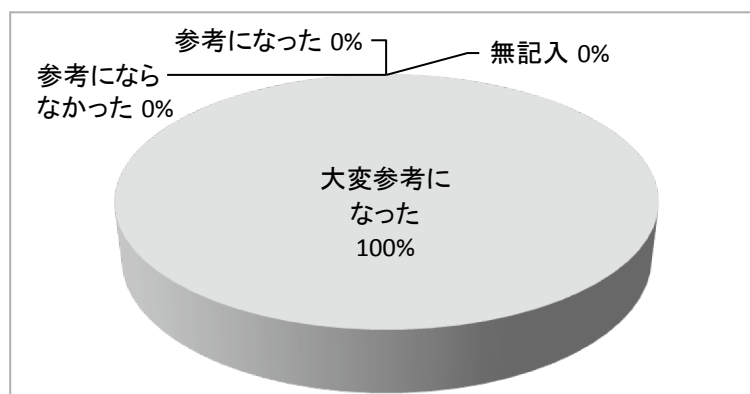
(なし)

### 「無記入」の理由

(なし)

### 3. 梅の里

1	大変参考になった	7
2	参考になった	0
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	7



#### 「大変参考になった」の理由

- ・グループ핑の支援、余暇の大切さなど。
- ・講義内容が充実しており、大変参考になった。
- ・一人ひとりの利用者さんに丁寧に向き合う姿勢が素晴らしかったです。一緒に研修に参加された方々からも、いろいろな情報を共有する機会があり、勉強になりました。
- ・支援者としての熱い思いや願いにふれることができた。
- ・みなさんに、とてもよくしていただきました。学校では体験、経験できないことを体験させていただき、本当に勉強になりました。一人一人の利用者さんの特性を考えて支援されていることや、ご家族との連携など、大変、参考になりました。一つだけ気になることは、日中一時入所、通所と内容が違うことで、その連携はどうとっているのかということです。職員の人数は多数いらっしゃるの、報連相・確をどうとっているのかということです。組織という中ではとても大事なことなので、その所を知りたいと思いました。
- ・「脳が汗をかく」「利用者さまを“おしはかる”」「“快”の存在」等担当してくださった方の考えに非常に心を打たれた点。特性に合わせた余暇、遊具にも、様々なアイデア、考えが詰まっていると感じた。

#### 「参考になった」の理由

(なし)

#### 「あまり参考にならなかった」の理由

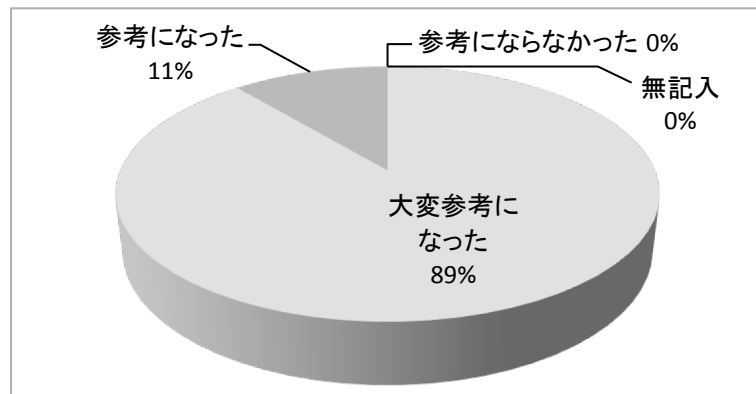
(なし)

#### 「無記入」の理由

(なし)

## 4. けやきの郷

1	大変参考になった	8
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	9



### 「大変参考になった」の理由

- ・ 報告書に挙げましたが、受け入れ施設としてとても優秀な法人ですと言いきれます。“人育て”において管理職の方々からの学びは大きなものでした。再度行きたいと思う施設でした。
- ・ 専門性、知識と理念のつながりを強く感じさせる施設でした。大いに刺激を受けました。スタッフの方の人柄、講師の方の人柄もとても感銘を受けました。それより何よりとても楽しかったです。
- ・ 設立の背景、理念、方針、現状、課題等、とても分かり易く説明されました。とても良い経験でした。働くことの意味と思いをしっかりと受け止めました。
- ・ やまびこ製作所の支援・実践はこれまでの「働く」という自分の概念を覆してとても印象的であった。
- ・ 幼少期から療育が重要で、成長とともに心の発達に成人期以降に大きく影響する事を学ぶことができました。成人期の「働く」事の意味や働くことを通して人を思いやる心が育つ視点は人が人として生きていくために大切な要素と思いました。グループホームも部屋にその人の興味、関心、宝物等が飾られており、暮らしを楽しまれている雰囲気が利用者不在(作業中)でも伝わってきました。(壊れている物が一つもなかったことが支援の質の高さを感じました)
- ・ 就労継続施設A型で働く自閉症の方々の生活ぶり、地域でのグループホームの生活など、ほかにはない取り組みが素晴らしいと感じた。
- ・ 太田ステージについて学ぶ機会ができたため。施設長さんや理事さんから直接さまざまなお話を聞く機会があり、大変参考になった。
- ・ 太田ステージ、就労継続支援A型について参考にしたかったため選択。実際に太田ステージを体験させてもらったり、A型での仕事を体験させてもらい、とても有意義だった。

### 「参考になった」の理由

- ・ 内容は勉強になったが、毎回実習場所が変わるので、積み重ねが難しかった。

### 「あまり参考にならなかった」の理由

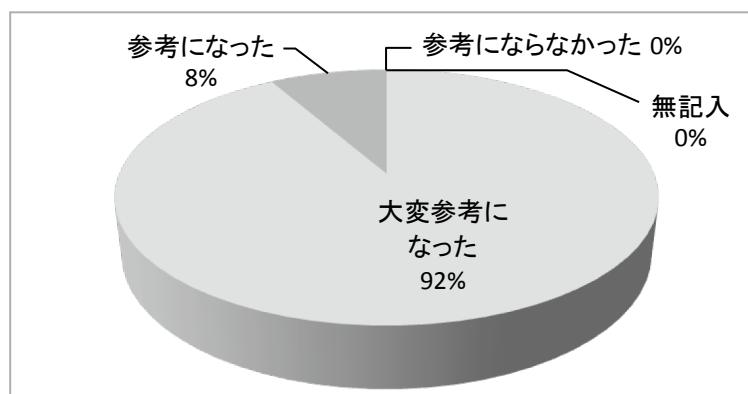
(なし)

### 「無記入」の理由

(なし)

## 5. 菜の花会

1	大変参考になった	11
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	12



### 「大変参考になった」の理由

- ・法人の、法人全体の理念・思想が様々な場面から、職員一人一人から伝わってきた点。宿舎での、仲間との福祉談義は、何物にも変えられない時間となった。
- ・山の中という、閉ざされた空間の中でも、施設内・外と、とても整頓されていて、見習うべき箇所がたくさんあった。また、地域との交流を、積極的に深めようと発信し続ける姿勢には感動した。9割以上が発達障害(自閉症)の方々を、構造化だけでは済ませないようと、工夫されているところも勉強になった。
- ・自閉症支援の専門性を追求し、特に構造化については、とても参考になりました。またそのベースとして、職員の本気さ、利用者に対するやさしさなど感じ取ることができ、よかったです。
- ・TEACCHプログラムの実践において、現場での成果、問題点などをオープンに話していただき、現状よりも常に前進していけるように取り組まれているところ。中でも個別理解における環境整備の考え方、取り組みはとても参考になった。
- ・多くの関わった方々が、大変率直に様々な事を教えてくれ、参考になるとともに、感心しました。オープンである事の大事さ、施設外とつながることの重要性を学んだと思います。
- ・理念と実践から沢山のことを学びました。
- ・生きづらさを感じる一人のために、環境から整える考え方と行動力は素晴らしく、基本を学ぶことができたように思います。何よりも敷地内の環境整備がなされている(とてもきれいに)こと、ゆったりと過ごせる自然に恵まれていることで、安心感があります。施設長の考え方は、私の事業所の前施設長と似ている点が多いので、気の引き締まる研修でした。
- ・地域で生きることの新しい可能性を見ることができました。自分の現場にも活用していきます。
- ・施設理念、職員教育など。
- ・必要な方に必要な支援が当たり前に行われていて、とても勉強になりました。

### 「参考になった」の理由

- ・施設内も、とてもきれいで、一人ひとりに特化した対応をされていたこと。

### 「あまり参考にならなかった」の理由

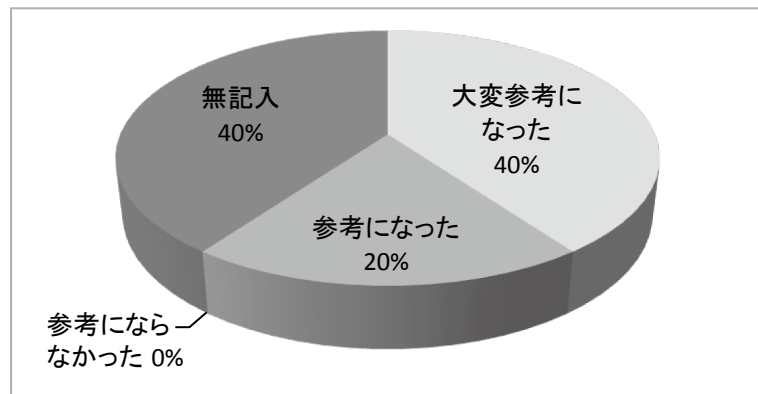
(なし)

### 「無記入」の理由

(なし)

## 6. 嬉泉

1	大変参考になった	2
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	2
	合計	5



### 「大変参考になった」の理由

- ・石井哲夫先生の「受容的交流理論」に、常に立ち返ることができるという強みを感じた。組織として人材育成をしていこうという姿勢とSVのシステムが非常に参考になった。

### 「参考になった」の理由

(なし)

### 「あまり参考にならなかった」の理由

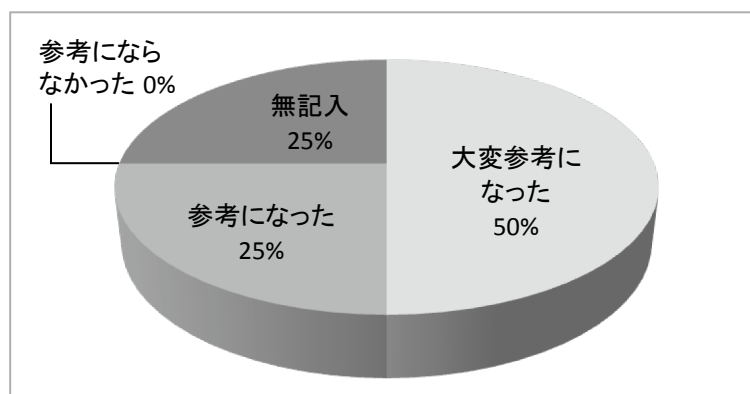
(なし)

### 「無記入」の理由

- ・安定の先の「楽しい人生」を考えていること、そしてそれを実施していることに、大感激しました。そして、それを私の施設にもすぐ取り込みたいと思いました。支援員のレベルの高さにびっくりでした。ナチュラルも目指せ「嬉泉」でいきたいと強く思います。

## 7. 正夢の会

1	大変参考になった	2
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	4



### 「大変参考になった」の理由

- ・成人と幼児両方を研修させていただいたのが非常にありがたかったです。年齢層も事業の幅も広く、ない支援なら作っていかうという姿勢の運営は自立を意識されているからこそと理解できました。
- ・特に幼児の方の支援の中でティーチプログラムを効果的に使われ、子どもたちの苦手さを軽減し、自分に少しでも自信が持てる取り組みをされている事が分かりました。ライフステージどこも大切だと思いますが、早期対応がやはり効果的だと実感しているので、こんな取り組みが広がり小学校へと引き継がれていくと良いと思いました。

### 「参考になった」の理由

- ・幼児から成人まで、通所も入学も…と多様な施設を見せていただくことができました。ニヤリハットという、職員の支援に対するモチベーションを上げるための取り組み等、新たな発見がありました。

### 「あまり参考にならなかった」の理由

(なし)

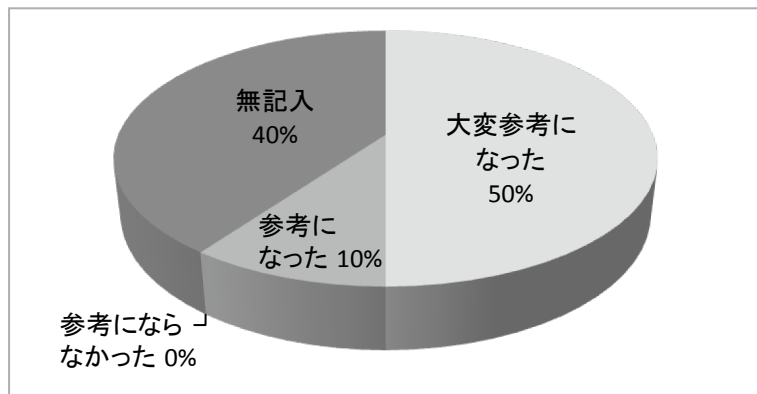
### 「無記入」の理由

- ・質のいい支援理論と実践に触れることができ、とても勉強になった。



## 8. 横浜やまびこの里

1	大変参考になった	5
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	4
	合計	10



### 「大変参考になった」の理由

- ・日中活動の組み立て方、入所施設での生活の様子、建物の構造について。
- ・自閉症者への支援に対する考え方から、構造化の活用の仕方や、行動障害へのアプローチなど学ぶことができた。
- ・仕事を進めていく考え方、方向性、アプローチなど、再確認することができ、改めて支援の必要性を強く感じた。ケース会議も実際に参加することができ、物事の捉え方など参考になる点が多かった。ただ、同じ自立課題が繰り返し、時間つぶしの感も否めず、課題自体に意味がないように感じた。だからこそ、意味のある、スキルアップにつながる課題の提供の必要性も強く感じた。研修生受け入れのノウハウは大変参考になり、一部自施設でも取り入れました。
- ・自立訓練を軸にした支援が徹底されており、その実践方法について十分学ぶことができた。
- ・町の中心地というわけではないけれど、隣接された建屋がたくさんあり、その中で、入所施設や、GHを運営していく工夫は参考になった。新任職員でも対応できる仕組みづくりが、法人全体でなされており、徹底された支援だった。

### 「参考になった」の理由

- ・自分の施設と似た施設で、気づくことが多かった。

### 「あまり参考にならなかった」の理由

(なし)

### 「無記入」の理由

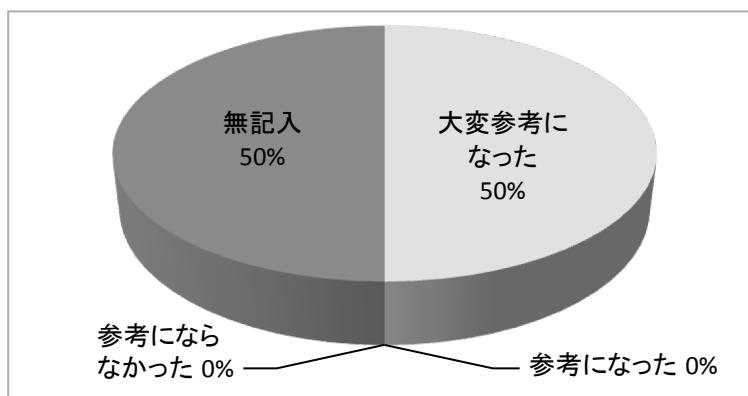
- ・TEACCHプログラムを取り入れ、あのレベルまで完成させていることに驚きました。
- ・先輩からの勧め。構造化の実際を学ぶため。
- ・重度の自閉症の方が多く、年代からして幼少期に療育が受けられなかったのか、自閉症の方への無理解が彼らを苦しめてきたのではと心が痛む思いでした。親御さんがやまびこの里があるから頑張れる、安

心できると話している事が、この施設がいかに重要な役割をしているのか学ぶことができました。また、個々に配慮していることや、利用者一人ひとりの情報の共有化が職員間で徹底されている事で支援の保障がされ、安心して生活ができることを改めて気づかされました。



## 9. 川崎市くさぶえの家

1	大変参考になった	1
2	参考になった	0
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	2



### 「大変参考になった」の理由

- ・新しい視点を獲得できた。

### 「参考になった」の理由

(なし)

### 「あまり参考にならなかった」の理由

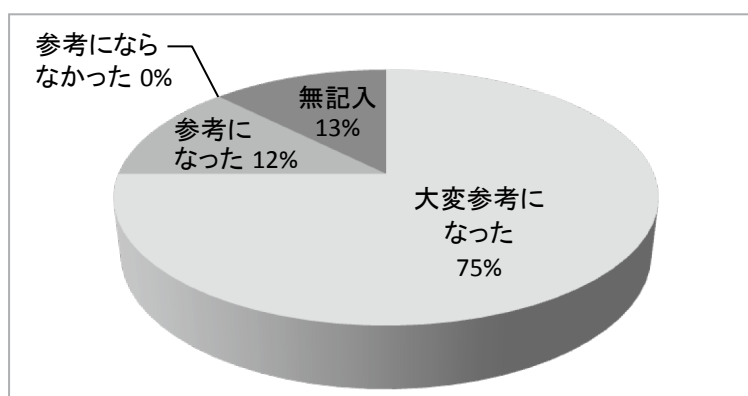
(なし)

### 「無記入」の理由

- ・反面教師という意味で参考になった。障害があるからと言って、日々が訓練ではしんどいのではないかと。

## 10. めひの野園

1	大変参考になった	6
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	8



### 「大変参考になった」の理由

- ・見て、体験して分かったことがたくさんありました。
- ・利用者さんへの仕事の提供がしっかりとされており、地域への関わりも十分に考えられていた。
- ・働く場の創出にとっても力を入れており、カルチャーショックのようなインパクトを受けました。すぐさまねできるものでもないのですが、少しずつ取り入れていきたいと思います。
- ・しいたけがすごかったです。自分が今まで思っていた就労とはちっぽけだったんだな、生活を支えるとはこんな形もあるんだなと学ぶことができました。
- ・ほぼすべての参加者が、何らかの生産的な作業に参加されているのが印象的でした。一人での参加で、ご迷惑をおかけしたと思いますが、私的には、充実した研修でした。
- ・理事長が話された「プロ」を育てるという姿が法人内に浸透しており、仕事に対する姿勢を改めて確認させていただいた。

### 「参考になった」の理由

- ・仕事を中心にした生活、本物を見せるという方針が素晴らしかった。

### 「あまり参考にならなかった」の理由

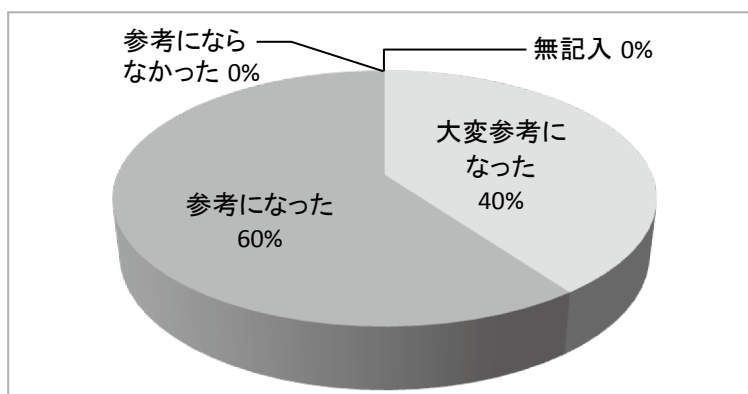
(なし)

### 「無記入」の理由

- ・実習と講義がハードであったけれど、多くの経験をさせていただき大変勉強になりました。また担当のスタッフが大変熱意を持って対応していただいたことに感謝をしています。

## 1 1. 檜の里

1	大変参考になった	2
2	参考になった	3
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	5



### 「大変参考になった」の理由

- ・現場実習に力を入れていただき、実践から多く学び、一日を最後に振り返り、職員の方から意見を聞き、質問にも多く答えていただきました。
- ・生活棟を軸に、各事業所の作業の様子や、建物のつくりなど、見せていただけて、よかったなと思います。また、リーダー層だけでなく、現場の職員さんともお話ができる機会もあったので、現場の声を聞きながら研修に参加できたところはとても参考になりました。

### 「参考になった」の理由

- ・自閉症の方との向き合い方は学べましたが、人としての向き合い方に疑問が残りました。「地域の中で」という目指すべきところは、共感し、学ばせて頂きました。
- ・見学が中心であり、客観的視点からアプローチできた。施設長が言われていたが、現在、SV研修としてのプログラムが十分に確立できていない現状があり、今後に向けてさらなるプログラム充実が必要とのこと。もう少し現場に介入していきたい部分はあった。

### 「あまり参考にならなかった」の理由

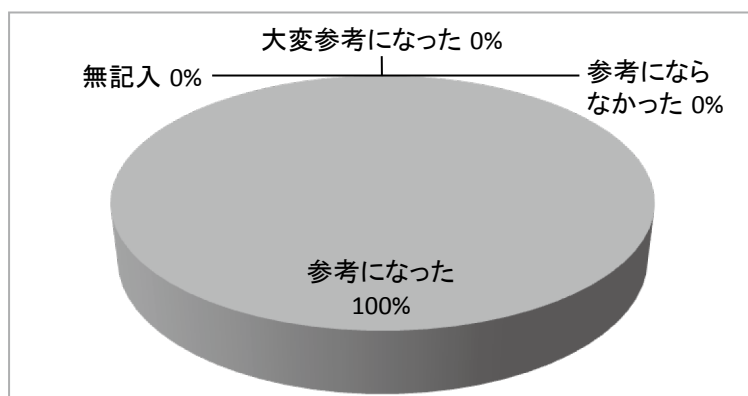
(なし)

### 「無記入」の理由

(なし)

## 1 2. つくしの会

1	大変参考になった	0
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	1



### 「大変参考になった」の理由

(なし)

### 「参考になった」の理由

- ・参加者が1人だったため、意見交換ができなかったことが残念だった。今まで見学に行った施設とは違った対応や、構造化を行っていない取り組みに驚いた。

### 「あまり参考にならなかった」の理由

(なし)

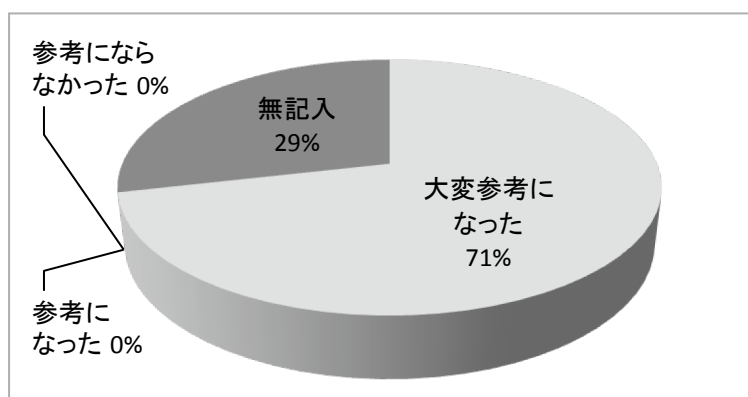
### 「無記入」の理由

(なし)



## 1 3. 北摂杉の子会

1	大変参考になった	5
2	参考になった	0
3	参考にならなかった	0
	無記入	2
	合計	7



### 「大変参考になった」の理由

- ・法人内のほぼすべての事業所を拝見させていただき、とても参考になりました。新しい取り組み(コロッケ屋等)も素晴らしかったです。
- ・GHや入所施設・就Bなど様々な施設を見学させてもらえた。新たな気付きも多く、職場で取り入れていこう

と思った。現場の事だけでなく、人材確保、育成のことについても話を聞けたので、とても参考になった。

- ・実際に、事業所に戻り、研修先で「これは!」と思った取り組みや支援を提案、実施していくことができたため。

### 「参考になった」の理由

(なし)

### 「あまり参考にならなかった」の理由

(なし)

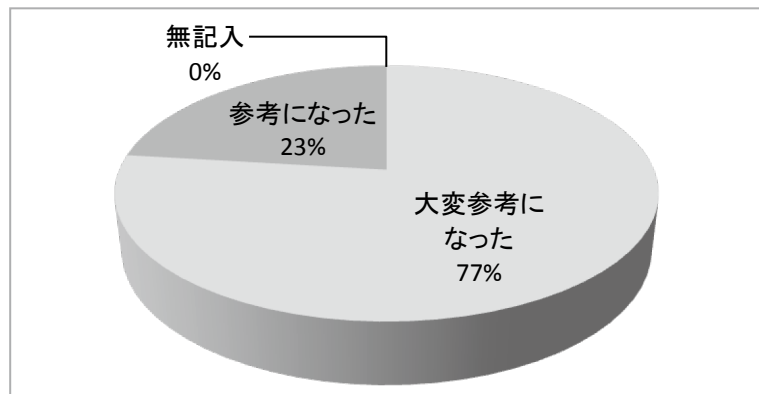
### 「無記入」の理由

- ・構造化を多く取り入れており、学ぶべき点や取り入れたいと思う点が多くありました。
- ・理念、ビジョンがあって進めている中で、全職員がぶれていない支援の統一に衝撃を受けました。

---

## 14. あかりの家

1	大変参考になった	10
2	参考になった	3
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	13



### 「大変参考になった」の理由

- ・施設全体が研修生を積極的に受け入れ、入りやすい環境であった。朝のミーティングに参加する機会があり、その場がケース会議になることもあり、質問の受け答えにきちんと根拠を求め、実践が人材育成とつながっているところが参考になりました。活動時の休憩の取り方も参考になりました。
- ・私の事業所にはない支援をされているので、違った考え方や方法を知ることができてよかった。また、どのような特性がある方も生産活動をされており、活動・作業や日々の充実感を課題として抱えている私としては、自分の努力不足と行動力の弱さを実感するとともに、挑戦への意欲がわかりました。方針にぶれがなく、どの職員の話も異ならない、筋の通った考え方が素晴らしいと思います。
- ・施設長の三原先生の熱き思いをたくさんお聞きし、しっかりとした理念のもと、職員の方々が一丸となって利用者さんのために働かれている姿を実際に見せていただき、多く学ぶものがありました。何よりも作業に打ち込んでいらっしゃる利用者さんの姿が印象的で、それぞれ個々の特性を生かした支援がなされているところ。よかったです。

- ・リハビリ的ショートステイの受け入れなど、事業所全体のチームワークで取り組んでおられる取り組み、支援さん方の姿勢がすばらしいと思った。また三原施設長や、主任さん達のリーダーシップにも感心した。
- ・関係性の視点や、キーワード集等の、話を聞かせていただき、大変学ぶことが多いでした。
- ・事例検討では、施設独自の事例集(過去の支援→結果がまとめられたもの)をもとにヒントを出しながら考えていけたところが大変勉強になった。過去に実践した支援を記録→まとめることがいかに大切か理解できた。
- ・熱く、あたたかい施設でした。施設長の姿勢が法人のあり方、支援の方向性をしっかり示されており、法人全体が素晴らしいチームでした。朝の引き継ぎにも参加させていただき、とても内容が濃く、隠さずいろんな面を見せていただきました。支援に対しては厳しい職場だと思います。とても刺激を受けました。
- ・向き合い方、職員の人材育成方法等、支援を変えるきっかけになりました。

### 「参考になった」の理由

- ・1回目と同様、プラス自分の事業所の支援を再度確認することができた。
- いろいろな角度から、外部の先生を招いて、自己研修をしているところに熱心さを感じました。

### 「あまり参考にならなかった」の理由

(なし)

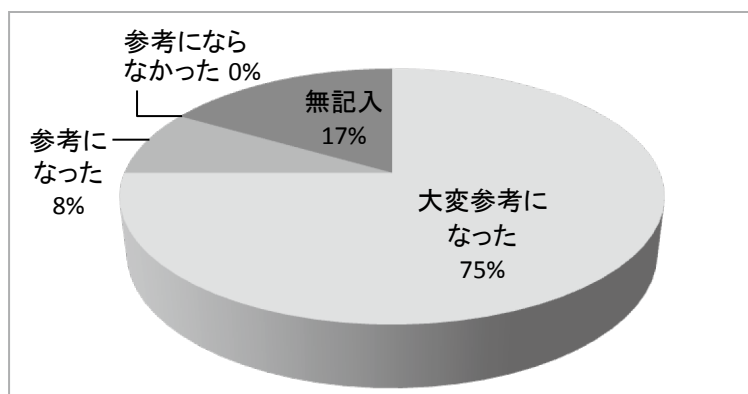
### 「無記入」の理由

- ・法人全体のつながりを感じ、施設がバックアップしている体制がよくわかり勉強になりました。日中活動の方向性など大変共感できるものがあり、学ぶべき支援が多々あり、充実した実務研修となりました。



## 15. 三気の会

1	大変参考になった	9
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	2
	合計	12



### 「大変参考になった」の理由

- ・専門性の高さ、チーム力というものを感じました。(バディー制度)
- ・職員の方、スキルの高さに驚きました。
- ・各事業所について見せていただき、参考になりました。また独自に行われているSV体制についても知ることができ、新鮮でした。私たちの行っている支援と似ているところが多く、職員の皆さんも情熱をもってやられている姿を拝見でき、とても安心(という言い方は失礼かもしれませんが)致しました。実際に利用

者さんと関わりながら現場の様子についてはもう少し見てみたかったという思いはあります。

- ・とてもいいに1つ1つ施設の中を見せてもらい、考えを聞きよかったです。職員のみなさんが施設を作られた田中先生の理念がしっかり入っているのが素晴らしかったと思います。
- ・職員の方々と、たくさんお話をさせていただいて、大変オープンに包み隠さずすべてを見せていただきました。日常生活に制約を持つ方々の自立、生活の支援について理解がまた一つ深まりました。また、児童の発達支援の方も見ることができ、現在の職場に生かすヒントをたくさんいただきました。
- ・ABC分析や、児童発達支援などでの取り組みなどが、大変勉強になりました。
- ・建物は古かったが、職員と利用者との関係性の構築に力を注ぎ、1回目の実習施設とは対照的だったので、とても勉強になりました。また動作法についての実技や支援の中うまく取り入れている部分を見て、自分の職場でも実践しようと思っています。

### 「参考になった」の理由

- ・利用者の方々のことを考え、職員の方が、苦勞を惜しまず、細かく対応されていたこと。

### 「あまり参考にならなかった」の理由

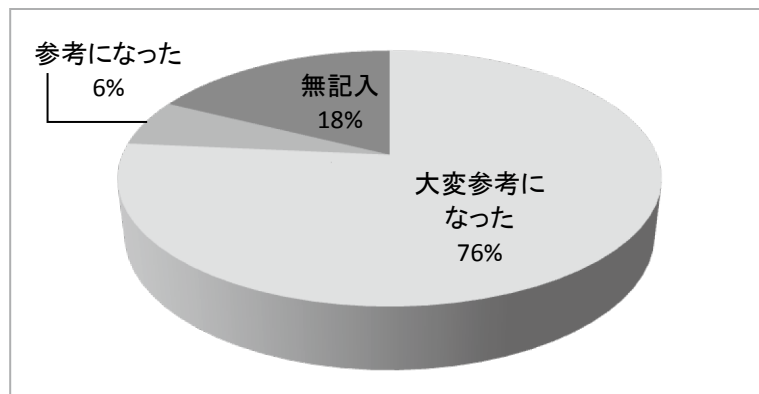
(なし)

### 「無記入」の理由

- ・利用者の方の障がいの程度は違うものの、職員の仕事に対する意識の統一を図れている事が凄いいいなど感じた。
- ・幼児施設での取り組みが特に印象に残った。

## 16. 萌葱の郷

1	大変参考になった	13
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	3
	合計	17



### 「大變参考になった」の理由

- ・特別なツールやシステムだけが大切ではなく、気持ちに向き合うことの大切さを学ぶことができました。
- ・この仕事がとても素晴らしい仕事であることを、気付かせていただきました。今後、初心に戻り、理想を持って取り組んでいきたい気持ちになりました。事業ありきの支援ではなく、ニーズに合わせて支援、制度を作っていく姿勢、エネルギーはすごいと思います。
- ・自分の施設以外に、他施設の取り組みを目の当たりにして、とても感動しました。



- ・ 支援内容や、職員の共有などが統一していたことがとても素晴らしいと思いました。
- ・ 理念がしっかりしており、どの職員の方に尋ねても同じ答え(肯定的な言葉かけなど)が返ってきたことには、感心させられた。めぶきで見て、感じたことを私どもの職場に伝え浸透させていきたい。その努力を惜しまないようにしたい。ありがとうございました。大分の料理おいしかったです!!
- ・ ASDの人の整然とした取り組み。
- ・ 1回目と同様な感想を持ちました。個々の専門性により、チーム力が高いと感じました。保育所と児童発達支援センターが併設しているのは、とても魅力的でした。
- ・ 五十嵐先生の情熱に感動しました。
- ・ 各事業所を運営する上での職員配置や日課の組み方、特定の療法でなく良いものは取り入れるといった視点がためになった。「ご本人の頑張りを認める」日頃の支援での基礎となるべきことを改めて見直すことができた。
- ・ 発達障害の方々にとどのように支援するか、また、その方々のために支援する等、実習を通し、感じる事ができ、萌葱の郷の利用者は幸せそうだと見て感じました。
- ・ 支援員としての前に人としてどう仕事に向き合うか、まずその押さえを抜きにしてはこの仕事に本当に向き合うことは難しい。そこを改めて考えさせられた。問題を利用者ではなく自分のものとしてとらえること。独自展開されている事業展開についても、驚きと多くの学びがあった。

### 「参考になった」の理由

(なし)

### 「あまり参考にならなかった」の理由

(なし)

### 「無記入」の理由

- ・ 理事長の理念が、下まできちんと伝わっている事に感動しました。私の施設も、そうありたいと思い、目指したいと思います。
- ・ 多くの実習体験をさせていただきました。貴重な体験だったのですが、一つ一つの体験を、もう少し体験したかった。大変、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 利用者さんの接し方や関係性の部分において、非常にレベルが高いと思われました。そしてその方向性が下に徹底されていることも感心しました。

## 発達障害支援スーパーバイザー養成研修アンケート集計結果（研修全体）

- ・ “スーパーバイザー養成” …名前の荷が重いです。資格的に捉えるのであれば…。実務研修のカリキュラムを設定してほしい。例えば、A施設は就労に特化した取り組み、B施設は強行の対象者が多いなどのアナウンス、又はどの施設でもアセスメントに関する講義を設けるなど、担当施設ごとに内容が違いすぎないように。あるところでは「5日間のうち、半日ほど、現場実習で、特に説明や振り返りもなく、現場に立たされるだけ」のところもあれば、きっちり講義メインで構成されているところがあったりがあったそうです。スーパーバイザーと名を付けるのであれば、“学びの標準化”を一定レベルまで同じにしてください。中四国の参加者・実地研修先が少ないのはなぜでしょう？
- ・ 1年間、実りある研修となりました。全国で同じように熱い思いをもって支援され、発達障害の方々の生活を楽に、質を高く…と、また、若い支援者を育てようとしてされている姿勢に、多くの刺激をいただきました。あわせて、そのような方々とつながることができたこと、大変うれしく思います。最後になりましたが、スタッフの皆様、準備から運営と本当にありがとうございました。感謝しかありません。
- ・ 1年間の研修お世話になりました。「発達障害者支援センター」として、スタッフの資質の向上は絶対的なものです。多くの家族、企業の方、支援者(相談所、学校、教育委員会、中ポツ、子・若、等など…)、そして本人の話を聞き、そのライフステージに合った支援、つなぎを相談させていただく中で、自分の力の弱さを痛感する日々です。しかし、困っている子どもたち、成人期のみなさん、支援者のみなさんを支えることは、私たちの使命であるとも思います。私たちだからこそできること、「本センターに相談して良かったあ」と言って、思っただけのセンターを目指していきたいと思います。この研修を通して、全国のみなさんと知り会えたことは大きな力でもあり、喜びでもあります。これからは大切だと思っています。このSV研修を通して、考えさせられたこと、思い、願いを少しずつでも実践していきたいと思っています。ありがとうございました。※一期生の方による実践報告のコマもあるとよいかと思います。
- ・ SV受け入れ施設の各長所を活かしつつ、一貫したプログラムがあればより良いと感じました。
- ・ SVに関しての認知がまだまだ低いのもっと広められれば…。
- ・ 一年を通して長い研修であったが、とても大きな学びがあり、一番は人脈づくりがたくさんできたことが今後の宝になるのかなと感じております。現場にもどう学んできたものを生かせるように、取り組んでいきたいと思っています。
- ・ 色々な地域の色々な職種の方々の話を聞けて、とても参考になり、刺激を受けました。また自分が行ってきた支援を振り返りきっかけになりました。今回の研修で得た知識や経験を所属施設に持ち帰り、還元したいと思っています。
- ・ 今日で研修が終了し、スーパーバイザーになりますが、あくまで自分の中では入り口に過ぎないと感じています。これからは、どんどん知識を部下と分かち合い、一緒に何度も反復的に勉強しながら、マネジメントをする立場なので、日々の業務に活かしていきたいです。最後に、事務局の方に対して1年間本当にお世話になりました。
- ・ グループワークがもっとあっても良いと思います。全国の様々な事業所の方と、知り合いになれて良かったです。
- ・ 研修報告は時間内でできるようお願いしたい。(乗り物の時間もあるので。)
- ・ 研修報告は必要ないのではないだろうか。もっと田中先生のお話を聞きたかった。
- ・ 後期研修の2日目が今までの研修の中で一番面白かった。グループワークから多くの人の考え方や意見を一つずつ丁寧にまとめる力や伝達する力が身につくと思います。また、SVとして求められている姿でもあると思います。話を聞くだけの研修ではなく、もっとグループワークがあれば仕事を進めていく上でのスキルアップにつながると感じた。研修レポートの多さが目につきがちであるが、身につくことが多いのも事実で

ある。事前レポートがあったのも意識していくうえで大変重要な役割を果たしていた課題でもあったように感じた。

- ・講師は“溢れるバイタリティと良い意味で戦う人たち”。あきらめない、止まらない、続ける・伝えるとはを考え、リアルに学ばせて頂ける時間でした。実習先でも同じ学びでした。考えている事は間違いじゃないと後押ししてもらえました。一緒に研修を受けた方々はお話しできなかった方もいますが、関わった方々は“同志”と思ってよいんじゃないかという出会いでした。似非は嫌いな私なのですが、自分の中で似非にしない仕事となっているかを問いながら(産まれてから年をとるまで継続した)発達障害に携わる上でのスピリッツを自分の言葉で伝えたいと考えます。きついけど楽しい、だから続けられた価値ある研修となりました。
- ・子ども(児童)の発達の勉強ができるの良いなと思いました。事務局の方は、準備が大変だったことと思います。ありがとうございます。たくさんの横のつながりをいただいたこと、たくさんの学びや気づきをいただいたこと、本当にうれしく思います。盛り上がり多き、二期生とのことでした。このつながりが大きな支援の輪となりますように…。
- ・この研修素晴らしいです。この研修を立ち上げ、運営してくださったスタッフの方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。この仕事を20年以上続けてきて、夢のような研修でした。
- ・この研修に参加させていただき、自分の支援の振り返りができたこと、またそれと同時に発想の転換・広い視野、様々な人との出会いによるネットワークができたことは、とても宝物になりました。
- ・今後、大きなテーマとなる高齢者の話題も聞きたいと思います。ありがとうございます。
- ・今後もずっと継続していただけたらと思います。今後ともよろしくお願い致します。
- ・最高の研修でした。地域の方へ今回研修で得た知識、技術を還元していきたいと思います。今後も自分の信念をもって頑張っていきたいと思います。このような機会を計画していただき、大変ありがとうございます。
- ・最終日は昼またぎでもいいのかと思います。(店がほとんどありませんが…)
- ・座学だけではなく、2ヶ所を1週間ずつという実地研修があるという内容がとても良かった。日常業務をこなしながらのレポートは大変だったけれど、経験を重ねた現在の視点から、様々な部分を見させていただき、勉強になった。全国規模ならではの研修もあまりなく、更に長い期間だったので交流が深まり、横のつながりが広がった。主催や事務局の皆さん、本当にありがとうございました。
- ・施設によつての取り組みは様々で、それぞれの良いところを多く学ばせて頂き、地域や子どもの実態に合った取り組みをしなければいけないと思いました。兵庫の発達障害者支援センターも和田先生から様々な資料をいただき、さっそく参考にさせていただきました。もう少しお時間があればと思いましたが、お忙しいところ多くの方々のお世話になりながら貴重なお時間を頂き、充実した研修をさせていただけたことに、心より感謝申し上げます。
- ・実務研修2ヶ所でできたことは同じ障害を持って環境、考え方によって生活そのものが違ってしまうことを考えさせられました。施設、法人の理念は、今まであまり気にはしていなかったが、その施設の柱立てになる重要な思想だと思いました。中身の濃い研修でした。ありがとうございます。研修として旅費、(宿泊)交通費など、経費が高く、できれば職場から近い場所で実務研修ができると助かります。
- ・自分の中で、何を目標せばいいのか研修前は明確ではなかった部分がありましたが、今回のSV研修を終え、自分の中で支援のベースとなるものが整理できたような気がしています。また全国にこれだけ、頑張っておられる支援者(仲間)と話す機会も設けていただき、とても力強く感じています。自分が職場で行き詰ったときは、皆さんの話を思い出したいと思います。
- ・自閉症については基本的な知識しか持っておらず、今回の講師の方々最新の深い内容を教えていただくことができたことがよかった。知識面だけでなく、支援をする上での精神的な大切なこと、保護者の方の思いなども大切にしていきたいと思う。後期の集合研修ではグループワークがあり、先輩方の視点やアセスメントシートの書き方も学ぶことができ、座学以外のグループワークも良かったと思う。運営等大変だったと

思います。ありがとうございました。今後のSV研修も職場の都合がつけば参加させていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

- ・自閉症や発達障害について学べたが、スーパーバイザーとしての講義がなかったことが残念だった。実務研修に2回も参加でき、とても勉強になった。
- ・事務局の方々、実務研修の受け入れ先の法人の方々、忙しい中、本当にありがとうございました。
- ・ジョブコーチの団体のような組織を目指してほしいです。発達支援センターからつながりが持てるようになりたいです。専門的な研修は絶対必要なので、続けてこの養成研修は無くさないでください。
- ・素晴らしい研修でした。今後活かしていきたいです。実習先にKaizenみたいな選択肢があると、更に多様なニーズに対応できるSVが生まれると思えます。研修報告で考えを共有できたのは良かったと思えます。ただ、みなさん帰りの都合があるので、最初から終わり時間を長めに想定しておくか、タイマーで管理すると、みんな落ち着いて聞けると思えます。(後半に集中切れておしゃべりorアンケート記入してる人が目立った)
- ・全ての研修においてたくさんの刺激を受けることができました。同じSV研修を受けていても、それぞれに思うこと、学ぶことなどは違い、とらえ方も様々だと思えます。それらを共有する機会もあればと思えます。本当の研修はこれからなのかも思っています。事務局をはじめ、主催者の方々、本当にありがとうございました。
- ・前期、後期あわせて専門の各分野の講師の方々から、多くの情報・知識を得ることができて、大変良かった。実務研修においては、受け入れる施設は大変だっただろうが、とても良い経験となった。単なる知識ではなく、根本から、自分自身の「気づき」につながったことが一番の収穫だと感じた。ありがとうございました！
- ・全体研修、実務研修、懇親会…と、多様な設定をしていただいたことで、いろいろなことを学ぶだけでなく、全国の支援者と情報交換をすることができました。
- ・たくさんの経験をありがとうございました。支援の再度の確認、目からウロコの支援、本当に実のある研修でした。頑張ってレポート出します。これからもよろしくお願ひします。
- ・たくさんの施設職員さんとの交流ができて、とても良かったです。たくさん勉強させていただきました。ありがとうございました。
- ・誰かがやらなければならない事が目の前にある。それをやれる自分がそこにいるのなら、やらない理由はない。まだ、いろいろ不足している自分ですが、大きな学びを得ることができました。運営のみなさん、受け入れ施設、講師のみなさん、そして全国の同志に感謝しています。今後も協力できることがあれば、なんでもやります。よろしくお願ひします。
- ・近い問題意識を持つ人の多さに触れ、勇気をもらいました。学び続けること、思考を続けること、行動し続けること、それらにより、自分自身が変ること、それを怖れないこと。自分の現場の利用者とともに変わっていきたい、と思えます。
- ・著名な先生方の講義を聞かせていただき、とても勉強になりました。また、いろいろな県のいろいろな職種の方と知り合え、つながった事がとてもよかったです。ありがとうございました。
- ・とても1年間、早くまた実りの多い研修でした。この研修を通して、出逢うことができた、全国の先生方とのネットワークが築けたことがとてもよかったです。あとは、レポートを書くことを頑張りたいと思えます。大変、お世話になりました。最後の研修報告は、2グループに分けるなどと工夫してもいいのではと感じました。時間が長くなると、最初は、皆様さん、聞く姿勢があると思えますが、それが徐々にできなくなると思えます。時間内に終わっていただけるとありがたいです。意見です。
- ・とても意義のある研修でしたが、レポートの数が多く大変です。
- ・とても素晴らしい研修でした。
- ・とても贅沢な研修ありがとうございました。SVに向けて、今後とも励んでいきたいと思えます。

- ・とても早い一年間でした。学びの量・質ともに多く、「頑張るぞ」と心の底から思える研修に参加することができてとてもよかったです。ありがとうございました。
- ・とにかく楽しい研修でした。若さというのは知識を感性にまで磨き上げて話し合っているグループ討議に感銘を受けた。
- ・内容の濃い一年でした。大変勉強になることが多くありました。ありがとうございました。実務と、集合の内容が非常に充実していたと思います。
- ・中身の濃い研修だったと思います。消化できるのかなあと心配なのが正直なところです。
- ・何よりもたくさんの出会いがあったこと、うちの事業所では出てこないような視点・考え・意見を聞くことができて、視野が広がりました。研修の内容も大変ためになり、なかなか行くことのできない他県の施設での実務研修は、とても貴重です。ありがとうございました！
- ・発達障害支援SVとして、知識やアセスメント力、発達障害者の現状、当事者の方の話など、多くのことを学べたことはもちろん、実習などで知り合えた仲間と横のつながりができたことが、うれしかったです。ありがとうございました。
- ・非常に中身の濃い、かつ親近感を覚える研修でした。次回からも、施設職員の学習の機会として、参加させていただこうと考えております。
- ・非常にボリュームがあり、かつ内容の濃い研修に参加させていただき、ありがとうございました。本研修で財産となった、横のつながりを今後の仕事につなげていければと考えております。
- ・振り返ると、豪華で、一流の講師ばかりだったと思います。事務局の方、いろいろと大変ですが、今後もSVをよろしく願い致します。
- ・プログラムの内容の充実していた。国の事業としてではなく、大分県が取り組んでいるところがありがたいですし、協力して継続していきたいです。
- ・本当に実務研修、講義全てにおいて学びにつながりました。今後もSVの会よろしく願います。
- ・もう少し、重度の方の事例に対して、どう対応したら良いかを講義していただけるとありがたかったです。
- ・もともと知的障害者の更生施設で自閉症の利用者さんは少なかった。知的だけならグループホームへ移っていったり、高齢になれば介護保険に移って高齢者の施設に行かれるが、その空きに重度の自閉の方が入ってこられて割合が増えている。彼らにどう生産的な活動をしてもらえばよいか、どのように生活してもらえば良いかという問題意識を持って参加した。施設研修はとてもよいヒントと刺激をもらった。職場に役立てていきたい。自分ひとりでは実践できないので、まずは法人内でスーパーバイザーの役割を果たしていきたい。

# 修了者名簿

## 平成26年度 スーパーバイザー養成研修 修了者 (H28年12月1日現在)

受講者No	名 前	ふりがな	所属機関	所属 (施設名)	県
26002	塩原あかね	しおばら あかね	社会福祉法人 侑愛会	星が丘寮	北海道
26003	上川 孝一	かみかわ こういち	社会福祉法人 侑愛会	ねお・はろう	北海道
26004	高橋 拓矢	たかはし たくや	社会福祉法人 はるにれの里	札幌市自閉症者自立支援センターゆい	北海道
26005	古野 利明	ふるの としあき	株式会社 北海道ケア・サポート	生活介護事務所 らいと西	北海道
26007	佐藤 友紀	さとう ゆき		岩手県発達障がい者支援センター	岩 手
26008	萩原 梢	はぎわら こずえ	茨城県立あすなろの郷	茨城県立あすなろの郷地域生活支援センター	茨 城
26010	小坂砂由里	こさか さゆり	NPO法人 生活支援ネットワーク こもれび	NPO法人 生活支援ネットワーク こもれび	茨 城
26012	森 真紀	もり まき	社会福祉法人 愛信会	第二幸の実園	茨 城
26013	大内 弘毅	おおうち こうき	社会福祉法人 梅の里	あいの家	茨 城
26014	森嶋 夏希	もりしま なつき	社会福祉法人 実誠会	障害者支援施設 なるみ園	茨 城
26015	緒方 広海	おがた ひろうみ		さいたま市発達障害者支援センター	埼 玉
26016	増渕 英美	ますぶち えみ		さいたま市発達障害者支援センター	埼 玉
26018	及川 毅征	おいかわ たけゆき	社会福祉法人 けやきの郷	埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」	埼 玉
26019	土屋 一平	つちや いっぺい	社会福祉法人 緑の風福祉会	みどりの風	埼 玉
26020	大久保美香	おおくぼ みか	社会福祉法人 新	障害者支援施設 中新田自立スクエア	埼 玉
26024	加瀬紗矢佳	かせ さやか	社会福祉法人 泰斗会	生活介護事務所 八街わらの里	千 葉
26025	今村 麻紀	いまむら まき	社会福祉法人 泰斗会	生活介護事務所 八街わらの里	千 葉
26028	福岡 俊司	ふくおか しゅんじ	社会福祉法人 嬉泉	袖ヶ浦ひかりの学園	千 葉
26029	舘山 聡	たてやま さとし	社会福祉法人 菜の花会	しもふさ工房	千 葉
26030	前田 潤悦	まえだ じゅんえつ	社会福祉法人 菜の花会	アーアンドディだいえい	千 葉
26033	井口 直樹	いぐち なおき	社会福祉法人 嬉泉	おおらか学園	東 京
26036	上田恵里子	うえだ えりこ	社会福祉法人 育桜福祉会	川崎市わーくす高津	神奈川
26037	佐野 良	さの りょう	社会福祉法人 育桜福祉会	桜の風	神奈川
26038	藤野 真一	ふじの しんいち	社会福祉法人 育桜福祉会	桜の風	神奈川
26043	金田 圭二	かねだ けいじ	社会福祉法人 はぐるまの会	はぐるま共同作業所	神奈川
26044	岸岡 信也	きしおか しんや	社会福祉法人 新川むつみ園	障害者支援施設 新川むつみ園	富 山
26046	辰野 聡則	たつの あきのり	社会福祉法人 つくしの会	自閉症者療育施設 はぎの郷	石 川
26047	黒瀬 陽亮	くろせ ようすけ	社会福祉法人 すいせんの里	支援センター すだちの家	福 井
26048	高野 哲哉	たかの てつや	社会福祉法人信濃の郷	障害者支援施設 白樺の家	長 野
26051	八木 敦子	やぎ あつこ		静岡県発達障害者支援センター	静 岡
26056	奥田 雅一	おくだ まさかず	社会福祉法人あゆみ	あゆみ夢楽園	三 重
26057	中村 和博	なかむら かずひろ	社会福祉法人 檜の里	ワークセンターひのき	三 重
26060	平下 直樹	ひらした なおき	社会福祉法人 同朋会	伊自良苑	岐 阜
26063	木坂 佳世	きさか かよ	社会福祉法人 永寿福祉会	永寿の里 彩羽	大 阪

受講者No	名 前	ふりがな	所属機関	所属（施設名）	県
26065	齋藤 克己	さいとう かつみ	社会福祉法人 あかりの家	障害者支援施設 あかりの家	兵 庫
26066	亀山 隆幸	かめやま たかゆき	社会福祉法人 あかりの家	障害者支援施設 あかりの家	兵 庫
26067	春田 紗希	はるた さき	社会福祉法人まほろば	三木光司園	兵 庫
26068	藤井 幸子	ふじい さちこ	社会福祉法人 五倫会	姫路暁乃里	兵 庫
26069	岡田 昌人	おかだ まさと	社会福祉法人 アルーラ福祉会	障害者支援施設アルーラ	兵 庫
26070	西川 悟	にしかわ さとる	社会福祉法人 姫路潮会	ぬかちゃん福祉作業所	兵 庫
26073	岩武 毅	いわたけ つよし	社会福祉法人 蓬萊会	障害者支援施設 ゆうあい	山 口
26074	曾利 真弓	そり まゆみ	社会福祉法人 香川県社会福祉事業団	香川県ふじみ園	香 川
26076	浅田 慎児	あさだ しんじ	社会福祉法人 徳島県手をつなぐ育成会	障害者支援施設ルキーナ・うだつ	徳 島
26078	森本 恭世	もりもと やすよ		北九州市発達障害者支援センター「つばさ」	福 岡
26080	田中 一旭	たなか かずてる	社会福祉法人 とんとん	こども発達支援センター もも 認定こども園いちご保育園	大 分
26081	渡辺 香織	わたなべ かおり	特定非営利活動法人さんぼ	こども発達支援センター あ〜く	大 分
26082	越智 芳子	おち よしこ	社会福祉法人 別府発達医療センター	社会福祉法人 別府発達医療センター	大 分
26083	園田 和則	そのだ かずのり	社会福祉法人 大分市福祉会	多機能型事業所「おおいた」	大 分
26086	五十嵐 猛	いがらし たけし	社会福祉法人 萌葱の郷	障害者支援施設 めぶき園	大 分
26087	野上 悦生	のがみ えつお	社会福祉法人 萌葱の郷	障害者支援施設 めぶき園	大 分
26088	山本 良	やまもと りょう	社会福祉法人 つつじヶ丘学園	第二つつじヶ丘学園	熊 本
26092	吉田 美雪	よしだ みゆき	社会福祉法人 南恵会	しえすた・への塾	鹿児島
26093	野平 文香	のびら ふみか	特定非営利活動法人 たけのこキッズ	たけのこキッズ 児童発達支援センター	鹿児島
26094	有木 友紀	ありき ゆき	社会福祉法人 八重山会	第二ときわの家	鹿児島

## 平成27年度 スーパーバイザー養成研修 修了者（H28年12月1日現在）

受講者No	名 前	ふりがな	所属機関	所属（施設名）	県
27002	長谷川秀和	はせがわ ひでかず	株式会社 北海道ケア・サポート	放課後等ディサービス らいとわーくす	北海道
27004	白土 英輝	しらと ひでき	社会福祉法人 実誠会	障害者支援施設 なるみ園	茨 城
27005	井澤 朋子	いざわ ともこ	茨城県立 あすなろの郷	地域生活支援センター	茨 城
27007	入野 和子	いりの かずこ	NPO 法人だいち	ライフステーション樹林	茨 城
27008	吉田 美恵	よしだ みえ	有限会社 友遊舎（就労支援事業所）		茨 城
27010	大内 朝陽	おおうち あさひ	社会福祉法人 茨城補成会	涸沼学園集まれガッツ村	茨 城
27011	岩井 雄希	いわい ゆうき	社会福祉法人 美しの森	障害者支援施設 虹の里	茨 城
27012	北澤 貴子	きたざわ たかこ	茨城県筑西市立養蚕小学校		茨 城
27017	沖田 健	おきた けん	社会福祉法人 けやきの郷	グループホーム 潮寮	埼 玉
27018	釜石 昂洋	かまいし たかひろ	社会福祉法人 敬心福祉会	浦安市障がい者福祉センター	千 葉



受講者No	名 前	ふりがな	所属機関	所属（施設名）	県
27020	鶴沢 敦史	うざわ あつし	社会福祉法人 菜の花会	アーアンドディだいえい	千 葉
27024	羽柴 優美	はしば ゆみ	中野区立療育センター	アポロ園	東 京
27026	西 文子	にし ふみこ	社会福祉法人 同愛会	地域相談支援センター にじ	神奈川
27030	武藤みや子	むとう みやこ	社会福祉法人 同愛会	地域相談支援センター にじ	神奈川
27032	木立 伸也	きだち しんや	富山県発達障害者支援センターあおぞら	富山県高志通園センター	富 山
27037	大滝 健一	おおたき けんいち	社会福祉法人 林檎の里	自閉症支援施設 あおぞら	長 野
27038	武山 弥生	たけやま やよい	発達障害児・者及び家族支援の会	シーズ	長 野
27040	石原 由美	いしはら ゆみ		岐阜県発達障害者支援センター のぞみ	岐 阜
27042	清水 孝幸	しみず たかゆき	社会福祉法人 檜の里	グループホーム あさけホーム	三 重
27043	中村 信二	なかむら しんじ	社会福祉法人 松花苑	みずのき	京 都
27044	大内 望	おおうち のぞみ	社会福祉法人 松花苑	みずのき	京 都
27045	丸田富美代	まるた ふみよ	社会福祉法人 南山城学園	障害者支援施設 翼	京 都
27046	柴田 博史	しばた ひろふみ	大阪市立 田川小学校		大 阪
27049	廣石 俊雄	ひろいし としお	社会福祉法人 阪神福祉事業団	ななくさ育成会	兵 庫
27050	藤井美紀子	ふじい みきこ	兵庫県社会福祉事業団	三木精愛園	兵 庫
27051	尾崎 勇一	おざき ゆういち	社会福祉法人 あかりの家	障害者支援施設 あかりの家	兵 庫
27055	前川 由香	まえかわ ゆか	社会福祉法人 さつき福祉会	琴弾の丘	兵 庫
27059	青山 慎史	あおやま しんじ	広島市発達障害者支援センター		広 島
27060	小柳 拓也	こやなぎ たくや	社会福祉法人 蓬莱会	指定障害者支援施設 ゆうあい	山 口
27061	林 祐樹	はやし ゆうき	医療法人 信和会	大牟田保養院	福 岡
27063	武田 行美	たけだ ゆきみ	社会福祉法人 東ノ原会	桂木とくのみ園	福 岡
27064	岡村 亜紀	おかむら あき	社会福祉法人 葦の家福祉会	障がい福祉サービス事業葦の家	福 岡
27065	中山 孝一	なかやま こういち	社会福祉法人 ことの海会	デイサービスふわり	長 崎
27066	永野 陽介	ながの ようすけ	社会福祉法人 ことの海会	児童発達支援センターふわり久原	長 崎
27080	佐藤 任孝	さとう ひでたか	社会福祉法人 萌葱の郷	大分県発達障がい者支援センター ECOAL	大 分
27081	樋之口貴弘	てのくち たかひろ	社会福祉法人 八重山会	ときわの家	鹿児島
27085	西田美千代	にしだ みちよ	医療法人 親貴会	児童発達支援センター てんがらかん	鹿児島

## < ご 挨拶 >

「日本財団助成 平成 27 年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修」にご参加いただきました皆様、ご支援、ご協力いただきました団体、関係各位の皆様にご心より厚く御礼申し上げます。

尚、事業実施報告書内の画像や文章、情報等を無断で複製・転載・流用・複写等することはご遠慮ください。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修を通して、至らない点が多々あったかと思いますが、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

今後も、発達障害支援スーパーバイザー養成研修に参加してよかったとだけ思うように尽力していきたいと考えております。何かお気づきの点がございましたら、気兼ねなくお申し付けください。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修事務局

近藤 暢秀

日本財団助成 平成 27 年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修

### 事業実施報告書

発行者 全日本自閉症支援者協会  
会長 松上 利男

発行日 平成 28 年 12 月 1 日

事務局 社会福祉法人 萌葱の郷  
〒879-7306 大分県豊後大野市犬飼町下津尾 4 3 5 5 番地 1 0  
TEL. 097-578-0818 FAX. 097-578-0819  
URL:<http://www.moeginosato.net>